

事項一一 日ソ基本条約締結關係

1 条約締結

二七六 一月二日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

撤兵及び石油利権問題等ニ関スルカラハンノ

意見ニツキ訓電ノ件

第一号 極秘

貴電第一二九七号ニ関シ

一撤兵ハ日露交渉成立スル以上事実実施シ得ル時季ニ入レハ出来得ル限速カニ之ヲ実行セントスル我方ノ意思ナルニヨリ今回ノ我提案ニヨリ四月中旬ヨリ一ヶ月以内ニ撤兵ヲ完了スル場合ニモ果シテ全部ノ材料ヲ送還シ得ルヤハ疑問ニシテ或ハ若干遺留ノ已ムヲ得サルモノモアルヘク此等遺留材料ノ処分モ追テ亞港ニ於テ兩國官憲会合ノ際打合ヲ要スヘキ一事項ナルカ何レニスルモ主要ノ問題

キ重要問題ナリトハ信スルコト能ハス此ノ点ヲモ篤ト先方ヘ説明セラレ度シ

二利権問題中油田ノ区域ニ関スル我方提案ハ現存争点ニ対スル双方立場ノ間ニ於ケル公平ナル折衷案ナルカ故ニ「カラハン」カ往電第七三〇号提案ノ第一案ニ同意セル以上ハ今回ノ折衷案ハ当然ノ帰結ニシテ我方ニ於テハ右以上絶対ニ讓歩ノ余地ナキコトヲ先方ニ印象セシムル様致サレ度シ

三無線電信問題ニ就キ所有權ノ所在如何等ノ点ハ即チ後日ノ協定ニ委セントスルモノニシテ又我方ニ於テハ通信ニ関スル先方主權ハ之ヲ尊重スルニ吝ナラサルモ本件後日ノ協定成立ニ到ル迄ノ間モ必要ニ応シ之ヲ使用スルコトハ肝要ノ儀ナルニヨリ右ノ趣旨ニヨリ先方ノ了解ヲ取付クル様致サレ度シ

四尼港事件類似ノ事件ニ対スル「ノート」ノ件ニ関シテハ如何ナル字句ヲ以テスルモ我方ハ之ヲ承諾シ難キニ付「ベッサラビヤ」議定書問題ニ関スル「カラハン」ノ希望ハ特ニ之ヲ容ルルコトトシ其ノ代リ前記尼港事件類似ノ事件ニ対スル「ノート」ノ件ハ先方ニ於テ之ヲ断念ス

一一 日ソ基本条約締結關係 二七七

ハ人員ノ輸送ニ在リ而シテ右人員ニ就テハ一部分ヲ殘留シ主要部分ノミヲ先ツ引揚クルカ如キハ軍隊統率上到底行ハレ難キノミナラス殊ニ砕氷船ノ使用ニハ常ニ多大ノ困難伴フノミナラス或ハ輸送兵員ノ生命ヲ害スルカ如キ危険ナキヲ保シ難キヲ以テ今回ノ撤兵ニ当リ斯ノ如キ輸送方法ヲ試ミルハ到底我方ノ承諾シ得サル儀ナルニ付右ノ趣旨篤ト先方ニ説示セラレ度尚撤兵ニ関スル我提案成立ノ上ハ其細目ニ就テモ何等特ニ難問題有ル次第ニアラスシテ單ニ双方ノ便宜トスル手續方法ヲ取極メムトスル儀ナルニヨリ実況ニ照ラシ亞港ニ於テ協議セシムルヲ適當ト思考シ居ル次第ナリ尚先方ニ於テハ国交回復後日本軍ノ露國領土ニ駐屯スルヲ不合理ナリト云フモ本協約成立ノ上ハ日本軍ハ主權國ノ同意ノ下ニ一定ノ短期間同國領土ニ殘留セムトスルモノナルカ故ニ主權侵害ノ問題ヲ生スヘキ謂ハレナク又何レニスルモ其ノ期間ハの確ニ限定セラレアルモノナルカ故ニ本交渉ノ成否ニモ關係スヘ

ル様説得セラレ度シ

二七七 一月二日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

撤兵問題等ニ関スルカラハントノ交渉ニ関シ

報告ノ件

第一号 極秘

病氣中ノ「カラハン」ハ十二月三十一日夜島田ノ來訪ヲ求メ自分ハ病氣回復次第所謂四問題及撤兵問題ニ付キ更ニ芳沢公使ト意見交換ノ所存ナル所夫レ迄ニ二十九日會議ノ結果ニ付キ東京政府ヨリ何等回訓アリ次第何分ノ回答ヲ得タキ旨ヲ述ヘタルニ付島田ハ二十九日會議ノ模様ハ公使多忙ノ為メ漸ク本三十一日政府ニ電報済ナルカ元來「カ」氏二十九日ノ抗弁タルヤ莫斯科ノ回訓ニ基キテ為サレタルニアラス單ニ「カ」氏一個ノ探リニ過キササルヲ以テ右ニ対シ日本政府ハ果シテ貴下ノ予期スル程深甚ノ考慮ヲ払フヘキヤ又正月ノコトニモアリ爾ク急速ニ回訓ニ接スヘキヤ疑ナキ能ハス「カ」ニシテ真実協約ノ急速成立ヲ希望セラルルニ於テハ須ク日本側案ヲ其儘応諾スルニ如カス日本側案ハ実ニ最後ノ妥協案ナリト答ヘタル処「カ」ハ御尤モナリ然レ

四一七

ト四問題及撤兵ニ関シテハ莫斯科モ自分ト同様ノ考ナルヲ信シテ疑ハス実ハ油田、炭田ノ区域ニ就テハ未タ政府ニ報告シ居ラス今一応抗弁ノ上電報ノ積リナリト謂ヒ尚協約第三案第二案中ニ each Contracting Party トアル所右ハ日本ノ法律ニモ依ル様ニナリ居リ意味ヲ為サル字句ニシテ須ク each ヲ除去スヘキナリ又作業継続ニ関スル「ノート」前文中ニ利権契約締結ニ至ル迄即チ六ヶ月ノ期限トアルハ十一月十日日本側提出案ノ通り単ニ協約成立後六ヶ月トセラレタク右二点ニ関シ更ニ公使ヨリ日本政府ニ追報セラレタシト述ヘタリ

次テ「カ」ハ又々撤兵ノ三ヶ月ハ長キニ過クト難シタルニ付キ島田ハ前日津田大佐、坂田大尉ヨリ委細聞キタル砕氷船大泊ノ航行状態寒中北樺太ニ於ケル兵員移動軍需品輸送ノ困難状態、日本軍ハ露国財産又ハ徵発馬匹等ヲ有シ居ラサルコト等詳細ニ亘リテ懇切ニ説明シタリ

「カ」ハ多大ノ興味ヲ以テ之ヲ聴取シタル上自分ハ砕氷船ヲ買被リ居リ其他万事露西亜式ヲ本位トシテ考ヘ居ル点アルコトヲ發見シ自分トシテ斯ク説明ヲ承リ大ニ諒解スル所アリタルモ如何セン日本側説明ノ通り一々国民ニ説示シ得

ヘキニアラサルヲ以テ露国官憲樹立後尚且ツ三ヶ月モ駐兵セサルヘカラスト謂フカ如キ形トナラヌ様何トカ名案ナキヤト述ヘ島田ヨリ一体貴方ニテハ爾ク容易ニ結氷中露国官憲ヲ樹立シ得ヘシト思考シ居ルヤト反問セルニ「カ」ハ然リ砕氷船「エルマク」ノ如キヲ使用シ時宜ニ依リテハ欧露ヨリ砕氷船ヲ回航シ以テ協約調印ノ上ハ急速準備ヲ整ヘ現場ニ赴カシムル予定ナリト答ヘ更ニ「カ」ハ協約ニシテ仮リニ一月十五日調印セラルトセハ批准交換ノ間約三週間ヲ見積リ調印後直ニ臨時外交代表者交換ノ打合ヲ当地ニ於テ行ヒ協約効力發生前ニ各入国セシメ置キ効力發生ト同時ニ東京ノ露国大使館ハ直ク様勞農代理大使ノ手ニ又在莫斯科日本代理大使ハ莫斯科外務省ヨリ必要ノ家屋ヲ入手スルコトト致シタシ其上早速利権契約、漁業契約、通商条約等ニ関スル交渉ヲ開始スルコトトスヘク自分ハ浦潮經由ニテ四月中一旦莫斯科ニ赴クヘキモ本省ニ止マルコトナク引続キ北京ニ止マルコトナルヘシ撤兵問題ニ関シテハ当大使館ヨリ人ヲ北樺太ニ特派スル考ヘナリト内話シ最後ニ尼港陳謝文反対「ノート」ニ就キ目下書キ方政究中ニテ日本側ニ提出セントスト謂ヒタルニ依リ島田ハ右ハ無益徒勞ニ帰

Contracting Party 之 existing laws of the Country ト訂

スヘキニ付見合セ可然旨並ニ西比利亞出兵ハ日本以外ノ国モ多々アルニ拘ハラス日本ニ対シテ而巳斯ル要求ヲ為スハ不可解ニシテ殊ニ右ハ交渉最後ノ幕ニ至リテ貴方ヨリ持チ出シタル全然約束違ヒノ問題ナルコトヲ指摘シタルニ「カ」ハ苦笑シ唯本件カ芳沢公使説明ノ通り将来ニ惡感ヲ貽スカ如キコトトナリテハ甚タ好マシカラサル次第ハ余モ全然同感ナルヲ以テ斯ルコトナキ様何トカ書キ表ハシ方ナキモノカト苦心シ居ル次第ナリ云々ト語レリ

二七八 一月七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日本側ノ最終妥協案ニ対スルモスクワノ訓令

ニ基ツカラハンノ回答報告ノ件

別電 一月七日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報
第七号

第六号 極秘 (一月七日ハ八日接受)

往電第一二九七号ニ関シ一月六日ノ會議ニ於テ

(一)漁業協約改訂問題(協約案第三条)ニ関シ「カラハン」

ハ十二月二十七日日本側提案ノ内 existing laws of each

一一 日ソ基本条約締結關係 二七八

正セル案文ヲ本使ニ手交シタル上莫斯科ノ訓令ニ依レハ十二月二十七日ノ日本提案ニハ大体ニ於テ異議無シ只一箇所改訂ヲ加フル事トセリ右ハ existing laws of each Contracting Party トアルモ此ノ each ナル語ヲ存スルトキハ日本ノ法律ヲモ考慮ストノ意味トナルモ夫ハ無意味ナリ多分日本側ニ於テモ此ノ語ヲ付加シタルハ何等乎ノ間違ヒナルヘシ之ヲ削除シ existing laws of the Country トスル事ト致度シト述ヘタルヲ以テ本使ハ右ノ existing laws of each Contracting Country ナル文句ハ昨年ノ春ノ貴方提案中ニ在リタルモノヲ引用シタルモノニシテ從テ貴方ニ於テハ異議無キモノト思考スル次第ナリ尚十二月三十日ニハ本問題ニ関シテハ我方ヨリ二案文ヲ提出シタルモノニシテ他ノ一案ニハ斯ノ如キ文句全然無カリシモノナルカ該案ハ如何ト述ヘタルニ「カ」ハ他ノ一案ハ更ニ不可ナリ又締約国ナル語句ハ曾テ我方提案ニ在リタルモノナリトノ事ナルカ或ハ斯ル事モアリタルヤモ知レサレトモ何レニスルモ各締約国ノ法律云々ニテハ意味ヲ為サス之ハ露国ノ法律ヲ考慮シ云々トセラレ差支ナカル

ヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ本問題ニ付テハ更ニ次回會議ニ於テ討議ヲ繼續スル事トスヘシト述ヘ次ノ問題ニ移リタリ

(二) 宣伝禁止問題(協約案第五条)ニ関シ「カラハン」ハ莫斯科政府訓令ニ依レハ十二月二十七日ノ日本側提案ニハ同意スル事ヲ得ス何トナレハ英協約第十六条ハ同協約締結當時ノ特殊事情ニ依リタルモノニシテ今後再ヒ斯ル規定ヲ設クル事無キ次第ナリ

莫斯科ヨリハ十月三十日ノ露国側提案ヲ固執スルカ又ハ右提案ト日本ノ今回ノ提案トヲ折衷スル案ヲ作成スルカ何レニスヘシト訓令シ来レリ依テ余ハ右ニ基キ茲ニ折衷案ヲ作成シタリトテ別電第七号ノ通案文ヲ本使ニ手交シ更ニ語ヲ継キ尤モ此ノ案トテモ之ヲ固執スルニ非ス更ニ修正ヲ加フルモ可ナリ依テ之ニ修正ヲ加フルカ又ハ十月三十日ノ露国側案ヲ採用セラルルカ其何レカラ選ハレタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ唯今貴下所説ノ意味ハ彼ノ英露協約ハ最早廢棄スルモノナルヲ以テ右ニ倣フコトヲ得スト云フモノナリヤト質シタルニ「カ」ハ現英國政府ハ右協約ノ批准奏請ヲ為サストノコトナルヲ以テ該協約ハ

現在ニ於テハ存在セサルモノナリ尤モ將來該協約ヲ部分的ニ基礎トシテ協約ヲ締結スルコトアルヤモ知レサレトモ少クトモ宣伝禁止事項ニ関シテハ之ヲ基礎トセサル意向ナリト答ヘ尚本日ノ我方提案ニ於テ何故ニ貴方提案ノ或ル部分ヲ削除シタルカヲ説明スヘシ元來英露協約第十六条ハ部分ニ依リテハ極メテ広汎ナル解釈ヲ許スノ余地アル処此ノ点ハ將來煩雜ニシテ無益ナル紛糾ヲ生スルノ虞アリ夫ハ自國ノ直接又ハ間接ノ監督下ニ在ル個人及団体ノ行動ヲ抑止スルノ義務ヲ負担スヘシトスル点ナリ勿論各國自身其行動ヲ抑止スヘキハ当然ノ次第ナルカ總テノ個人及団体ノ行動ヲ抑止スヘシトスル時ハ無益ナル幾多ノ國際的紛争ヲ惹起スルニ至ルヘシ蓋シ一國內ニ存在スル個人及団体ハ皆其ノ國ノ直接又ハ間接ノ監督ノ下ニ在ルモノニシテ從テ例ヘハ露國又ハ日本ノ何レカノ地ニ於ケル會合又ハ俱樂部ノ集會ニ於テ他方ノ國ニ對シ反對ノ言論ヲ為シタル者アリタル場合ニハ他方ノ國ハ一方ニ對シテ抗議ヲ提出シ得ルコトナルヘク斯ノ如クンハ無益ノ紛糾ヲ生シ其ノ煩ニ堪ヘサルニ至ルヘシ依テ斯ノ如キ解釈ヲモ入ルルカ如キ点ハ之ヲ削除スルニ如カスト思

考シ削除シタルモノナリ依テ此ノ露国側提案カ又ハ十月三十日露国側提案ノ何レカニ同意アリタク尤モ十月三十日提案ニハ同意困難ナリトセハ本日ノ提案ニ抛ラレタク之ニ對シテハ尚貴見ニ基キ修正ヲ加フルモ可ナリ何レニスルモ本問題ノ如キハ日露ノ間ニ親善關係設定セラルルハ如何様ニモ解決シ得ヘキ問題ニシテ重大問題トハ思考スルヲ得ス斯ノ如キ問題ノ為ニ交渉ヲ遷延セシムルハ好マシカラスト述ヘタルヲ以テ本使ハ然ラハ先般ノ我方提案ニ贊同セラレ差支ナカルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ然

リタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ本問題ニ関スル本日ノ貴方提案ハ更ニ篤ト考究ノ上討議ス可キモ一応兎ニ角政府ニ電報ス可シト述ヘ置ケリ右ノ如キ次第ニテ兎ニ角御意見ヲ承知シタル上再ヒ討議スル方便利ト思考スルニ付何分ノ儀御回訓アリタシ

(三) 「ポーツマス」條約ニ関スル宣言文問題ニ関シ「カラハン」ハ莫斯科ノ回訓ニ依リ日本側案ニテ差支ヘナシト述ヘタリ

四) 尼港事件類似事件ニ関スル反對「ノート」ニ関シ「カラハン」ハ我方トシテハ今回ノ日本側尼港事件陳謝文案ニハ異議ナキ処日本側ヨリ貰受ケ度キ尼港事件類似事件ニ関スル反對「ノート」ニ付テハ今回我方ニ於テ二案ヲ作成シタルニ依リ本使ノ御考慮ヲ煩ハシ度シトテ二個ノ案文ヲ本使ニ手交セリ(右二個ノ案文郵送ス)依テ本使ハ尼港事件類似事件ニ関スル反對「ノート」ノ件ニ関シテハ先月下旬ノ會議ニ於テ貴下カ縷々説明セラレタル所ヲ詳細政府ニ報告シ考慮ヲ求メ置ケルニ今回政府ヨリ簡單ニ本件ハ如何ナル文句ヲ以テスルヲ問ハス斷シテ承諾シ難シ但シ其ノ代リニ「ベッサラビア」議定書ニ関スル貴

案ニ贊同セラレ差支ナカルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ然シナカラ我方トシテハ「政府ノ直接又ハ間接ノ監督ノ下ニ在ル個人又ハ団体云々」ノ点ヲ最モ不可トスルモノニシテ此ノ規定ヲ嚴格ニ解釈スレハ例ヘハ浦潮ニ於テ日本ニ對シ反對ノ言論ヲ為シタルトキハ日本ハ本条文ニ依リ我官憲ノ措置ヲ要求シ来ルコトトナルヘク又我方ヨリ謂ヘハ例ヘハ北京ニ在ル日本ノ機關誌「チャイナ・スタンダード」カ露國ト支那トノ間ノ友誼關係ヲ妨碍スルカ如キ記事ヲ掲載シタル場合ニハ直ニ日本側ニ抗議ヲ提出スルコトトナルヘク斯ノ如クンハ無益ノ紛糾ヲ生シ其ノ煩ニ堪ヘサルニ至ル可シ此点ハ貴方ニ於テモ篤ト御諒解ア

方ノ希望ニ大体応スル事トシテ可ナル旨申来レリ即チ尼港事件類似事件ニ関スル反対「ノート」ハ到底考慮ノ余地ナキ次第ナルヲ以テ右様御承知アリ度シト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ其旨ヲ莫斯科ニ報告スヘシト述ヘタリ

(四)「ベッサラビア」議定書批准問題ニ関シ本使ヨリ尼港事件反対「ノート」ハ如何ナル文字ヲ以テスルモ断シテ承知シ難シトテ先方提出ノ二案共即座ニ撃退シタル上「ベッサラビア」議定書問題ニ関シテハ大体貴方希望ニ応シ余ヨリ貴下ニ私信ヲ送付スル事トシ差支ヘナキ旨政府ヨリ申来レリト述ヘタルニ「カ」ハ右ハ如何ナル内容ノモノナリヤト質シタルヲ以テ本使ハ右ハ曾テ貴下ニ於テ希望セラレタル通貴下ヨリ我方ニ対スル照会ノ形式ヲ以テ露国ハ日本ノ「ベッサラビア」議定書批准ヲ喜ハサル旨ヲ記載スルト共ニ右ニ対スル我方ノ態度ヲ問合スル私信ヲ余ニ送付シ余ヨリ之ニ対シ余カ前回會議ニ於テ口頭ヲ以テ声明シタル趣旨ヲ認メタル私信ヲ貴下ニ送付スルモノナリ何レモ非公式ニテ秘密トスルモノナリト答ヘタルニ「カ」ハ然ラハ貴公使ヨリ欧州諸国カ批准セサル間ハ批准ヲ奏請セサルヘシト云フ内容ノ私信ヲ交付セラルル

ル案文ヲ提出シタル上

(イ)十二月二十七日日本側提案ニハ意外ノ箇所アリ即チ新タニ利権契約締結ニ至ル迄ノ間即チ六ヶ月ノ期間云々ノ文句挿入シアル処右ハ十一月十日ノ日本側提案ニハ無カリシモノナリ此点ハ十一月十日ノ提案通リト為シ置カレ度シ我方トシテハ此点ハ重キヲ置ケル点ニシテ作業ノ継続ハ六ヶ月ナル期限ヲ基礎トシテ始メテ許可シ得ルモノナリ而モ日本側ハ一旦之ニ同意シ置キナカラ更ニ修正ヲ加フルハ不可ナリスノ如クンハ談判ノ進捗ハ為ニ意外ノ障害ヲ受クル事トナルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ本交渉モ最近始メテ本舞台ニ入レルノ觀アルモ先頃迄ハ未タ見当付カサリシモノニシテ當時ニ在リテハ日露双方ヨリ随意各種ノ試案ヲ提出シタル次第ニシテ必スシモスル試案ニ束縛セラルヘキニ非ス勿論一旦提出シタル案文ヲ無闇ニ変更スルハ面白カラサルモ夫レトテ之ハ自ラ程度ノ問題ナリ貴方ニ於テモ曾テ協約第六條ニ「政府」ナル文句ヲ誤リ挿入シ本使ノ注意ニ依リ後ニ撤回シタル例モアルニ非サヤト詰リタルニ「カ」ハ実ハ此点ハ十一月十日ノ貴方提案ニテ既ニ決定セルモノトシテ莫斯科ニ報告済ノ

趣旨ト諒解スル処欧州諸国ト云フモ英仏ハ既ニ批准ヲ終リ残レルモノハ伊国一国ノミナリ之ニ対シテ欧州諸国ト書クハ意味ヲ為ササルヘク去リトテ伊国ト明記スルモ具合悪カルヘキニ依リ寧ロ單ニ日本政府ハ批准奏請ノ意思ナシト認ムルコト出来間敷ヤト述ヘタルニ依リ本使ハ如何ニ秘密ノ私信ナレハトテ無條件ニ批准ヲ奏請セサルヘキ旨ヲ認ムルヲ得ス我方トシテハ伊国ト明記スルコトヲ得サルニ依リ体裁上欧州諸国ナル抽象的文句ヲ用ヒタルモノナルカ曾テ貴下ノ説明セラレタル処ニ依レハ伊国ハ批准セサルコトニ約束成立シ居ルモノナル由ナル処伊国ニシテ批准セサレハ日本モ批准セサルコトナルモノナリト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ兎ニ角次回會議迄ニ案文ヲ作成シ提出アリタク右ヲ莫斯科ニ報告スルコトト致シタシト述ヘ本使之ヲ承諾セリ

(ウ)作業継続ニ関スル公文案ニ関シ「カラハン」ハ本公文案ハ斯ノ如ク改正セラレ度シトテ十二月二十七日ノ我方提案ヨリ until the conclusion of the Concession Contracts stipulated in protocol (B) signed this day, that is to say, ノ文句ヲ削リ且ツ無線電信ニ関スル第四項ヲ削リタ

次第ナルヲ以テ強イテ修正方主張セラレサラン事ヲ望ムト述ヘタルヲ以テ本使ハ利権契約ヲ六ヶ月ノ過渡期間内ニ協定スルノ必要アル事ニハ貴下ハ異存無カルヘク此処ニハ單ニ右利権契約締結ニ至ル迄作業ノ継続ヲ許ス事ニセル次第ニシテ其ノ趣旨ニハ異存無カルヘク異存無クンハ提案ノ前後ノ如キ問題ニ拘泥スル必要無カルヘシ此点ハ貴方ニ於テモ反対セラルルモ我方ニ於テモ飽迄主張セサルヘカラス元来我方トシテハ利権契約ノ締結迄ノ規定シ置キ六ヶ月ナル数字ハ之ヲ表示スルコトヲ欲セサルナリ何トナレハ若シ六ヶ月以内ニ利権契約ノ締結行ハレサル場合ニハ事業家ハ困難ナル立場ニ陥ルコトアレハナリ此点ハ貴方ニ於テモ充分御了解シ得ヘシト信ス貴方ニ於テハ期限ヲ付セサレハ不確定ニシテ不安ナリト事ニテ同意セラレス論争ヲ重ネル事トナリタルモノナルカ我方ニ於テハ最後ニ至リ利権契約締結迄即チ議定書(B)ノ効力發生ノ時ヨリ六ヶ月トセン事ヲ提案シタルモノナリ之ニハ六ヶ月ナル文字モ入り居レルニ付貴方ニ於テ異存ヲ挟ムヘキ余地無カルヘシ本件ハ我方ニ於テモ重要視スル処ナルヲ以テ其点篤ト御考慮アリタシト述ヘタルニ「カ」

ハ我方トシテハ利権契約締結迄作業ノ繼續ヲ許ス事トスルトキハ何時迄モ利権契約無クシテ作業ヲ繼續スルノ舉ニ出テラルル事アルヤヲ虞ルルモノナリ元來事業ノ保存繼續許可問題ハ相当難關ナリシヲ莫斯科ニ於テ關係各省協議ノ結果期限ヲ付スル条件ノ下ニ暫ク許可スル事ナリタルモノニシテ此ノ期限ハ主要ナル条件ナリ然ルニ此点ヲ修正セントスルハ根本問題ニ動搖ヲ来サシムルモノナルヲ以テ莫斯科ニ於テモ右修正ニハ到底同意セサルヘシ既ニ利権契約ハ議定書(B)ノ効力発生ノ時ヨリ六ヶ月以内ニ締結セラルヘキ事ハ議定書(B)ノ冒頭ニ明記シアル次第ナルヲ以テ夫レニテ充分ナラスヤト述フル処アリ本使ハ本問題ニ關シテハ兎ニ角政府ニ報告スル事トシ追テ討議ノ事トスヘシト述ヘタリ

(d) 次キニ無線問題ニ關シ本使ハ本日ノ貴方提案ニハ何等本問題ニ關スル規定無キモ右ハ將來ノ協定ニ讓ルノ意味ナリヤト質シタルニ「カ」ハ否本問題ニ關シテハ貴方ヨリ何等御説明ノ次第アルヘシト思考シ削除シ置ケルモノナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ前回會議ノ經過ヲ報告シ置キタルニ今回政府ヨリ通信ニ關スル露國ノ主權ヲ尊重ス

ナシトノコトナリ詳細ハ次回ニ於テ説明スヘシト述ヘタルニ「カ」ハ本問題ニ關シテハ我方ニ於テモ種々研究シ目下「ハバロフスク」ヨリノ情報ヲ俟チツツアル次第ナルカ莫斯科ヨリノ通報ニ依レハ日本側案ハ相当根拠アリ決シテ基礎薄弱ナルモノニアラサルカ如ク日本側案トノ間ニ妥協点ヲ見出ス事困難ナラサルニ至レリ撤兵問題モ最早難關ヲ經過シタルモノト認ムト述ヘタリ

(ハ) 利権問題ニ關シ「カラハン」ハ本日莫斯科ノ訓令トシテ申述フル事ヲ得ルモノハ僅カニ油田問題ノミナルカ莫斯科ハ「ベッサラビア」問題等ニシテ露國側希望通リトナルニ於テハ油田ハ四割五分ヲ許スル事ニ同意ストノコトナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ油田区域ニ關シテハ更ニ五分讓歩セラレタシ客年十一月二十日本使カ政府ノ訓令ニ基キ貴下ト私の会见ヲ為シタル際ニ余ヨリ申出タル妥協案作成ノ主義ニ貴下ハ同意セラレタル次第ニシテ依テ我方ニ於テハ貴方主張ノ四割、我方主張ノ六割トヲ折衷シテ五割トナセルモノニシテ之ハ妥協ノ精神ニ合致セルモノナリ双方ヨリ歩ミ寄ルヘキ程度ニ大差アリテハ妥協トハ云フ可カラス貴方ノ提案四割五分ニテハ貴方ハ僅カ

ヘク無線電信問題ハ後日ノ協定ニ讓ルヘキニ依リ其協定ニ至ル迄ノ間ハ必要ニ応シテ使用ヲ許可サレタキ希望ナリ要スルニ無線ノ使用カ肝心ノ問題ニシテ使用ニ異存ナクハ日本政府ハ満足スヘシト述ヘタルニ「カ」ハ無線電信ハ彼ノ地方ニ於テ必要ナルコトハ能ク諒解セルニ付此ノ問題ニ付テハ成ルヘク貴方希望ニ応シタキ意向ナルカ去リトテ直ニ日本側案ニハ同意スルコトヲ得ス蓋シ我カ領土内ニ外国無線電信ノ存在スルコトハ之ヲ許容スルコトヲ得ス然ルニ日本側案ニ依レハ露國領土内ニ外国無線カ存在シ得ルヤモ知レストノ疑問ノ余地アリ然レトモ又同地方ハ遠隔ノ地ナルヲ以テ直ニ露國官憲ヲ樹立スルコトモ不可能ナル次第ナリ何レニスルモ何トカ適當ノ考案ヲ廻ラスコトトスヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴方對案ノ提出ヲ待チテ論議スルコトトスヘシト述ヘタリ

(e) 撤兵問題ニ關シ「カラハン」ハ何等日本政府ヨリ申來レル次第モアリタリヤト述ヘタルヲ以テ本使ハ本問題ニ關シテハ日本政府ヨリ電訓到着シ居レルモ右ハ一言ニシテ言ヘハ先般提示シタル決定ヲ詳細説明シタルモノニシテ貴下カ述ヘラレタルカ如キ意見ノ如キハ到底実行ノ余地

ニ五分ノ讓歩ナルニ我方ニ於テハ一割五分ノ讓歩ヲ為サル可カラス斯クテハ公平ナル妥協ト云フ可カラス依テ我方提案五割ニ同意アリタク日本政府ハ之以上ハ斷シテ讓歩シ得サル旨ノ嚴重ナル訓令ニ接シ居レル処ナリト述ヘタルニ「カ」ハ我方ニ於テモ嚴重ナル訓令ニ接シ居レル次第ナルカ何レ篤ト協議スル事ト致シタシト述ヘタリ以上ノ討議ヲ終リ「カラハン」ハ殘ル難關ハ油田ト炭田トノ區域ナルカ兎ニ角引続キ商議スル事トスヘク尚會議モ漸次終リニ近ツケルモノト認ムルヲ以テ纏リタル問題ヨリ「イニシアル」シ置キ確定シ置ク事ト致シタク尚一言致シ度キハ昨年八月二十九日ノ現業調査ハ議定書(B)又ハ作業繼續ニ關スル公文ノ付屬ト為スノ必要アル可シト思考スト述ヘタルヲ以テ本使ハ其点ハ考究シ置クヘシト答ヘ置ケリ次回ヲ翌日開催ノ事ニ打合せ散会セリ

(別電)

一月七日在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第七号
宣伝禁止条項ニ關シカラハンノ作成セル案文

第七号 別電

The Two High Contracting Parties solemnly

affirm their desire and intention to live in peace and amity with each other, scrupulously to respect the undoubted right of a state to order its own life within its own jurisdiction in its own way, to refrain from any act overt or covert liable in any way whatsoever to endanger the tranquillity or prosperity of any part of the territories of Japan or the Union of Soviet Socialist Republics.

In particular, and with this end in view, the Two High Contracting Parties shall not allow the presence in the territories under their respective control of such organisations, groups or their agents as pretend to be the government of the other Party.

二七九 一月八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日本側提案ヲメグリカラハント再度討議ノ件

第一二二号 極秘 (一月九日接受)

往電第六号ニ関シ

一月七日ノ會議ニ於テ

(一) 漁業協約改訂問題ニ関シ本使ハ今回更ニ日本政府ヨリ電訓ノ次第アリトテ貴電第五号(省略)御来示ノ趣旨ヲ然ルヘク敷衍説明シタル上依テ我方提案ニ同意アリタシト述ヘタルニ「カラハン」ハ御説明ヲ聞キ尚更同意シ得サルコトトナレリ即チ日本ハ露国ノ領海内ニ於テ事實上日本ノ法律ヲ活用セントスルモノニシテ右ハ漁業ノ「コンセンション」ヲ得ルト同様ノ結果トナルヘク斯ノ如キハ支那ナラハ兎ニ角露国トシテハ到底承諾スルコトヲ得ス尤モ利権問題ニ於テハ課税免除等ノ規定ヲ設ケタルモ右ハ露国ノ国内法ノ適用ノ有無ノ問題ニ過キスシテ日本ノ法律ノ適用ノ有無ノ問題ニハアラス然ルニ本問題ニアリテハ日本ノ法律ノ適用如何ノ問題ニシテ之ニハ到底承諾スルヲ得ス併シ乍ラ露国トシテハ單純ニ露国領海内ノ漁業ナルヲ以テ日本ノ漁業家ノ利益ヲ無視セントスルノ意思ハ毫モ有セサルコト勿論ナリ日本ノ漁業ニシテ繁昌セハ露国側トシテモ收入増加スル次第ニシテ我方トシテハ国交回復セハ日本ト親善關係ニ入ルモノナルヲ以テ本問題ニ對シテモ真面目ナル態度ヲ持スルコト当然ニシテ此点ハ未タ国交關係存在セサル現在ニアリテモ日本漁業家力満足

シテ業務ニ従事シ居ルノ事實ヨリシテモ窺フコトヲ得ヘシ若シ惡意ヲ以テセハ仮令如何ナル規定アルモ之ヲ妨害スルコト易々タルモノナリ之ヲ要スルニ我方トシテハ日本側要求ニハ主權ノ問題トシテ承諾シ難キモノナルコトヲ御諒解アリタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ勿論我方ニ於テモ露国カ日本人ニ對シ惡意ヲ有スルモノトハ思考セス然レ共貴下モ縷々述ヘラルル通り労働露国ノ法制ハ其根本ノ建前ニ於テ他ノ諸外国ト異ル所アリ從テ例ヘハ資本家の企業ニ對シテハ課税比較的酷ナリトカ又ハ労働者ノ国籍制限嚴重ナリトカノ事實アリテ之等漁業家ノ利益ニ影響スル所大ナルモノアルヘシ右ハ勿論國家制度ノ根本的相違ヨリ來ル必然的結果ニシテ已ムヲ得スト謂ハルレハ夫レ迄ナレトモ已ニ漁業ヲ許可セラルル以上ハ成ルヘク其便益ヲ計ルコトトスルコト本來ノ趣旨ニモ合致スヘシ我方トシテハ一ニ漁業家ノ利益保護ヲ目的トシテ協約ノ改定ニ方リテハ日本ノ法律ヲモ斟酌アリタキ旨ヲ要求スルモノニシテ決シテ露国領土内ニ於テ日本ノ法律ヲ振回ハサントスル意味ニアラス依テ我方提案ニ同意アリタシ尚十二月二十七日ニ提出シタル他ノ一案ハ各締約國云

一一 日ソ基本条約締結關係 二七九

々ノ文句ヲ除去シ新事態ヲ考慮シ云々トナリ居レル処右規定ノ趣旨ハ先刻來ノ余ノ説明ニテ諒解セラレタル処ナルヘク依テ該案ノ採用方モ考慮アリタシト述ヘタルニ「カ」ハ当初我方案ニ於テハ「露國法制並ニ新事態ニ對シテ」トナリ居レルモノニシテ我方案ト日本側提案トノ間ニハ著シキ差違アリ旁々該日本側案ニハ同意シ得サル次第ナルモ兎ニ角此種ノ問題ハ將來漁業協約改定ノ際ノ論議ニ譲リテ十分ナルヘク此際喧シク論議ヲ重ヌル必要ナカルヘシ依テ露國側修正案ニ同意アリタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ露國ハ日本ト親善關係ニ入ルモノナルヲ以テ云々トノコトナルモ單ニ親善關係ニ入ルノ故ヲ以テ詳細ナル規定ハ不必要ナリト謂ハハ列國間ノ詳細ナル通商條約ノ規定モ皆其必要ナキ理ナリ又協約改訂ノ際ニ詳細論議セラルヘケレハ此際論議ヲ重ヌルノ必要ナカルヘシトノ事ナルモ本基本協約ハ將來協約改訂ノ基礎トナルモノナルヲ以テ何等此内ニ漁業家保護ノ規定ヲ設ケ置クコト必要ナル次第ナリト述ヘタルニ「カ」ハ將來ノ協約改訂ニ於テ漁業家ノ利益カ充分保護セラルヘキハ疑フノ余地ナキ次第ナルモ強ヒテノ御要求ナルヲ以テ何等貴公使

ニ於テ漁業家保護ノ規定ヲ考案セラルルニ於テハ之ヲ考慮スルコトトスヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ然ラハ何等考案スルコトトスヘキ旨答ヘタリ

(二)作業継続ノ公文案ニ関シ本使ハ昨日ノ會議ニ於テ説明セルカ如ク日本政府要求ノ主眼点ハ利權契約締結ニ至ル迄ハ作業ヲ継続セシメサルヘカラストスル点ニシテ此趣旨ヲ公文中ニ規定セントスルモノナル処之ニ對シ貴方ニ於テハ作業継続期間ハ之ヲ六ヶ月ニ限定スヘク利權契約モ六ヶ月以内ニ締結セラルヘキモノナルヲ以テ之ニテ可ナルヘシトノコトナルモ既ニ貴方ニ於テモ六ヶ月間内ニ契約ヲ締結スルコトニ異議ナキニ於テハ其旨ヲ作業継続ノ公文中ニ繰返シ記載スルニ異存無カルヘク從テ右ニ同意アリタシト述ヘタルニ「カ」ハ前回會議ニ於ケルト同様日本側ハ一旦確定シタル問題ヲ再ヒ蒸シ返スモノナリトテ頻リニ不必要ヲ唱ヘ若シ日本側ニ於テ後戻リヲ為サントスルニ於テハ我方ニ於テモ討議ヲ遣リ直シ度キ問題多アル次第ナルモ斯ノ如キハ徒ラニ談判ヲ遷延セシムルニ依リ避クルコトト致シ度ク此点日本政府ニ傳達方希望スト述ヘタルカ次テ「カ」ハ自分一個ノ私見ナリトテ別

ニアラサルヲ以テ何トカナルヘク問題トシテ貽レルハ油田問題ノ如キモ已ニ論議ヲシ尽シタルヲ以テ之等ハ結局莫斯科ニ突キ付ケ其裁決ヲ俟ツヨリ外ナカルヘシト述ヘ居レリ翌日次回開催ノコトニ打合せ散会セリ

編註 一月八日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一三三號次ノ通り“However not in any way later than for six months”

二八〇 一月九日 在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

撤兵ニ関スル条文案作成ソノ他ノ件ニ関スル

折衝ニツキ報告ノ件

第一六号 極秘

(一月十日接受)

往電第一二二號ニ関シ

一月八日ノ會議ニ於テ

(一)撤兵問題ニ関シ「カラハン」ハ速ニ条文案ヲ作成シ以テ問題ヲ確定致シタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ撤兵問題ニ関スル日本政府ノ決定ハ曩ニ説明シ且ツ為念仏文ニ認メ交付シ置キタル通ナルカ貴方ニ於テハ既ニ是レニ大体同意セラレタルモノナルヲ以テ条文案ノ作成ト云フモ要ス

一一 日ソ基本条約締結關係 二八〇

(編註) 電第一三三號ノ通りノ英文ヲ本使ニ手交シ that is to say ノ箇所ヲ斯クノ如ク規定シテハ如何兎ニ角本問題ハ北京ニ於テ何トカ妥協案ヲ發見シタル上各自政府ニ稟請スルコトニ致シタシト述ヘタリ

(三)撤兵問題ニ関シ「カラハン」ハ撤兵ニ関スル条文案ヲ作成提出アリタシ即チ例ヘハ議定書(A)ノ撤兵ニ関スル条文案ヲ基礎トシテ之ニ最近ノ日本側新訓令ニ基キ期限場所等ノ規定ヲ付加スル等ノ方法ニ依リ条文案ヲ作成アリタシ我方ニ於テモ日本側今回ノ提案ノ理由事情等ハ十分諒解シタルヲ以テ最早此点ニ付テハ此上論議ノ必要ナシト思考ス依テ殘ル所ハ条文案ノ規定方如何ノ問題ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ先方ノ速カナル諒解ニ對シテ満足ノ意ヲ表シ早速条文案ノ作成ニ着手スヘキ旨ヲ答ヘタリ

(四)「ベッサラビア」議定書批准問題ニ関シ本使前回會議ニ於テ約束シ置キタル私信案ハ未タ作成ヲ了ハラサルモノ兩日中ニ提示ノ運ヒニ至ルヘシ貴方ニ於テ作成セラルルモ喜ンテ拜見スヘシト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ我方ニ於テモ亦案文案ヲ作成スヘシト述ヘタリ

尚終リニ「カ」ハ漁業問題、宣伝禁止問題ハ左シテ大問題

ルニ如上ノ我方決定ヲ条文案ノ形ニ書入ルルニ外ナラス唯我方決定ニハ何月中旬ナル文句ヲ使用シアルニ依リ条文案ニ確定スル際ニハ此点ヲ何月何日ト明定スルノ必要アルノミナリ併シナカラ爰ニ注意スヘキハ我方決定ハ協約ノ効力カ二月中旬迄ニ發生スルコトヲ前提トスル点ナリ尤モ撤兵問題ノ如キモ既ニ貴方ニ於テ我方決定ノ趣旨ニ同意セラレタル次第ナルヲ以テ數日中ニ条文案ヲ確定スルコト困難ナラサルヘク油田問題、炭田問題等主要問題ニ関シテモ至急(脱)ニ於テ我方要求ニ応セラルルコトトシ且其他ノ問題モ最早多クノ日時ヲ要セスシテ妥協ヲ見ルニ至ラハ爰ニ會議ハ終了ヲ告クヘク二月中旬迄ニ協約ノ効力ヲ發生セシムルコト不可能ニハ非サルヘキニ由リ撤兵モ我方決定通り取運フコトヲ得ヘシト述ヘタルニ「カ」ハ兎ニ角撤兵ニ関スル日本側決定ノ趣旨ニ基キ条文案ヲ作成シタリト述ヘタル上別電第一七號ノ通り条文案ヲ提出シ冒頭ニ氣候云々ト書キタルハ單ニ自國々民ニ對スル体裁上ノ必要ヨリナリ又五月一日迄トシタルハ労働關係當局ノ意見ニ依ルモノナルモ此点ニ付テハ更ニ協議ノ方法モアルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ五月一日ト云フカ如

四二九

キ期限ニ対シテハ到底同意スルコトヲ得サル旨ヲ述ヘ置キタリ就テハ撤兵ニ関スル条文御決定ノ上御電訓ヲ請フ

(二) 議定書(B)ニ関シ「カラハン」ハ議定書(B)ノ冒頭ニハ利権契約ハ議定書(B)ノ効力発生後六ヶ月内ニ締結セラルヘシトアル処撤兵ニシテ協約ノ効力発生後三ヶ月ニテ実行セラルコトナラハ北樺太ニ於ケル露国行政権ノ樹立モ從テ協約ノ効力発生ヨリ三ヶ月後トナルヘキ処然ル場合ニハ事實上利権契約締結ノ為ニハ其時ヨリ三ヶ月ヲ剩スノミトナルヘシ然ルニ露国トシテハ長年月ノ間ニ北樺太ノ事情ニ通セサルニ依リ利権契約締結ノ為ニハ利権ノ状態ヲ現場ニ付キテ調査スルニハ三四ヶ月ヲ要スヘシ若シ日本軍ノ撤退及露国行政権ノ樹立ニシテ予定通り五月一日迄ニ終了スルニ於テハ可ナルモ万一一不可抗力ノ為メ多少ノ遅延ヲ来ス場合ニ於テハ露国官憲ノ北樺太ニ於ケル利権ノ実地調査ヲ予定ノ期限内ニ終ルコトヲ得サルヤモ計リ難キニ依リ之ニ備フル為議定書(B)ノ全文ノ終リニ數行ノ規定ヲ追加スルコトト致度シト述ヘ別電第一八号ノ案文ヲ提出セリ依テ本使ハ撤兵期限ヲ五月一日トスルコトニ応シ難キ点ハ既ニ述ヘタル通ナルカ本件貴方提案

ノ趣旨ニハ理由アリト思考ス然シナカラ貴方ニ於テ此点ニ此種ノ修正ヲ加ヘントスルニ於テハ我方ニ於テモ之ニ伴ヒ作業継続ニ関スル公文ノ期限ノ点ニ修正ヲ加フルヲ必要トスル次第ナリト述ヘ該問題ノ討議ニ入レリ

(三) 作業継続ニ関スル公文ニ関シ本使ハ利権契約締結期限ニ関スル露国側修正ニ伴ヒ我方ニ於テモ作業継続ノ期限ニ修正ヲ加フルノ必要アリ即チ利権契約ノ締結ハ場合ニ依リテハ議定書(B)ノ効力発生ノ時ヨリ六ヶ月以後トナルコトアルヘキコトヲ条文ニ予想シ置キナカラ作業ノ継続期限ハ之ヲ六ヶ月ニ限定スルトキハ其ノ所ニ齟齬ヲ生スルニ依リ之ヲ調整スルノ要アリト述ヘタルニ「カ」ハ其ノ点ハ御尤モノ次第ナリ実ハ此点ニ関シテハ其ノ後莫斯科ヨリ訓令アリ作業継続ノ期限ニ関スル点ニ付テハ十二月二十七日ノ日本側提案ニ応諾シテ可ナル旨申来レリ即チ「(脱) 契約締結迄」ナル文字ヲ存置スルコトニ異議ナキ次第ナリト述ヘタリ

(四) 油田区域及炭田区域ノ問題ニ関シ本使ハ速ニ我方要求ニ応スル様莫斯科ニ督促セラレタシト述ヘタルニ「カ」ハ油田区域ニ関シテハ莫斯科ヨリ四割五分ノコトニ既ニ回

訓アリタル処ナリ炭田区域問題ハ実ハ未タ莫斯科ニ報告シアラス是レハ他ノ問題解決シタル上尼港事件類似事件ニ関スル反対公文ト共ニ莫斯科ニ提出シ其ノ決裁ヲ仰ク所存ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ尼港事件類似事件ニ関スル反対公文ノ件ハ如何ナル形式如何ナル文句ヲ以テスルモ我方ノ絶対ニ反対スルモノニシテ其ノ代リニ「ベッサラビア」議定書批准ニ関シ私信ヲ交付スルコトニ特ニ承諾シタル次第ハ既ニ縷々説明ノ通りニシテ今更本件反對公文ニ未練ヲ残サルルカ如キハ意外トスル所ナリト述ヘタルニ「カ」ハ日本側ニ於テ絶対ニ反対セラルル決意ノ程ハ十分了解シ居レリ依テ之ヲ審議セントスル次第第二ハアラス唯莫斯科ニ報告シ其最後ノ決裁ヲ仰カムトスルノ意味ナリ何故ニ炭田問題ト本件反對公文問題トヲ他ノ問題ノ解決後莫斯科ニ報告セムトスルノ所存ナリヤト言ヘハ右ハ現在之ヲ報告スルモ益ナキニ依リ他ノ諸問題ノ全部解決スルヲ俟テ莫斯科ニ報告セムトスルモノナリ依テ成ルヘク速ニ他ノ問題ヲ取纏メタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ油田炭田共ニ我方トシテハ到底応諾シ難キ旨ヲ述ヘ置キタリ

(五) 漁業協約及宣伝問題ニ関シ「カラハン」ハ成ルヘク速ニ且出来得ヘクムハ本日中ニテモ解決致シタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ右ニ問題ハ目下政府ニ請訓中ナルヲ以テ數日中ニ回訓到着スヘキ旨ヲ答ヘタリ

(六) 次ニ「カラハン」ハ協約案ノ各部ニ就キ氣付キタル所ヨリ「レダクシヨ」ヲ行ヒタシトテ左ノ通り述ヘタリ

(イ) 協約ノ名称ハ少シ長過キル嫌ナキヤ The Basic Convention between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics トシテハ如何ナリヤ

(ロ) 右ニ対シ本使ハ考慮スヘキ旨ヲ答ヘタリ

(四) 協約案第四条(通商条約問題)ノ二項ノ in accordance with the laws of the country ノ句ヲ同項ノ初ヨリ七字目ノ shall 前ニ入レタシ右ハ該文句ヲ同項全項ニ係ラセムカ為ナリト述ヘタルニ付本使ハ從來ノ儘ニテモ此句ハ同項全体ニ係ルモノナルヲ以テ其儘ニテ可ナルヘシト述ヘタル処「カ」ハ然ラハ夫レニテ差支ナシト答ヘタリ

(イ) 議定書(A)第一条(大使館領事館問題)三項 all the facilities in its power and reasonable facilities

修正シタシト述ヘタリ

(二) 議定書(B)ノ第一条(油田区域問題)ノ checker board squares of not less than fifteen desiatines ノ箇所ヲ checker board squares of from fifteen to forty desiatines ト修正セラレタシ(之ニ対シ本使ハ同意セリ)

(三) 議定書(B)ノ七条(課税免除問題)

shall not be subjected to any such taxation トノ間ニ special ナル語ヲ挿入致シ度シ

(四) 「ポーツマス」条約ニ關スル宣言書ハ貴公使宛ノ手紙ノ形式トナリ居リ之ニ対シテハ貴公使ヨリ返事ヲ必要トスル処之ヲ改メ露国側ノ一方の宣言ノ形式トシ文章モ第三人称ヲ使用スルコトト致度シ(之ニ対シ本使ハ自分限リトシテハ異存ナキ旨ヲ答ヘタリ)

(五) 尚叙上ノ諸問題ノ討議ニ當リテ「カ」ハ常ニ急速ニ協約ヲ取纏メ度キ口吻ヲ漏シタルカ更ニ終リニ臨ミ「カ」ハ既ニ意見ノ一致ヲ見タル諸問題ハ速ニ条文ヲ確定シ置キ調印ノ準備ヲ致度キ旨ヲ述ヘ且ツ余ハ既ニ莫斯科中央執行委員会ヨリ委任狀ノ送付ヲ受ケタリ調印後日本側ノ批准ヲ得ル迄ハ幾何ノ日數ヲ要スヘキヤ枢密院ハ容易ニ同

意ヲ与フヘキヤ我方トシテハ調印後協約原本ヲ莫斯科ニ送付スルニ二週間ヲ要スルヲ以テ協約原本ハ「タイプライター」ヲ以テ作成シ速ニ調印ヲ了シ直ニ莫斯科ニ「クーリエ」ヲ以テ送付致度キ所存ナリ等述ヘ居レリ次回ヲ翌日開催ノコトトシ散会セルモ以上各項ニ対シ御意見ノ次第至急御電示ヲ請フ

二八一 一月九日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

油田区域ニ關シカラハンノ讓歩ナキ場合會談

ヲ決裂セシメテ差支ナキヤ請訓ノ件

第二〇号 極秘 (一月十日接受)

往電第一六号ニ關シ

「ドウエ」炭坑ニ關シテハ實ハ讓歩ノ御訓令ニハ夙ニ接シ居レル次第ナルカ我方ノ讓歩スヘキモノハ露国側ヲシテ讓歩セシムルモノニ比較セハ遙カニ少数ナルヲ以テ出来得ル限リ「ドウエ」炭坑ノ問題ヲ引摺リ置クコト得策ナルヲ認メ今日モ猶要求ヲ繼續シ居レル次第ナルカ愈々最後ニ油田問題ト炭田問題ノ二問題ノミ残レル場合ニハ露国側トシテハ或ハ右ノ内ノ一問題ハ我方要求ニ応スルヤモ測リ難キ処

第二一号 至急極秘 (一月十一日接受)

往電第一六号ニ關シ一月九日ノ會議ニ於テ

(一) 無線電信問題ニ關シ「カラハン」ハ十二月二十七日日本側ヨリ提出セル作業繼續ニ關スル公文案ノ内第四条(無線電信關係)ヲ “the question of operating the Japanese wireless stations situated in Northern Saghalien

is reserved for future settlement in accordance with the laws of the country” ト修正セルモノヲ本使ニ手交シタル上本問題ニ關シテハ種々研究ノ結果十二月二十七日日本側提案ノ趣旨ヲ其儘採用スル事トセリ過渡期ニ於ケル無線ノ使用ニ關シテハ撤兵準備ノ為派遣セラル可キ露国側官憲トノ間ニ協定セラルル事ニセハ可ナラムト述ヘタルヲ以テ本使ハ既ニ将来ノ決定ニ讓ルヘシト規定セル以上總テヲ其際ノ討議ニ委シテ然ル可キ国法ニ從ヒ云々ノ文句ノ如キヲ茲ニ規定スル必要無カルヘシ加之国法ニ從ヒ云々トスル時ハ我方トシテハ露国ノ国法ニ依リ如何ナル制限ヲ受クルヤモ知レストノ不安ヲ懷カサルヲ得スト述ヘタルニ「カ」ハ日本側ハ既ニ通信ニ關スル露国ノ主權ハ之ヲ尊重スヘキ旨ヲ言明シ居ルモノナル処

若シ露国側カ油田区域ニ關シ讓歩セサル場合ニハ從來ノ御訓令ニテハ五割ハ我方最後案トアルニ顧ミ決裂ヨリ致シ方ナキ処果シテ其通り取計ヒ差支ナキヤ為念御意見御回示アリタシ

二八二 一月十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

無線電信、油田及ビ炭田等ノ問題ニ關スルカ

ラハントノ応酬振り報告ノ件

別電一 一月十日在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電

報第二二号

無線電信ノ規定ニ關スルカラハン提出案文

二 同右第二三号

ベッサラビア条約批准問題ニ關スルカラハン

ヨリ芳沢宛私信案

三 同右第二四号

ベッサラビア条約批准問題ニ關スル芳沢ヨリ

カラハン宛私信案

四 同右第二五号

ベッサラビア条約批准問題ニ關スルカラハン

ヨリ芳沢宛私信案

五 同右第二六号

カラハン提出ポーツマス条約ニ關スル宣言案

「国法ニ遵ヒ」ナル文句ハ要スルニ「主権ヲ尊重ス」トノ意味ヲ具体化シタルニ外ナラス露国ノ国法ニ依レハ無線電信ハ全然官設ニ限ルモノニシテ私設之ヲ絶対ニ許サス外国ノ官設私設ノモノヲ許ササル事勿論ナリ我国法ニ從テ北樺太ノ無線ヲ露国ノ官設局トスルモ日本人ハ既に通商条約ニ關スル協約案第四条ニ依リ露国人ト同等ノ權利ヲ有スルヲ以テ自由ニ無線電信局ヲ利用スル事ヲ得ヘク又当初ノ間ハ或ハ日本技師ヲ露国官吏トシテ使用スルコトトナルヘク又彼ノ地方ニ於テ無線ヲ利用スルモノハ日本人ノミナルヘケレハ日本人ノ為ニ種々ノ便宜ヲ提供スルコトトモナラン故ニ日本人ニ對シテ何等支障ヲ来ササルヘシト述ヘタルコトアリ從テ本使ハ本件ニ付テハ我方ニ於テモ既に露国ノ主権ハ之ヲ尊重スルニ異議ナキ次第ハ既述ノ通ナルヲ以テ「国法ヲ考慮シテ」ナル程度ノ規定ナルニ於テハ日本政府ニ請訓スルコトトスヘシト述ヘタルニ「カ」ハ例之漁業問題ノ如キ利権ニ關スル問題ナルニ於テハ多少之ト事態ヲ異ニスルモ無線電信問題ニ關シ我国法ノ規定ニ對スル例外ヲ説クカ如キ虞アル条文ヲ設クルコトニハ同意スルヲ得ス又国法ニハ通信ノ檢閲

ニ關スル規定アレトモ単ニ企業ニ關スル電信ナラハ檢閲モ何等怖ルルノ必要ナカルヘク何レノ点ヨリスルモ「我國法ニ遵ヒ」ナル文句ニテ差支ナキ筈ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ無線電信ハ官設ニ限り私設ヲ許サストノ点ハ之ヲ了解シタルモ其他ノ点ニ付テハ余ハ全然露国内法ノ規定ニ通セス或ハ日本企業家ノ為ニ不利益ナル規定ヲ存スルヤモ知レストノ疑ヲモ挾マサルヲ得サル次第ナルカ要スルニ内容ニ通セサル為判斷スルニ由ナシト述ヘタルニ「カ」ハ貴公使ニ於テ尚我方趣旨ノ存スル所ヲ十分了解シ得サルハ甚タ遺憾ナリ然ラハ我方トシテハ無線電信ニ關スル規定ヲ次ノ如ク修正スルモ可ナリト別電第二二号ノ通ノ案文ヲ本使ニ手交セリ依テ本使ハ自分一己トシテハ大体其趣旨ニ異議ナキ旨ヲ答ヘ置ケリ就テハ本件先方ノ提案ニ對シ御異存ノ有無御回示アリタク尚右前電ノ英文ハ拙劣ニ付適宜御修正アリタシ

(二)「ベッサラビア」条約批准問題ニ關シ本使ハ「カラハン」ヨリ本使ニ交付スヘキ私信案(別電第二三号ノ通)並ニ右ニ對シ本使ヨリ「カラハン」ニ交付スヘキ私信案(別電第二四号ノ通)ヲ提出シタルニ「カ」ハ貴公使ヨ

リ自分ニ交付セラルヘキ私信案文中 My Dear Ambassador 及 I beg to inform ノ箇所ハ孰レモ其ノ用語余リニ私的ニ過クルノ嫌ヒアルヲ以テ前者ハ之ヲ Monsieur l'Ambassadeur トヤラシ度ク後者ハ之ヲ I beg to state 又ハ declare トセラレ度シト述ヘタルヲ以テ本使ハ何レモ原案ノ儘ニテ差支ヘ無ク且妥當ノ用語ナル旨ヲ説示シタルニ「カ」モ結局之ヲ諒トシ異議無キ旨ヲ述ヘタルカ次イテ「カ」ハ露国側ニ於テモ自分ヨリ貴公使ニ宛ツヘキ私信ノ案文ヲ作成シタリト別電第二五号ノ通ノ案文ヲ提出シタル上自分ヨリ貴公使ニ宛ツヘキ私信ノ案文ハ露国側案ニ依ル事ト致シタシ蓋右ハ自分ヨリ貴公使ニ宛ツル手紙ニシテ且別ニ協約ニハ關係無キ性質ノモノナルヲ以テ其ノ内容ニハ別ニ日本側意見ヲ考慮スルノ必要無カルヘク「ベッサラビア」条約ハ我方ニ特殊ノ利害ヲ有スルモノナルヲ以テ之ニ對シ日本ノ批准ハ露国ニ對シ非友誼的行為ト見做ス旨ヲ記載スルモ差支ヘ無カルヘシ況ンヤ貴公使ヨリノ返信ハ実ニ此ノ露国側ノ不安ヲ除去スルヲ以テ目的トスルモノナルヲ以テ之ニテ差支ヘ無カルヘキニ依リ我方案ニ同意セラレ度シト述ヘタルヲ以テ本

使ハ孰レニスルモ本件私信ハ「コンフィデンシャル」ノモノナル次第第二モアリ強ヒテ貴方案ニ依リ度キ意向ナルニ於テハ其旨政府ニ報告スヘシト述ヘタリ此点ニ關シ御異存ノ有無御回示アリ度シ「カラハン」ノ案文ハ英文トシテハ甚タ感服シ難キモ先方ニ於テ之ヲ固執スル場合ニハ其ノ儘トスルヨリ致方ナカルヘシ尚「カ」ハ本件私信ハ協約調印ノ日ニ交換スルコトト致度シト述ヘタルヲ以テ本使ハ異議無キ旨答ヘ置ケリ

(三)「ポーツマス」条約ニ關スル宣言書ニ關シ「カラハン」ハ昨日ノ會議ニ於テ述ヘタル趣旨ニ從ヒ修正ヲ加ヘタリト別電第二六号ノ通ノ案文ヲ提出シタルヲ以テ本使ハ undersigned Plenipotentiaries ト複數ニナリ居レル処右ハ如何ナル意味ナリヤト質シタルニ「カ」ハ右ハ貴公使モ自分ト共ニ署名アリ度キ趣旨ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ自分ハ露国ノ意思ヲ宣言スルコト理論上不可能ナリト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ之ヲ單數ニスヘシト述ヘ結局「undersigned Plenipotentiary of the Union of Soviet Socialist Republics declares that the recognition by his Government of the validity of the Treaty...

by his Government of the validity of the Treaty...

：」トスルコトセリ

(四) 油田及炭田問題ニ関シ本使ハ「カラハン」ニ対シ貴下ハ協約ノ成立ヲ急キ居ラルルカ如キモ油田及炭田問題ニ関シ我方要求ヲ容レラルルニアラスンハ協約ノ成立到底不可能ナリト述ヘタルニ「カ」ハ打明ケテ申セハ自分カ先般油田ハ四割五分迄譲歩スヘキ旨ヲ述ヘタルハ少々早マリタル次第ニシテ実ハ莫斯科ヨリハ総テノ問題ニシテ解決セハ油田ヲ四割五分迄譲歩スヘキ旨回訓シ来レルモノニシテ未タ他ノ問題未解決ナル際ニ当リ之ヲ言明シタルハ自分ノ手落ナリシナリ四割五分ハ莫斯科ノ最後ノ譲歩ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ只今ノ説明ハ從來ノ御説明ト少シク撞着セルモノノ如シ即チ貴下ハ四割五分ニ同意スル旨ヲ述ヘタル後ニ於テモ縷々油田及炭田問題ハ他ノ問題ノ解決ヲ見タル上莫斯科ノ裁決ニ待ツヨリ外ナシト述ヘ居レルモノニシテ本日ノ説明ハ之ト齟齬スル所アリト述ヘタルニ「カ」ハ油田ニ付テハ自分ヨリノ請訓ニ対シテ莫斯科ヨリ最後ノ譲歩トシテ四割五分ヲ訓令シ来レルモノニシテ又炭田ニ付テハ未タ請訓シ居ラサルナリ尤モ仮令莫斯科ヨリ油田ハ四割五分ヲ以テ最後ノ譲歩ナリト訓令

シ来リ居レリトスルモ他ノ問題カ全部片付キ残ル所ハ油田、炭田及尼港事件類似事件反対公文ノ三問題ノミトナルニ於テハ全体ノ事情ヲ具シ莫斯科ノ決裁ヲ仰ク事差支ヘナキ次第ニシテ貴公使ニシテ若シ同様ノ立場ニ在リトセハ又同様ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ重テ自分ノ政府ヨリ受取り居レル訓令ニ依レハ油田ハ四割五分ニテハ到底満足スル事ヲ得スト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ互ニ事情ヲ政府ニ報告スルヨリ外無カル可シト述ヘタリ

(四) 次ニ「カラハン」ハ調印当日「本日左ノ協約議定書等ニ調印シタリ」ト云フカ如キ調印ニ関スル「プロトコル」ヲ作製シ之ニ調印シタル協約議定書ノ名称ヲ一々列記シ置ク事ト致シ度シト述ヘタルヲ以テ本使ハ斯ノ如キモノヲ作製スル必要アリヤ余カ知レル範圍内ニテハ斯ノ如キ例ナシ尤モ之ハ形式上ノ問題ナルヲ以テ何レニスルモ重要ニ非スト述ヘタルニ「カ」ハ多数ノ付属文書ヲ有スル協約ニハ通常之ヲ作製スルモノノ如ク露支協約ノ際モ之ヲ作製シタルヲ以テ御研究置アリタク尤モ「ベツサラビア」条約ニ関スル往復文ハ之ヲ包含セシメサルモノナリト述ヘタリ就テハ此点ニ関スル御意見御回示アリ度シ

(六) 次ニ「カラハン」ハ協約原文ハ「タイプライター」ニテ

可ナリヤ又ハ印刷スヘキヤ露支協約ノ際ニハ「タイプライター」ヲ以テシタリト述ヘタルヲ以テ本使ハ秘密ノ保持上ヨリ言ヘハ印刷ヨリ「タイプライター」ノ方可ナラムカナレトモ「ノースチャイナ・スタンダード」社ヲシテ印刷セシメ我方ヨリ人ヲ派シテ嚴重監督セシムルニ於テハ或ハ故障ナク印刷ヲ行フ事ヲ得ルヤモ知レスト述ヘタルニ「カ」ハ其ハ至極好都合ナリ秘密保持ト云フモ左シテ懸念スルニ及ハサルヘシ用紙ノ如キ天津^{アヂ}辺ヨリ取り寄スレハ可ナルヘシト述ヘ居タリ本件ニ付テハ往電第一九号末段ヲ以テ請訓中ノ処御参考迄申進ス

(七) 次ニ「カラハン」ハ「レダクシオン」ノ便宜ノ為メニ協約案文ヲ淨書シタルヲ以テ閱覽方希望ストテ基本協約(前文ヲ除ク)及議定書(A)ノ案文(右何レモ郵送ス)ヲ本使ニ手交シタルカ尚「カ」ハ議定書(A)ノ末尾文「基本協約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト見做ス」云々ノ一節ヲ第五条トシテハ如何基本協約ニハ類似ノ規定ヲ一個ノ独立条文ト為シアリト述ヘタルヲ以テ本使ハ左シテ異存ナキモ研究シ置ク事トスヘシト述ヘタリ此点ニ関シテ

モ御意見御回示アリタシ

(別 電 一)

一月十日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第二二号
無線電信ノ規定ニ関スルカラハン提出案文

第二二号 別電

4. The question of operating the Japanese wireless stations situated in Northern Saghalien is reserved for future settlement, taking into consideration that in the territory of Northern Saghalien only such wireless stations may operate as belong to the Government of the Union of Soviet Socialist Republics.

I avail myself etc.,

(Signature)

(別 電 二)

同右第二三号

ベツサラビア条約批准問題ニ関スルカラハンヨリ芳沢宛私信案

第二三号 別電極秘

January...., 1925.

My dear Minister,

My Government is anxious to know of the idea entertained by the Japanese Government with regard to the Treaty concluded at Paris on October 28th, 1920, concerning the sovereignty over Bessarabia, it's ratification to be made by Japan not being agreeable to my Government. Under the above circumstances, I shall be much obliged if Your Excellency will kindly let me know of the attitude of the Japanese Government vis-à-vis the said Treaty.

Yours very sincerely,

(別 電四)

同右第二四号

ベッサラビヤ条約批准問題ニ関スル芳沢ヨリカラハン宛私信案

第二四号 別電極秘

My dear Ambassador,

With reference to your letter of the.....inst. on the subject of the Bessarabian Treaty, I beg to inform Your Excellency in accordance with instructions from my Government that they would refrain from recommending to the Throne to ratify the said

Treaty so long as it is not ratified by all the European Signatory Powers, as they deem it to be dealing with a purely European question.

(別 電四)

同右第二五号

ベッサラビヤ条約批准問題ニ関スルカラハンヨリ芳沢宛私信案

第二五号 別電極秘

My dear Minister,

On the 28th of October, 1920, five Powers, including Japan, signed in Paris a Treaty recognizing the annexation by Rumania of the territory of Bessarabia belonging to the Union of Soviet Socialist Republics. Taking into consideration of friendly relations between the Union of Soviet Socialist Republics and Japan, I have the honour to bring to Your Excellency's knowledge that the ratification of the said Treaty by Japan could not be construed, by my Government otherwise than an unfriendly act. Accordingly, under the instructions of my Government, I beg to request Your Excellency to be good enough to ac-

条約調印ノ場合速力ニ委任状下付奏請方要望

ノ件

第二八号 至急極秘

(一月十一日接受)

往電第一九号具報ノ通「カラハン」ハ本月十五日ニ調印ヲ了シタキ意向ナル処一方尚未解決ノ問題モアリテ協約ノ成否素ヨリ断言スル能ハサルモ若シ成立ノ場合ニハ効力発生期等ノ関係上速ニ調印スルコト必要ナルニ付特ニ差支ナキニ於テハ委任状御下付ト同時ニ其全文並訳文直ニ電報相成タク調印ノ際ニハ同電信写ヲ先方ニ交付シテ間ニ合ハスコトト致スヘシ從テ右御含ニテ委任状御下付奏請方ニ付テモ手続ニ暇取ラサル様然ルヘク御取計ヲ請フ

二八四 一月十一日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

協約文ハ英語ノミニテ作成シ差支ナキヤ伺出

ノ件

第二九号 極秘

一月九日会議ノ際「カラハン」ハ協約文ハ英文ノミニテ充分ナルヘク自分ハ当然英文ノミノコトト思考シ居レリ若シ双方ノ国語ヲ以テスルカ如キコトアラハ露国側ニハ専門家

quaint me with the decision of the Government of Japan in this matter, for communication to the Government of the Union of Soviet Socialist Republics.

(別 電四)

同右第二六号

カラハン提出ベッサラビヤ条約ニ関スル宣言案

第二六号 別電

Declaration.

In proceeding this day to the signature of the Basic Convention between the Union of Soviet Socialist Republics and Japan, the undersigned Plenipotentiaries declare that the recognition by the Government of the Union of Soviet Socialist Republics of the validity of the Treaty of Portsmouth of September 5, 1905, does not in any way signify that the Government of the Union shares with the former Tsarist Government the political responsibility for the conclusion of the said treaty.

二八三 一月十日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ナキ為困難ヲ感スル次第ナリト述ヘ居レル処協約原文ハ英語ノミニテ作成シ差支ナシト思考スルモ為念御同致ス

編註 右ニ對シ一月十二日幣原外務大臣發芳沢公使宛電報第一二號(至急極秘)「デ英語ノミニテ差支ナイ旨回答サレタ

二八五 一月十二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

カラハン提案ニ係ル「プロトコール」作成其
ノ他ニ関スル交渉経緯報告ノ件

別電 一月十二日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛
電報第三二號
カラハン提出「プロトコール」案
二 同右第三三號
カラハン提出ノ利權產出物ノ報効金ニ関スル
規定案

第三一號 至急極秘
往電第二一號ニ関シ

一月十日(會議)ニ於テ
(一)前回會議ニ於テ「カラハン」ノ申出テタル調印ニ関スル
「プロトコール」作成ノ件ニ関シ本使ハ我方ニ於テ調査

ニ関シ御意見御回答アリタシ

(二)次ニ「カラハン」ハ利權契約締結前ニ於ケル利權ノ產出
物ニ對スル報効金ニ関シ規定シ置ク必要アリトテ別電第三
三三號ノ通ノ案文(唯本使ノ注意ニ基キ原文ニ用語上ノ
修正ヲ加ヘタルモノナリ)ヲ提出シ之ヲ議定書(B)ノ最後
ノ一條ト致シタシト述ヘ且 outfit ノ使用ニ對スル報効金
ハ露國ノ造營物其ノ他専門的設備ノ使用ニ對スル使用料
ヲ意味スルモノナリト述ヘタリ依テ本使ハ自分一個ノ私
見トシテ一言致シタシトテ此ノ種ノ規定ヲ設ケントセハ
將來利權契約商議ノ際起ルヘキ紛議ヲ避ケンカ為ニ右規
定中ニ報効金支払ノ義務ハ協約ノ効力發生ノ時ヨリ開始
スルモノナルコトヲ規定シ置クノ必要アルヘシ蓋シ日本
ハ北樺太ニ對シテ保障占領ヲ行ヒタルモノニシテ石炭又
ハ石油ハ日本軍力軍事上ノ必要ニ依リ採取消費シタルモ
ノナリ石油ハ北辰會ヲシテ之ニ當ラシメ石炭ハ三菱ヲシ
テ當ラシメ居レルモ右ハ便宜上ノ問題ニシテ該事業ノ主
体ハ軍ナリ從テ軍ノ占領中ノ產出物ニ對シテハ報効金ヲ
納ムル必要ナク報効金ノ問題ハ協約ノ効力發生ノ時ヨリ
發生スルモノトスヘキナリト述ヘタルニ「カ」ハ本問題

シタル所ニ依レハ特殊ノ「プロトコール」ヲ作成スルノ
先例ヲ看ス只批准交換ニ當リテ「プロセベルバル」ヲ
作製スルノ例ナリト述ヘタルニ「カ」ハ批准交換ノ場合
ハ別問題ナリ予ノ趣旨ハ本會議ハ重大會議ナリシニ付キ
調印ニ関スル「プロトコール」ヲ作製シ置カントスルモ
ノナリ且八月二十九日現業調査モ何レカ適當ノ場所ニ添
付スルコト必要ナルヲ以テ旁々本「プロトコール」ヲ作
製スルコトト致シタシ我方ニ於テ已ニ案文ヲ作製シタリ
トテ別電第三二號ノ通りノ案文ヲ提出シタリ(右ノ内
2, Two Protocols ハ議定書(A)及(B)ヲ意味シ 3, One
Declaration トハ「ポーツマス」條約ニ関スル宣言文ヲ
意味シ 4, Two exchanges of Notes トハ作業繼續ニ関
スル往復公文及尼港事件ノ陳謝ニ関スル往復公文ヲ意味
スルモノナリ)依テ本使ハ八月二十九日ノ現業調査ハ此
ノ「プロトコール」ニ添付セシムル意志ナリヤト質シタ
ルニ「カ」ハ然リ此ノ「プロトコール」ニ添付セシムレ
ハ議定書(B)ト作業繼續ノ公文トニ付屬セシムルヨリモ一
回ニテ済ムコトナルヘシト述ヘタリ本件ニ関シテハ往電
第二一號ノ(五)ヲ以テ申進メ置キタル次第モアル処右

ハ左シテ重要視スル所ニ非サルモ元來國際問題ノ解決ノ
為ニ他國ノ領土ヲ占領スルカ如キハ國際法ノ認メサル所
ニシテ從テ日本軍ノ占領中自由ニ行ヒタル石炭石油ノ搬
出ハ合法ニシテ之ニ對シテハ報効金支払ヒノ義務ナシト
ノ御主張ニ関シテハ之ヲ承認スルコトヲ得ス今去今ニ至
リ占領ノ可否ヲ論議スルニ於テハ交渉ノ進捗ヲ妨クヘキ
ニ依リ之ヲ差控フヘキモ唯我方トシテハ日本軍ノ自由ニ
行ヒタル消費及搬出ハ無償トスルコトヲ得サル趣旨ヲ規
定シ置カントスルモノナリ依テ其期限ヲ協約ノ効力發生
以後トナサントスル御主張ニ對シテハ同意スルコトヲ得
サル次第ナルカ要スルニ期限ノ問題ハ之ヲ將來ノ協議ニ
一任シテ可ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ予ノ議論ハ
單ナル即座ノ思ヒ付キニシテ猶不十分ナルヤモ計リ難ク
更ニ研究ノ要アル次第ナリ蓋シ將來利權契約締結ノ任ニ
當ルモノハ日本ノ個人又ハ会社ナルニ該契約締結迄事業
ニ當リ居ルモノハ日本政府ナリ日本ノ私人ト露國政府ト
ノ間ニ締結スヘキ契約中ニ日本政府ノ負担スヘキ報効金
ノ問題ヲ規定スルハ見當違ヒナルヤモ知レス由テ本件ニ
関シテハ追テ改メテ論議スルコトトスルヤモ計リ難シト

述へ置ケリ就テハ先方提案ニ対スル御意見御回示アリタシ

(三) 油田区域ノ問題ニ関シ「カ」ハ四割五分ハ事実莫斯科ノ最後ノ訓令ナルニ由リ日本側ニ於テ承認方政府ニ稟請アリタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ我方ハ断シテ之ニ応シ難シ是非共五割ニ応諾セラルルニアラサレハ不可ナリト述ヘタルニ「カ」ハ日本軍ハ勝手ニ北樺太ヲ占領シ占領中ハ自由ニ石炭石油ヲ使用シ居リ其ノ上北樺太ヲ返還スルニ当リテモ油田ノ半分ヲ保留シタリト云フハ露国側トシテ体面上甚タ面白カラスト述ヘタルヲ以テ本使ハ日本軍ハ占領中道路ノ建造学校病院養魚場農園等ノ設置等種々ノ方面ニ於テ北樺太ノ土地及人民ノ為ニ多大ノ貢献ヲナシタルモノナリ又油田ノ五割ト云フモ右ハ極限ラレタル油田区域ノ五割ヲ維持スルニ外ナラス且許セラレタル油田ニ付テハ将来報効金ヲ支払フモノナリ斯ノ如キ次第ナルヲ以テ是非トモ五割ニ同意アリタシト述ヘタリ

(四) 尚「カ」ハ昨日ノ會議ニ於テ貴公使ニ交渉シタル露国側協約案及議定書案(A)並本日送付シ置キタル露国側議定書(B)案(議定書(B)モ郵送ス)ニ対シ御意見承リタシト述ヘ

ニ冷淡ナル故ニ非スヤト述ヘタルヲ以テ本使ハ決シテ然ラス当初外務大臣ノ委任状ノ下付アリ交渉ヲ継続シ来レルニ依リ別ニ陛下ノ委任状ヲ急カサリシ次第ナリト述ヘ置ケリ

(六) 次ニ「カラハン」ハ条約ノ前文ヲ作製シタリトテ客年十一月十日我方ヨリ提出シタル条約ノ前文案ノ「ブラント」ノ箇所ニ本使及「カラハン」ノ姓名及肩書等ヲ記入セルモノヲ提出シタルモ肩書等ノ用語不完全ナルヲ以テ追テ研究修正ノ上報告スルコトト致ス可シ
次回ヲ翌々日開催ノコトニ打合せ散会セリ

(別 電)

一月十二日在中国芳沢公使兼幣原外務大臣宛電報第三二二号
カラハン提出「プロトコール」案

第三二二号 別電

Protocol of Signature

Leho Mikhailovitch Karakhan, Ambassador of the Soviet Socialist Republics to China, and Kenkichi Yoshizawa, His Imperial Japanese Majesty's Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary to China, duly authorized, met this day at Peking, and closely

タルヲ以テ本使ハ未タ双方トモニ意見ノ合致ヲ見サル問題及政府ニ請訓中ノ問題各所ニ散在スル次第ナルヲ以テ意見ヲ申述フルヲ得ス殊ニ油田炭田ノ問題ハ全然未了ナリト述ヘタルニ「カ」ハ兎ニ角出来得ル限り速ニ纏リタルモノヨリ「イニシヤル」ヲ施スコトト致シタシト述ヘタルヲ以テ本使モ之ニ異議ナキ旨ヲ答ヘ置ケリ

(四) 本使ハ委任状ノ全文ヲ原文タル日本文及英文ニテ東京ヨリ電報シ来リタル場合ニ該電報ノ写ヲ貴下ニ交付スルニ於テハ右ニテ協約ニ調印セラルヘキヤト糺シタルニ「カ」ハ自分ハ日本文ヲ解セサル次第第二モアリ委任状ノ原本ノ如キハ閲覧スルモセサルモ可ナリ要スルニ我方ニ残ルモノハ写ノミナルヲ以テ正確ナルモノヲ電報シ来ラハ夫レニテ可ナリ後ニ郵便ニテ正式ノ写ノ送付アリタル場合ニモ電報ノ写ト相違ナクンハ後ノ写ノ交付ヲ受クルノ必要モナシト述ヘ尙自分ハ既ニ貴公使ニ対シテ陛下ノ御委任状ノ御下付アリタルモノト思考シ居リタリ「ポーツマス」講和會議華府會議等ノ場合ニハ事ノ成否ニ拘ラス談判ノ最初ヨリ御委任状ヲ受ケ出発セラレタルモノナル可キニ此會議ニ限り未タ陛下ノ御委任状ノ御下付ナキハ本會議

examined the following documents;

1. A Basic Convention between the Union of Soviet Socialist Republics and Japan.
2. Two Protocols.
3. One Declaration.
4. Two exchanges of Notes.

Having agreed upon all contents of them and found their respective full powers in good and due form, the Plenipotentiaries officially signed and sealed the respective documents.

The two Plenipotentiaries agreed that there should be apposed to the present Protocol the Memorandum, handed by the Japanese plenipotentiary to the plenipotentiary of the Union of Soviet Socialist Republics on August 29th, 1924, and embodying a statement on the condition of oil operations and colliery works by the Japanese in Northern Saghalien.

In faith whereof, the respective plenipotentiaries of the Two High Contracting Parties have signed

the present Protocol in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals.

Done at Peking this... Day of October One Thousand Nine Hundred and Twenty-five.

Seal Signed.
Seal Signed.

(別電1)

同右第三号

カラハン提出ノ利権産出物ノ報効金ニ関スル規定案

第三三号 別電 至急極秘

The question of royalty due to the Government of the Union of Soviet Socialist Republics for the exploitation prior to the conclusion of general contracts provided for in the present Protocol of natural resources of Northern Saghalien as well as for the use, during the said period, of outfit belonging to the Union of Soviet Socialist Republics, shall be settled at the time of the conclusion of such concession contracts and in conformity with the provisions of said contract.

二八六 一月十三日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛 (電報)

油田区域問題ニツキ我方提案ニ同意セザル
場合ハ決裂ノ外ナキ旨回訓ノ件

第一七号 至急極秘
貴電第二〇号ニ関シ

炭坑問題ニ関シテハ客年往電第七五五号(四)所載ノ通りナル
モ油田区域問題ニ付テハ往電第一号(二)所載ノ事情ナルニ付
万一先方ニテ飽ク迄我方提案ニ同意セサル場合ニハ決裂ノ
外ニ途ナシト思考ス

二八七 一月十三日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛 (電報)

利権契約締結期間等ニ関スル修正案回訓ノ件

第一八号 至急極秘
貴電第一六号ニ関シ

撤兵問題ニツキテハ別ニ電報スヘキモ其ノ他ノ請訓事項ニ
就テハ左ノ通り

一、議定書(B)ニ規定セラルル利権契約ノ締結期間ヲ撤兵完
了期ト関連セシムルコトニハ異存ナシ但シ当方ニ於テハ最

初条約発効後六ヶ月ノ期間全部ヲ利権契約締結ノ交渉ニ充
テタキ所存ナリシ処露国側ニ於テハ契約締結ノ交渉前現場
調査ノ為三、四ヶ月ヲ要スル旨ヲ述ヘ居リ又事実二月中旬
ニ条約ノ効力発生シ撤兵着手ト同時ニ直ニ右調査ニ着手ス
ルトシテモ冬季雪上ニ於ケル野外作業ハ種々ノ困難ヲ伴フ
ヲ以テ相当ノ時日ヲ見積ル必要アルヘク旁々右交渉ノ為余
ス所極メテ短期間トナル次第第二付当方ノ希望トシテハ利権
契約締結期間ヲ撤兵完了後六ヶ月トナスコト適當ナリト思
考スルモ先方ニ於テハ三ヶ月トナスコトヲ主張シ居ルニ顧
ミ可成之ヲ短縮スル趣旨ヲ以テ特ニ五ヶ月トシ我方ノ提議
セル議定書(B)ノ前文中 as the basis for the Concession
Contracts 以下ヲ左ノ通り修正スルコトト致度キニ付右ノ
趣旨ト「カラハン」ニ説明セラレ右修正案ニヨリ妥結方交
渉セラレ度シ

《to be concluded within five months from the date
of the complete evacuation of Northern Saghalien by
Japanese troops, as provided for in Article III of Proto-
col (A) signed this day between the Plenipotentiaries of
Japan and of the Union of Soviet Socialist Republics.》

二、作業継続ニ関スル公文案ハ貴見ノ通り前記議定書ノ趣
旨ト合致スル様修正ヲ加フル必要アル次第ナルニ付前項ト
同シク作業継続期間ヲ撤兵完了期ニ関連セシムルコトトシ
本件我方提案公文前文中 until the conclusion of Conces-
sion Contracts ト provided トノ間ヲ 《to be effected
within the period specified in the Preamble of Protocol
(B) signed this day.》ト修正スル様取計ハレタシ

三、議定書(B)第一条(油田分画ノ面積問題)ニ関スル先方
修正ノ趣旨ハ些カ不明ナルモ将来利権契約ヲ以テ面積ヲ定
ムル場合十五「デシヤチン」ヨリ四十「デシヤチン」迄ノ
一定ノ同面積ヲ有スル基盤目形トナス趣旨ナルニ於テハ之
ニ同意シ差支ナキニ付一応先方ノ解釈ヲ求メタル上右ノ趣
旨ナルニ於テハ之ニ同意セラレ差支ナシ

四、議定書(B)ノ第七条(課税等ニ関スル問題)我方提案ハ
先方ノ立場ヲモ顧念シ極メテ緩和シタル書振ニ改メタル次
第ナルニヨリ右以上変更ノ余地ナク利権事業ノ有利の経営
ヲ不可能ナラシムルカ如キ課税等ハ一般的ニセヨ特殊のニ
セヨ之ヲ加フルヲ承諾スル能ハス殊ニ「カラハン」ニ於テ
モ客年十二月二十九日ノ會議ニ於テ多少議論ノ余地アルモ

夫レ等ハ別ニ重要ニアラスト述ヘタル程ナルニ条文整理ニ際シ重大ナル實質的意義ヲ有スル修正ヲ加ヘントスルカ如キハ到底我方ノ同意スル能ハサル所ナリ

五、「ポーツマス」条約ニ関スル宣言書ハ其後接到シタル貴電第二一号(三)所載貴官ト「カラハン」トノ間ニ話合ヒタル文句ニヨリ露国側ノ一方の宣言トナスコト差支ナシ

六、議定書(A)第一条(大使館領事館問題)第三項ハ先方修正通リ《all reasonable facilities》トナスコトニ同意セラレ差支ナシ

七、条約ノ名称ニ就テハ格別我方提案ヲ固執スルニ非ルモ右名称ハ条約ノ性質ヲ明ニスル趣旨ニ出テタルモノニシテ多少長クトモ差支ナカルヘキニヨリ今一応原案通リトスル様先方ヘ申入レラレタシ

八、漁業協約問題ニツキテハ別ニ電報ス

二八八 一月十三日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

利権契約締結ニ至ル期間ノ報効金問題等ニ関

シ訓令ノ件

第二〇号 至急極秘

説示セラレ我方主張ノ貫徹ニ努メラレ度シ

(三)御委任状問題ニ関シテハ往電第一号(一)ヲ以テ申進ノ趣旨ニヨリ貴官ヨリ電請次第御下付方奏請スル積也

二八九 一月十三日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

「宣伝禁止問題」中ノ日本側提案ニ対シカラ

ハンハ強硬ニ反対意見展開ノ件

第三七号 至急極秘 (一月十四日接受)

往電第三一号ニ関シ

一月十二日ノ會議ニ於テ

(一)宣伝禁止問題(協約案第五条)ニ関シ本使ハ一月六日ノ露国側提案ヲ東京ニ電報シ置キタル処今回電訓到着シタリト述ヘ十二月二十七日ノ我方提案ニ貴電第一号(省略)号末尾御来示ノ英文ヲ第二項トシテ追加シタル条文案ヲ提出シタル上前記貴電御来示ノ趣ヲ然ルヘク敷衍説明シタルニ「カラハン」ハ一月六日ノ露国側対案ニ於テ削除シタル第一項末尾ノ点ハ削除セラレタシ第二項ニ於テ今回ノ日本側対案ハ単ニ現ニ活動シツツアル個人ノ存在ヲ許ササル事トナリ居レル処我方幾多ノ経験ニ依レハ現実ニ活動

貴電第三一号ニ関シ

(一)条約調印ニ関スル「プロトコール」作成問題ニ就キテハ別ニ電報ス

(二)利権契約締結ニ至ル迄ノ期間ニ対スル報効金問題ノ如キハ条約所定ノ作業継続期ニ入りタル時ヨリ利権契約成立ニ至ル迄ノ期間内ニ於テ生シタル石油石炭ノ残余処分ニ対シテノミ起リ得ヘキ問題ニシテ我派遣軍カ其ノ占領時ヲ通シ現場ニ於テ軍ノ必要ノ為消費シタル物況ンヤ使用シタル造営物ニ対スル報効金ノ如キハ占領ノ性質上断シテ問題トスヘキ筋合ニ非サルヲ以テ先方ニ於テ全然其ノ提案(貴電第三三号)ヲ撤回スルカ又ハ単ニ客年往電第七〇七号(ハ)ノ趣旨ニヨリ作業継続期間中作業關係ノ人員及裝備ノ為ニ要シタル分ヲ除キタル残余ノ產出物ニ対シ將來締結セラルル利権契約中ノ產出物配分規定ヲ適用スル旨ヲ規定スルカノ外ナク若シ先方ニシテ前記提案ノ趣旨ヲ固持スルカ如キ意向ナルニ於テハ我方トシテハ此ノ際寧ロ北樺太占領中ノ事項ニ付キテハ何等報効金等ノ問題ヲ生スヘキモノニアラストノ明瞭ナル規定ヲ設クル必要アリトサヘ思考シ居ルニ付右ノ趣篤ト「カラハン」ニ

シツツアルヲ証拠立ツル事ハ頗ル困難ニシテ斯ノ如キ形式ノ規定ハ殆ト空文ニ等シキ程ナリ依テ同意シ難キモ此点ハ差シテ重要ニ非サルヲ以テ何等妥協点ヲ発見スルニ困難ナラサルヘシ然レトモ第一項ノ「直接又ハ間接ノcontrol」ノ下ニ在ル凡ヘテノ個人及団体「ナル点ニハ多大ノ異議ヲ有スルモノニシテ到底同意スル事ヲ得ス貴大使ノ説明ニ依レハ茲ニ所謂 control」トハ決シテ我方解釈ノ如ク広汎ナル意味ヲ有スルニ非ス主トシテ官吏準官吏又ハ政府ヨリ財的援助ヲ受クル団体ノ如キモノノミヲ指ス趣旨ナリトノ事ナル処此ノ書キ現ハシ方ニテハ斯ノ如キ限定的意味ニ解スル事困難ナリ此ノ規定ヲ普通ニ解釈セハ何レノ人民モ巡查ノ監視ノ下ニアリ換言スレハ国家ノcontrolノ下ニアリ從テ此ノ規定ノ適用ヲ受クルモノトナルヘシ又仮ニ日本側説明ノ通制限の解釈ヲ採ルコトトスルモ勞農露国ニアリテハ工業商業ノ国营頗ル多ク是等ノ国营事業ノ従業員ハ悉ク官吏又ハ準官吏タリ愈官吏ヲ除ク時ハ僅ニ田舎ノ百姓ヲ余スノミノ実情ニシテ露国ニ於テ政治的言論ヲ為スカ如キ可能性アル部類ノ人民ハ悉ク日本側提案ニ拘束セラルルコトトナルヘシ何レノ解

釈ニ從フモ此ノ規定アル時ハ事實上露国国内ニ於テハ何等政治的言論ヲ為シ得サルニ至ルヘシ斯ノ如キ規定ハ是非共撤回アリタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴下ハ此ノ control ナル文字ニ対シ多少異ナレル(脱)ツツアルモノノ如クナルカ我方提案ノ趣旨ハ政府ト特殊ノ關係ヲ有スル個人及団体ヲ意味スルモノナルコト前述ノ通ナリ尚又我方トシテハ本案ハ英露協約第一六条ヲ其ノ儘採用シタルモノニシテ貴方ノ反對ノ如キハ夢ニモ想像セサリシ所ナリト述ヘタルニ「カ」ハ元來本件宣伝禁止問題ノ如キハ協約ノ運命ヲ左右スルカ如キ重大問題ニハ非サルヘキモ我方トシテハ今回ノ日本提案ニハ応シ難シ就テハ十一月十日ノ日本側案ヲ再考シ之ニ修正ヲ加フルコトモ一案ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ然ラハ十一月十日ノ日本側案ニ如何ナル修正ヲ施サムトスルモノナリヤト質シタルニ「カ」ハ該案ノ(二)ノ having such purposes ヲ削除セハ可ナリ蓋シ此案ニ抛レハ日本ハ露国々内ニ第三「インターナショナル」又ハ反帝國主義団体等ノ存在スルコトヲ許ササル趣旨ナルヘキ処斯ノ如キハ露国側ノ断シテ承認シ難キハ夙ニ御承知ノコトト信スト述ヘタルヲ以

テ本使ハ右ニハ到底同意シ難シト答ヘタルニ「カ」ハ然ラハ更ニ本日ノ日本側案ヲ考慮スルヨリ外ナキ処第一項ノ「其直接又ハ間接ノ control」ニ在ル個人又ハ団体」ナル箇所ハ意味余リニ広汎ニ過クルニ依リ同意シ難キ次第ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ該案中ニハ共產党其他ノ社会主義団体ノ活動ヲ禁止スルノ意味ヲ包含スルモノニハアラサルヘシ若シ包含スルモノトセハ英露協定ノ際露国側ニ於テ同意セラルル筈ナカルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ英露協定ノ成立ハ少シク其事情ヲ異ニスルモノアリ蓋シ相手方ハ等シク社会主義ヲ標榜シテ立テル第二「インターナショナル」ノ首領「マクドナルド」ノ内閣ナルヲ以テ此種ノ規定ニ基キ露国ノ社会主義ヲ攻撃スルカ如キ虞更ニナキモノト信シ斯ノ如キ条文ヲ含メル協約ニ調印シタルモノナリ然ルニ今ニシテ思ヘハ英國労働党ト雖爾ク信賴シ得ヘキモノニアラサリシヲ痛感スル次第ナリ況ンヤ日本トノ間ニハ到底此種ノ不用意ナル規定ノ存置ニ同意スルコトヲ得ス依テ日本側案ヨリ此ノ箇所ヲ削除アリタシト述ヘタルヲ以テ更ニ本使ハ前記貴電御來示ノ趣旨ヲ反覆説明シタルニ「カ」ハ何レニシテモ此ノ文句ハ

意味広汎ニ失スル嫌アリ或ハ日露国交ニ反對ナル或ル部分ノ日本人カ此ノ規定ヲ楯ニ取り些々タルコトニモ露国ニ抗議ヲ申込ムコトモアリ得ヘク露国側ヨリ日本ニ対スル關係ニ於テモ亦同様ナルヘシ要スルニ此ノ種問題ハ規定ヨリハ精神ニシテ兩國間ノ親善關係ニ信賴シテ可ナルヘクスノ如キ文句ハ削除アリタシト述ヘ容易ニ我方提案ニ応セス依テ本使ハ本問題ハ貴下ノ所説ノ通本交渉ノ運命ヲ左右スルカ如キ問題ニハ非サルヘキモ日本政府トシテハ頗ル重大視シ居リ強硬ナル訓令ニ接シ居レル次第ニ付輕々ニ処理スルコトヲ得ス此ノ点ニ付更ニ政府ニ請訓ノ要アリ同時ニ貴方ニ於テモ重ネテ研究アリタシト述ヘ置ケリ就テハ此ノ上先方ニ対スル応酬振ニ付御回訓アリタシ

(二)次ニ「カ」ノ質問ニ対シ貴電第一一(省略)号(一)及(二)ノ全部及(三)ノ前段ノ趣旨ヲ説明シ次回ハ追テ打合せノ上開催ノコトトシ散会セリ

二九〇 一月十三日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

至急委任状下付奏請方再ヒ要請ノ件

一一 日ソ基本条約締結關係 二九〇 二九一

第三八号 至急極秘 (一月十四日接受)

往電第二八号ニ関シ

會議モ油田炭田ノ地域及宣伝禁止等主要問題ニシテ未解決ノモノアルコトハ御承知ノ通ナル処交渉モ既ニ大詰ニ達シ居ルハ事実ニシテ而シテ十中八九迄ハ纏マルモノト認メラル從テ前記未解決ノ問題ニシテ妥協成立セハ急速調印ノ運ヒトナル様期待セラルル処元來御委任状ハ交渉開始ノ初ニ御下付ヲ仰クヘキ性質ノモノナル処至急御下付方奏請相成様致シタシ前記往電ハ充分意ヲ尽ササリシ処アルニ付為念申上ク

二九一 一月十三日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

宣伝禁止問題ニ関シ折合ノツカザル字句ノ變

更詮議回訓方稟請ノ件

第三九号 至急極秘 (一月十四日接受)

宣伝禁止問題ニ関シ「カラハン」ト応酬ノ願末ハ往電第三七号ノ通ナル処先方指摘ノ他ノ諸点ニ付テハ或ハ折合ヲ付ケ得ヘキモ唯一点ノミハ頗ル難所ニシテ先方ノ之ニ対スル反對モ甚タ鞏固ナルカ如ク從テ我方提案中第三「インター

ナシヨナル」及反帝國主義団体等ノ運動ヲ阻止セントスル
コトヲ目的トシ若ハ之ヲ目的トスルカ如ク解セラルル文句
ノ挿入セラルル限り右等団体ノ存在カ労働露國ノ根本主義
ニ基クモノナルニ鑑ミ本問題到底解決ノ見込ナシト認ム政
府ニ於テ本件ヲ重大視シ居ラルル点ハ充分拝察スル所ナル
モ労働露國ノ如キ制度ノ國ト國交ヲ樹立スル以上此ノ点ハ
致方ナカラント思考ス尚露國內ニ於ケル前記団体ノ活動ニ
対スル報復手段トシテ我方ニ於テモ政府ヨリ進ンテ民間ヲ
煽動シテ労働主義撲滅ノ運動ヲ為サシムルコト等ハ最適當
ノ方法ト存ス就テハ本問題重ネテ御審議ノ上前述文句變更
方御詮議相成何分至急御回訓相成様致シタシ

二九二 一月十四日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛 (電報)

調印ニ関スル「プロトコール」ニツキ先方提

案ニ対スル修正点回示ノ件

第二一号 至急極秘

貴電第三一号 (一)ニ関シ

調印ニ関スル「プロトコール」ヲ作成スルコトニ同意セラ
レ差支ナキモ貴電第三二号先方提案ハ左ノ諸点ヲ修正スル

右覚書所載事項ニ付テハ客年往電第七五五号(乙)ノ三及本年
往電第九号^(省略)ノ通り其後工事ノ進行等ノ理由ニ依リ多少變更
ヲ見タルモノアルニ付我方ヨリ之カ訂正ヲ提議スル場合ニ
モ交渉ノ局面紛糾セサルヘシトノ見極ツク場合ニハ貴官ヨ
リ先方ヘ篤ト事情ヲ説示セラレ往電第九号ノ通り訂正スル
コトニ取計ラハレタシ但シ其場合日付ヲ条約調印ト同一ト
スルヲ適當トス

二九三 一月十四日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛 (電報)

各条項ニ対スル修正案回電ノ件

第二四号 至急極秘

貴電第二一号ニ関シ

一、無線電信問題ニ関スル貴電第二二号先方提案ハ尚其ノ
意味不明瞭ナルカ兎ニ角我方ニ於テハ本規定ヲ「オペレ
ーション」ノミニ関スルモノトシ單ニ先方ニ於ケル私立
無線局設置禁止ノ点ヲ容認シ本項ヲ左ノ通修正セルニヨ
リ右ニテ取纏メラレタシ

The question of operation of the Japanese wireless
stations in Northern Saghalien is reserved for future

コトニ取計ラハレタシ
一、前文中 duly ヲ削除シ authorize ノ次ニ under their
respective full powers found in due and good form,
ヲ挿入ス

二、4.ノ exchanges ヲ sets ト修正ス(右 Two sets of Notes
トハ貴電第三一号(一)中所載ノ通り作業継続ニ関スル往復
公文及尼港事件陳謝ニ関スル往復公文ヲ指スモノニシテ
尼港事件類似ノ事件ニ関スル露國側主張ハ如何ナル場合
ニ於テモ我方ニ於テ之ヲ承認スルヲ得サル次第ニ付此点
ハ御承知アリタシ)

三、Having ニ始メル項中 all contents 以下 due form 以下
ヲ削除シテ every term and stipulation contained
therein ト修正シ且 the Plenipotentiary 以下 officially ト
ノ間ニ have ノ一字ヲ挿入ス

四、The two Plenipotentiaries ニ始メル項中ノ前段 a-
greed ヲ further agree ト修正シ後段 condition of oil
operations and colliery works by 以下 conditions of oil
and coal fields worked by ト修正ス

尚本件露國側提案ハ客年八月二十九日付覚書ニ言及セル処

arrangement, and will be adjusted in a manner con-
sistent with the existing laws of the Union of Soviet
Socialist Republics prohibiting private establishment
of wireless stations.

二、「ベッサラビア」条約問題ニ関スル交換公文ハ仮令機
密私信ノ形式ニ依ルトスルモ我方ニ於テハ重要ナル國際
約束トシテ枢密院ノ了解ヲ經ルヲ要スル処貴電第二五号
先方提案中非友誼の行為ト看做ス云々ノ文句ハ枢密院方
面ニ於テ一種ノ脅迫トナルカ如キ誤解ヲ招キ不快ナル印
象ヲ与フルヲ免レサルヘク之カ為單ニ本件ノミナラス延
テハ今回ノ協定全般ノ運命ニ累ヲ及ホスノ虞アリ一方
Taking into consideration ノ項ヲ左ノ通修正スルニ於
テハ先方ノ目的トスル所ニ合致スヘキニヨリ右修正案ニ
ヨリ妥決方取計ハレタシ

Taking into consideration the friendly relations be-
tween the U. S. S. R. and Japan, my Government trust
that the Japanese Government will not proceed to the
ratification of the said Treaty, against which the
Government of the Union has lodged an energetic

protest with the signatory Powers.

尚貴電第二四号我方提案中 that 以下ハ露国側書翰トモ照応シ文句ノ妥当ヲ期スル為左ノ通訂正セラレタシ

that unless and until the said Treaty shall have been ratified by all the European signatory Powers, the Japanese Government have no intention of proceeding to the steps required for its ratification, considering that it deals with an essentially European question.

三、貴電第二一号(国調印ニ関スル議定書作成ニ関スル件ハ別ニ電報ス

四、同上(内ニ関シテハ往電第一一号三ヲ以テ申進置キタル^(省略) 処貴電御申越ノ如キ方法ニテ秘密ヲ保持シ得且余リ手數並時日ヲ要セサル様ナラハ印刷ニ付セラルルモ差支ナシ五、同上(内ニ関シ議定書(一)ノ末文ヲ第五条トスルコトハ差支ナシ

二九四 一月十四日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

宣伝禁止条項ニ関シ我方根本趣旨ハ變更ノ

余地ナキニツキ主張貫徹スルヨウ訓令ノ件

別電 一月十四日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電

報第二八号

宣伝禁止条項中字句修正案

第二七号 至急極秘

貴電第三七号及第三九号ニ関シ

露国側ハ尚宣伝禁止問題ニ関スル我提案ノ趣旨ヲ了解セサルカ如シ蓋シ我提案第一項中各締約国ノ直接間接ノ「コントロール」ノ下ニ在ル個人又ハ団体ナル文句ニ関スル我方ノ解釈(往電第一〇号^(省略)ノ通り)ニヨリ取締ヲ受クヘキ主体ハ明確ニ限定セラルルノミナラス他方取締ヲ受クヘキ行為ノ方面ヨリ見レハ各締約国ノ領土ノ孰レカノ部分ノ安寧又ハ繁榮ヲ危殆ナラシムルコトヲ要件トセルモノニシテ本項ノ適用ヲ受クルモノハ此ノ両方面ノ条件ヲ具備セサルヘカラサル次第ナルニ依リ「カラハン」カ本規定アルトキハ事實上露国国内ニ於テハ何等政治的言論ヲ為シ得サルニ至ルヘシト反対セルカ如キハ杞憂ニ属スト言ハサルヘカラス而シテ先方ノ懸念セル本条ト第三「インタナショナル」トノ關係ニ付テハ後者カ勞農政府ト何等特殊關係ナキモノナルニ於テハ固ヨリ本条ノ適用範圍外ニナル次第ニシテ又仮リ

(別電)

一月十四日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第二八号

宣伝禁止条項中字句修正案

第二八号 別電

to restrain all persons in any public service for them, and all organizations in receipt of any financial assistance from them, from any act overt or covert liable in any way whatsoever to endanger the order and security in any part of the territories of Japan or the U.S.S.R.

二九五 一月十五日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

利権契約締結期限ソノ他ニ関スル交渉報告並

ニ議定書(B)前文及ビ作業継続公文案等ニツキ

請訓ノ件

別電

一月十六日在中国芳沢公使宛幣原外務大臣宛電
報第四七号

カラハン提出一般利権ニ関スル修正案文

第四六号 至急極秘 (一月十六日接受)

我提案ノ通り規定スルノ外他ニ適當ノ方法ナシト思考セラ

ルルニ付是亦我方主張ヲ貫徹スル様努メラレタシ

(一) 撤兵問題ニ関シ本使ハ一月八日ノ露国側提案ヲ政府ニ電報シ置キタルニ対シ今回回訓到着シタリトテ貴電第一六号ノ案文ヲ提出シタル上貴電第一五号御来示ノ趣旨ヲ然ルヘク敷衍説明シタルニ「カラハン」ハ右ヲ閱覽ノ上期限ノ点其他ノ修正ニ異議ナキニ依リ今回日本側提案ニ其儘応諾スル旨ヲ答ヘタリ

(二) 議定書(B)前文ニ関シ本使ハ我方提案ニ貴電第一八号一御来示ノ修正ヲ加ヘタル案文ヲ提出シタル上御来示ニ依ル右修正理由ヲ然ルヘク敷衍説明シタルニ「カラハン」ハ今回ノ日本側提案ハ全然新提案ナルカ新提案ハ一々之ヲ莫斯科ニ報告セサルヘカラサル処斯ノ如キハ此際交渉ノ進捗上面白カラス依テ本提案ハ之ヲ撤回セラレ一旦双方意見ノ合致ヲ見タル案即チ単ニ六ヶ月トスル案ニ立返ルコトト致シタク若シ将来期間延長ノ必要起リタル時ハ便宜兩國間ニ「ノート」ノ交換等ニ依リ期限延長ノ協定ヲ為スコトニ致シタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ然レ共本協約ハ批准ヲ要スル協約ナルヲ以テ将来期限ノ延長カ兩國政府間ニ普通ノ外交手續ヲ以テ容易ニ行フコトヲ得ヘキヤ否ヤ疑ハシキニ依リ之ニ備フルカ為本協約中ニ予メ其

趣旨ヲ規定シ置クコト必要ナルヘシト述ヘタルニ「カラハン」ハ其案モ亦莫斯科ニ請訓スルノ必要アルニ付好マシカラス依テ先般ノ露国側提案ニ同意アリタシト述ヘタルヲ以テ本使モ更ニ前記貴電御来示ノ趣旨ヲ繰返シ将来協定期間内ニ利権契約ノ締結ヲ見ルコトヲ得スムハ日本利権業者ハ多大ノ不便ヲ受クヘク依テ今回ノ我方提案ニ同意アリタキ旨ヲ主張シタルニ「カ」ハ我方ニ於テハ撤兵完了後三ヶ月ニテ充分ナリト思考シ居ルモノナルニ今回ノ日本側提案ニ拠レハ利権契約締結期限ハ結局協約ノ効力発生ノ時ヨリ八ヶ月トナルモノナル処之ニ対シ莫斯科ニ於テハ日本側ハ事毎ニ作業継続期間ヲ延長セントシツツアリトノ疑ヲ挿ムヤモ知ルヘカラス依テ六ヶ月案トセラレタシ我方トシテモ一旦義務ヲ負担シタル以上之カ履行ヲ期スルコト勿論ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ我方今回ノ提案ハ決シテ作業継続期間ヲ延長セムトスルノ底意ヨリ来レルニアラスニ契約ヲ協定シ置カムトスルノ意志ヨリセルニ過キスト述ヘタルニ「カ」ハ暫ク思案ノ後然ラハ本日ノ日本側提案ノ five months ヲ four months ト為シ之ニテ折合フコトニ致シタシ尤モ之トテ自分

一個ノ妥協の精神ヨリ案出シタル試案ニ過キササルヲ以テ一応莫斯科ノ承認ヲ経ルノ要アリト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴下ニシテ既ニ一ヶ月ヲ讓歩シ日本案ニ歩ミ寄ラレタル以上自分トシテモ特ニ妥協の精神ヲ以テ政府ノ意向ハ不明ナルモ兎ニ角四ヶ月案ヲ政府ニ支持シテ請訓スルコトトスヘシト述ヘ置ケル次第ナル処惟フニ先方ニ於テ容易ニ利権契約締結期限ヲ延長スルコトニ同意セサルハ該期間延長ト共ニ当然他方ニ於テ作業継続ノ期間延長セラ

ルルヲ懸念シ居レルニ依ルモノナルニ付テハ其点ヲモ御考量ノ上本件ニ関シテハ成ルヘク「カラハン」ノ妥協案(即チ四ヶ月)ニ応諾シ得ル様御回訓アラムコトヲ請フ

(三) 作業継続ニ関スル公文案ニ関シ本使ハ前記議定書(B)前文ニ関スル我方修正案ヲ提出スルト同時ニ我方提案公文前文ニ貴電第一八号ノ二御来示ノ修正ヲ加ヘタル案文ヲ提出シ置キタルモ議定書(B)前文ニ関スル討議ヲ終リタル後「カ」ノ to be effected within four months from the date of the complete evacuation of Northern Saghalien by Japanese troops, that is to say, from the 15th of May 1925 ナル案文ヲ提出シスノ如ク修正致シタシ

ト述ヘタルヲ以テ本使ハ政府ニ請訓スヘキ旨ヲ答ヘタリ就テハ議定書(B)前文修正問題ト共ニ御回訓アリタシ(四) 議定書(B)第一条「油田分割ノ面積問題」ニ関シ貴電第一八号ノ三御来示ノ点ヲ「カラハン」ニ尋ネタルニ「カ」ハ右ハ十五「デシアチン」ヨリ四十「デシアチン」迄ノ一定ノ同面積ヲ有スル基盤目形ト為ス趣旨ナルコト勿論ニシテ然ラスンハ日露双方ノ割合ヲ算出スルコトヲ得サルヘキ次第ナリト答ヘタリ

(四) 次ニ(イ) 議定書(B)ノ第七条「課税等ニ関スル問題」ニ関シテハ貴電第一八号ノ四御来示ノ趣旨ヲ(ロ)「ポーツマス」条約ニ関スル宣言書問題ニ関シテハ前記貴電五号御来示ノ趣旨ヲ(ハ) 議定書(A)第一条「大使館領事館問題」ノ第三項ニ関シテハ前記貴電六号御来示ノ趣旨ヲ(ニ) 条約ノ名称問題ニ関シテハ前記貴電七号御来示ノ趣旨ヲ(内) 利権契約締結ニ至ル迄ノ期間ニ対スル報効金問題ニ関シテハ貴電第二〇号(ニ) 御来示ノ趣旨ヲ夫々然ルヘク敷衍説明シ置キタルカ右ノ内(イ)(ロ)(ハ)ノ三問題ハ討議ヲ要スル問題ナル処時間ノ都合上之ヲ次回ニ譲リタリ

(六) 次キニ「カラハン」ハ協約案第六條一般利権問題ノ規定

振リハ如何ニモ露国ニ於テ利権提供ノ義務ヲ負担スルカ如クニシテ体裁上面白カラサルニ付斯ノ如ク修正方希望ストテ別電第四七号ノ通案文ヲ提出シタリ依テ該修正案ヲ閱讀シタルニ別ニ從來ノ案文ニ實質上ノ変更ヲ来スカ如キモノニ非スト思考セララルノミナラス從來ノ案文ノ other natural resources ト the territories of the Union トノ間ニ新タニ all ナル語ヲ挿入シアリ少クトモ右ノ点ニ於テハ修正案文ノ方寧ロ優レル位ナリト思考シタルヲ以テ本使ハ本条案文ハ既ニ貴我ノ間ニ協定済ト成リ居レルモノナルニ拘ハラス今ニ至リ斯ノ如キ修正ヲ施サルルニ於テハ日本政府トシテハ更ニ他ノ協定済ノ箇所ニ關シテモ貴方ヨリ修正方ノ要求ヲ提出セラレ交渉ノ進捗ニ影響スルカ如キ事アルヘキヲ懸念スルヤモ計リ難キモ本条修正案ヲ一覽スルニ別ニ實質上ニ影響スルカ如キ修正ニハ非サルモノノ如クナルヲ以テ政府ニ同意方希望ノ旨ヲ添ヘ請訓スルコトトスヘシト述ヘ置ケリ就テハ先方修正案通ニテ差支ヘ無カルヘシト存スルモ御意見一応御回示アリタシ

(別電)

応スルコトトシ five months ヲ four months ニ短縮スルコトニ同意ス但利権契約締結ノ為相当ノ時日ヲ必要トスルコトハ既報ノ通ナルニ依リ露西亜側ニテ成ルヘク早く現場調査ヲ了スルト共ニ出来得ル限り速ニ交渉ヲ開始シ以テ撤兵後四ヶ月ノ大部分ヲ右交渉期間ニ当ツル様取運ハレタキ旨先方ニ説示シ了解ヲ得置カレタシ
作業継続公文案ニ關シテモ先方修正案ニ同意セラレ差支ナシ

二九七 一月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

批准交渉ヲ待タズ条約調印後直チニ発表シタ
シトノカラハンノ意向ニ対スル意見回示方請

訓ノ件

(四八号?)
第四七号 至急極秘

一月十四日会議ノ際

(一)「カラハン」ハ条約ハ調印ヲ終レハ批准交換ヲ俟タス直ニ発表致シタシト主張シタルニ付本使ハ右ハ一応政府ニ照会スル必要アリト答ヘ置キタリ就テハ右ニ關シ御意見御回示アリタシ

一一 日ソ基本条約締結關係 二九七 二九八

一月十六日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第四七号
カラハン提出一般利権ニ關スル修正案文

第四七号 別電

In the interest of promoting economic relations between the two countries, and taking into consideration the needs of Japan with regard to natural resources, the Government of the Union of Soviet Socialist Republics is willing to grant to the subjects or juridical persons of Japan concessions for the exploitation of minerals, forests and other natural resources in all the territories of the Union of Soviet Socialist Republics.

二九六 一月十六日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

利権契約締結期間及ビ作業継続公文案ニツキ

回訓ノ件

第三五号 極秘
貴電第四六号中

議定書(二)前文ニ關スル先方提案ニハ特ニ妥協の精神ヲ以テ

(二)日露双方提案漏洩ノ件ニ關スル貴電第一四号御来示ノ趣旨ノ大体ヲ「カラハン」ニ説明シ夫レトナク詰リタルニ

「カ」ハ新聞記者ハ材料ノ蒐集ニ熱中シツツアルヲ以テ恐クハ本件ノ如キモ各方面ヨリ得タル断片の情報ヲ組織的ニ組立テタルモノニ過キサルヘシ尤モ本日自分ト日本新聞記者トノ「インタビュ」ニ於テ彼等ハ随分事実ト掛離レタル質問ヲ発シ居リタル事実ヨリ察スルニ問題ニ依リテハ彼等ノ知識モ曖昧ナルモノノ如シ

何レニスルモ交渉ノ末期ニ入レル此ノ際熱狂的ナル新聞記者ニ対シテ全然交渉ノ内容ヲ隱蔽セントスルハ不可能事ニ属スヘシ云々ト答ヘ居タリ

(三)尚貴電第一二号御回示ノ次第(条約文用語ノ件)ヲ「カ」ニ説明シ置キタリ

編註 一月十一日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第二九号(二八四文書) 編註参照

二九八 一月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

委任狀下付至急取計方希望ノ件

第五二号 極秘

往電第三八号ニ関シ

十六日ノ會議ニ於テ「カラハン」ハ御委任状御下付ノ電報ニ接シタリヤト尋ネタルニ付未タ接到セサル旨答ヘタル処実ハ本使ニ於テ御委任状ノ電報ニ接シタル節ハ直ニ莫斯科ニ其趣ヲ電報シテ未解決ノ各問題ニ対スル同政府結局ノ意向ヲ確ムル所存ナリト述ヘ居リ又二月中旬ニ於テ條約ノ効力ヲ發生セシメムトセハ來週中ニハ是非共調印ノ必要有之次第ナルニ付テハ折角御取運中トハ存スルモ猶此上トモ至急御取計ヲ希望ス

二九九 一月十七日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

一般利権問題ニ関スル規定ニツキ回訓ノ件

第三八号 至急極秘

貴電第四六号第六項(別電第四七号)ニ関シ

先方修正案ニ同意セラレ差支ナシ但シ單ニ字句整理ノ為 the subjects or juridical persons of Japan ヲ Japanese subjects, companies or associations ト改メラレタシ

三〇〇 一月十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

條約ノ前文ノ修正案ニ対シカラハン異議ナキ
旨等報告ノ件

別電 一月十七日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電
報第五六号
條約ノ前文ニ関スル修正案

第五五号 至急極秘 (一月十八日接受)

往電第四六号ニ関シ

一月十六日ノ會議ニ於テ

(一)一月十日ノ會議ニ於テ露国側ヨリ提出アリタル條約ノ前文(往電第三一号(內参照))ノ不完全ナル箇所ニ修正ヲ加ヘ別電第五六号ノ通ノモノヲ提出シタルニ「カラハン」ハ右ニ異議ナキ旨ヲ答ヘタリ

(二)調印ニ関スル「プロトコール」ニ関シ貴電第二一号御來示ノ修正案文(但右ノ内ニ於テ言及セラレタル客年八月二十九日付覺書ハ未タ訂正ヲ加ヘサルニ依リ元通りノ日付トナシアリ)ヲ提出シタルニ「カラハン」ハ右ニ異議ナキ旨答ヘタリ

(三)無線電信問題ニ関シ貴電第二四号(一)御來示ノ修正案文ヲ提出シタルニ「カラハン」ハ之ニテ大体異議ナキモ只單ニ「個人經營ノモノヲ許サス云々」トアル処之ニテハ日

本政府經營ノモノナラハ許ストノ意味ニモ解セラルルノ疑ナキニアラスト述ヘタルヲ以テ本使ハ斯ノ如キ疑ハ無用ナリ蓋シ何レノ國ノ國法ニ於テモ私營ヲ許サス官營ニ限ルト云ヘハ夫ハ自國ノ官營ヲ意味シ他國ノ官營ヲ意味セサルコト理ノ当然ナリト述ヘタルモ「カ」ハ然レトモ用語ハ正確ナルヲ可トスルヲ以テ此箇所ヲ private and foreign establishment of Wireless Station ト訂正アリタシト述ヘタリ就テハ先方希望通りノ修正ヲ加ヘ差支ナシト存スルモ一応御意見御回答アリタシ

(四)漁業協約改訂問題ニ関シ貴電第二五号御來示ノ趣旨ニ基

キ同案第一項ニ前記貴電末尾御來示ノ修正ヲ加ヘ且ツ貴電第二六号(貴電第三〇号ノ追加訂正ヲ加フ)ノ規定ヲ

第三項トシテ挿入シタル案文ヲ提出シ然ル可ク其ノ理由ヲ説明シテ同意方要望シタルニ「カ」ハ第三項規定ノ趣旨ハ議定書「(B)」第七條末段ノ「事業ノ有利ナル經營ヲ不可能ナラシムルカ如キ課税又ハ制限ヲ課セサルコト」ナル規定ニ類似シ居レル所右規定ハ我方ニ於テ少シ計リ

ノ修正(special)ナル字ヲ挿入スルコトヲ指スモノナリ)ヲ加ヘテ承諾スルコトナリ居レル所此三項モ右議定書

(五)「ベッサラビヤ」條約問題ニ関シ

(イ)往電第二五号ノ露国側提案ニ貴電第二四号ノ二御來示ノ修正ヲ加ヘタル案文ヲ提出シタルニ「カラハン」ハ今回ノ日本側提案中ニハ我方方案文中ニ存在シタル「ベ

ツサラビヤ」条約ノ批准ハ露国ニ対スル非友誼の行為ト看做ス」ナル文句ヲ削除シアル所右ハ如何ナル理由ニ基クモノナリヤト述ヘタルヲ以テ本使ハ前記貴電御来示ノ修正理由ヲ可然敷行説明シ置キタリ

(ロ) 次ニ往電第二四号我方提案ニ貴電第二四号(ニ)御来示ノ修正ヲ加ヘタル案文ヲ提出シタルニ「カ」ハ此貴公使返信ノ案文ハ一層文句ヲ緩和セラレアル所元来本問題ニ関シテハ露国側トシテハ最初ハ「ノート」ヲ貰ヒ受ケタキ意向ナリシヲ漸次譲歩シ遂ニ秘密私信ヲ以テ満足スルコトトナレルモノナリ然ルニ此私信ノ文句ヲモ更ニ緩和セントスルハ面白カラス例ヘハ steps required for its ratification ニ々ハ前回提案ノ recommending to the throne to ratify ニ比スレハ遙ニ緩和セラレアルモノナリ然レトモ之等ノ点ハ之ニ応スルコトトスヘキモ只一ヶ所 Government have no intention of proceeding ヲ Government will refrain from proceeding ト修正アリタシト述ヘタルニ付キ本使限り同意シ置キタリ就テハ御承認ヲ乞フ

(内) 宣伝禁止問題ニ関シ我方提案ニ貴電第二八号御来示ノ修

包含セラルルモノニシテ此官吏公吏ノ総計ハ多大ノ数ニ達スルモノナリ我國ニ於テモ例ヘハ鉄道ノ駅長モ助役モ齊シク(脱)之等ノ点ニ関シテハ日露両国政府間ノ懸隔ハ労働露国ト欧米諸国トノ間ノ懸隔ヨリモ遙ニ小ナルヘシト説明シ置キタルカ「カ」ハ本問題ニ関シテハ次回ニ於テ返答スルコトトスヘク莫斯科ニ請訓スルコトナク此所限リニテ何トカ解決案ヲ発見スルコトニ努力スヘシト述ヘタリ

(ハ) 「カ」ハ本使ニ委任状ノ御下付アリタリヤト質シタルヲ以テ本使ハ未タ御下付ナキ旨ヲ答ヘタルニ「カ」ハ各種ノ事情ヲ考慮スルニ条約ノ調印ハ来週中ニ行フノ必要アル所貴公使ニ御委任状ノ御下付アリタル場合ニハ直ニ莫斯科ニ対シテ未解決問題ニ対シ決定方ヲ督促スルコトヲ得ヘク又莫斯科トシテモ總テノ準備整ヒ何時ニテモ調印シ得ル状態トナルニ於テハ自然問題ノ解決ヲ急クコトトナルヘシ過般来莫斯科ハ条約ノ調印ニハ日本ノ枢密院ノ同意ヲ必要トスヘキヤ否ヤノ点ヲ懸念シ居リタルモノニ対シテハ其必要ナキ旨ヲ申送リタルニ次ニハ委任状ノ件ヲ心配シ委任状ノ御下付ナクンハ問題ノ解決ヲ急クノ甲

正ヲ加ヘタルモノヲ提出シ貴電第二七号御来示ノ趣旨ヲ可然敷行説明シタルニ「カ」ハ労働露国ニ在リテハ町村団体ノ吏員モ政府ノ官吏モ区別ナク皆一樣ニ公務員ニシテ又林業及鉱業ノ大部分ハ国营ナルヲ以テ其従業員モ悉ク公務員ナリ而カモ之等従業員ハ上下ノ区別ナク例ヘハ我大使館ニ在リテハ上大使ヨリ下料理人ニ至ル迄公務員ニシテ鉄道ノ工夫職工等モ亦同様ナリ從テ公務員ナルモノノ範圍ハ極メテ広汎ニシテ其総計ハ約一千万人ニモ達スヘキ所日本ニ於ケル官吏ノ数ハ僅々五万人位ナルヘキヲ以テ此規定ハ甚タ不公平ナリ依テ此点ニ関シテハ兩國ノ法制ニ適合シタル規定ヲ設クルコト必要ナリ然レトモ organization ノ点ニ付テハ日本側提案ノ趣旨ニ異存ナシ蓋シ財政の補助ヲ受ケツツアル団体ニ対シテ取締ヲ加フヘキハ当然ナレハナリ

尤モ我國ノ第三「インターナショナル」ハ全然独(脱)ニシテ労働政府ヨリ何等ノ補助ヲ受ケ居ルモノニアラサルヲ以テ其点一言シ置クヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ日本ニ於テモ市町村ノ吏員ハ所謂公吏ニシテ官吏ト公吏トハ之ヲ総称シテ官公吏ト謂ヒ皆此 public service ノ内ニ

斐ナキ旨ヲ申来レリ右様ノ事情ナルヲ以テ速ニ御下付ヲ仰ク様取計ハレタシト述ヘ居タリ

(ハ) 尚貴電第二四号ノ五(議定書「A」ノ末文ヲ第五条トスル件) 御来示ノ次第ヲ「カラハン」ニ説明シ置キタリ

(別電)

一月十七日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第五六号
条約ノ前文ニ關スル修正案

第五六号 別電 至急極秘 (一月十八日接受)

十一月十日日本側提出ノ条約文案中

as plenipotentiaries 以下 who, having communicated
迄ヲ左ノ通トス

As their plenipotentiaries, that is to say :

His Majesty the Emperor of Japan :

Mr. Kenkichi Yoshizawa, Envoy Extraordinary and
Minister Plenipotentiary at Peking, Jushi, a member
of the First Class of the Imperial Order of the Sacred
Treasure ;

The Central Executive Committee of the Union of
Soviet Socialist Republics :

Mr. Lev. Mikhailovich Karakhan,
Ambassador at Peking ;
who, having communicated

右ノ中 the Central Executive Committee of the Union
云々トセルハ露国側ノ修正ニ係ルモノニシテ又 Ambassador
ノ次ニ Extraordinary 等ノ文句無キハ之又「カ」ノ意
志ニ依ルモノニシテ労働ノ法制ハ特別ナル故斯ノ如キ文句
ハ不用ナルモノナリト述ヘ居レリ

三〇一 一月十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

彼我ノ案件殆ド解決シタルニヨリ速ニ条約調
印ノ認可ヲ得タキ件

第五七号 至急極秘

本使ニ対スル御委任状ノ御下付ヲ「カラハン」ニ於テ頻リ
ニ急キ居ル次第ハ前電ニテ御承知ノ通りナルカ十六日ノ会
議並ニ十七日「カ」ノ島田ニ対スル談話ニ由リ大体彼我ノ
話合纏リ余ス所ハ最も重要ナル油田ノ地域其ノ他一、二点
而已トナル次第ナルカ「ズウエ」炭坑ニ付テモ「カ」ノ
島田ニ対スル談話ニ依レハ讓歩セントスルモノノ如シシ猶

一兩回ノ会見ニ於テ本使ハ飽ク迄油田ノ面積ヲ固執スヘク
幸ニ先方ニ於テ讓歩セハ直ニ調印ノ段取リトナルヘク「カ」
ハ島田ニ対シ二十一日ハ「レーニン」ノ一周忌ナルヲ以テ
同日迄ニ調印ヲ完了シタキ趣ヲ熱心ニ申出テタル由ニ付油
田地域ニ関スル我方主張其他一、二ノ懸案解決スル上ハ二
十一日前ト雖モ調印シ得ル様至急御認可相成タシ尚十七日
會議統開ノ筈ニ付其結果更ニ電報スヘシ尚往電第四八号(一
ニ対シテモ至急御回訓ヲ乞フ

三〇二 一月十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

宣伝禁止問題中先方ガソノ主張ヲ固執スル場
合ハ交渉ヲ決裂シテ差支ナキヤ請訓ノ件

第六三号 大至急極秘 (一月十八日接受)

「ズウエ」炭坑ニ付テ「カラハン」ヨリ讓歩案ヲ示シタル
次第ハ往電第六四号ノ通りナルカ右ニ付テハ篤ト先方ノ説
明ヲ聞キタル上先方ノ誠意ヲ認メ得ヘキニ付テハ之ニ同意
スヘク又油田ニ就テハ本使ニ於テ飽ク迄強硬ノ態度ヲ示ス
ヘク其結果油田ニ就テモ亦我方主張ヲ貫徹スルニ於テハ殘
余問題ノ内最も重要ナルモノハ宣伝禁止ニ関スル条文ニシ

テ若シ先方ニ於テ飽ク迄公務員ノ行動ヲ該条文ヨリ削除ス
ルコトヲ固執スル場合ニハ決裂ヲ宣言シテ差支ナキヤ大至
急電訓ヲ請フ

三〇三 一月十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

カラハンノ応諾シタル条項及ビ未ダ提出ニ応
ゼザルモノノ内容報告ノ件

第六四号 至急極秘 (一月十八日接受)

一月十七日「カラハン」ハ左記我方提案ニ応諾シタリ案文
別途郵送セリ

(一) 調印議定書 (一月十六日本使提出)

(二) 協約名称 (客年八月四日本使提出)

(三) 協約前文 (一月十六日同上)

(四) 協約第一条 (客年八月四日同上)

(五) 協約第二条 (客年八月四日同上但第三項削除ノ分)

(六) 協約第六条 (貴電第三八号御来示ノ分)

(七) 協約第七条 (客年八月四日本使提出)

(八) 議定書「A」前文(同上)

(九) 議定書「A」第一条(客年十月二十四日確定其後 reason-

一一 日ソ基本条約締結關係 三〇三

able facilities ト改メタル分)

(十) 同上第二条 (客年九月二十七日日本使提出、其後債權ト請
求權ノ二条文ヲ一条文トナシタルモノ)

(十一) 同上第三条 (一月十四日本使提出)

(十二) 同上第四条 (客年八月四日同上)

(十三) 同上第五条 (同上、貴電第二四号ニ依リ第五条トセルモ
ノ)

(十四) 議定書「B」前文 (一月十四日本使提出但五ヶ月ヲ容ル
ル様目下莫斯科ニ電請中ナリト尚貴電第三五号ハ本使ニ
於テ未タ提出シ居ラス)

(十五) 議定書「B」四五六及八 (客年十二月二十七日日本使提
出)

(十六) 作業継続「ノート」一二及三 (客年十二月二十七日日本使
提出)

(十七) 「ポーツマス」条約ニ関スル声明 (客年十二月二十七日
本使提出其後「デクラレション」ニ改メタルモノ)

(十八) 内港事件陳謝文 (客年十二月二十七日日本使提出)

(十九) 「ベッサラビヤ」条約ニ関スル往復「ノート」(一月十
六日本使提出当時「カラハン」修正ヲ申出テタルモ十七

四六三

日ニ至リ完全ニ我案ニ応諾シタリ

尚右ノ外「カ」ハ(一)議定書「B」三(客年十二月二十七日日本使提出ノ案)ニ対シ莫斯科ハ「ズウエ」地域ニ於テ一定区域ノ炭田経営利権ヲ許スルコトヲ応諾シタル旨並ニ(二)尼港事件類似事件ニ関スル反対「ノート」ハ之ヲ要求セサルコトニ決定シタル旨言明シタリ
次ニ「カラハン」ニ於テ未タ何等提出ニ応セサルモノ左ノ如シ

(一)協約第三条漁業協約改定ノ件(一月十六日日本使提出)

(二)協約第四条(二)中ノ on condition of reciprocity ニ反対ス(但「カ」ハ我方ニ於テ右字句ヲ除去スルニ於テハ客年十一月十日我方提案ニ同意ナリト謂ヘリ)

(三)協約第五条宣伝禁止ノ件(一月十六日日本使提出)

(四)議定書「B」一二三及七(十二月二十七日日本使提出)

(五)作業継続「ノート」前文末尾ニ「来ル五月十五日ヨリ云云」ト修正シタシトノコトナルカ本件ハ貴電第三五号末尾ヲ以テ已ニ同意ヲ得居レルモノナリ

内作業継続「ノート」ノ四 private ノ後ニ and foreign ノ二字ヲ挿入シタシト

約調印ノ準備ニ入リタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ炭田ニ関スル本日ノ露国側提案ニ就テハ篤ト研究ノ上返答スヘキ処炭田ノミナラス油田ニ関シテモ我方要求ヲ容レラルルニアラスンハ到底条約ヲ取纏ムルコト不可能ナリト述ヘ該問題ニ移レリ(先方提案中「ドウエ」ニ関スル規定ノ書振リ不明ノ廉アルモ此点ニ付テハ更ニ明日「カ」ニ確カメタル上差支ナシト認ムルニ於テハ同意スル所存ナリ)

(三)油田問題ニ関シ本使ハ日本政府ハ炭田同様油田ニモ重キヲ置ケルモノニシテ此問題ニ関シテハ最初ハ全部ニ対スル要求ヲナシ次ニ六割ニ譲歩シ遂ニ五割ニ減シタルモノナルニ露国側ニ於テハ二割ヨリ四割、四割五分トナセルモノナルカ残リノ五分ニ対シテハ未タ容易ニ譲歩セサル処此最後ノ五分ヲ譲歩セラルルニアラスンハ到底交渉成立ノ見込ナシ此点ニ関シテハ自分ハ政府ヨリ頗ル強硬ナル訓令ニ接シ居レル次第ナリ我方要求ハ決シテ油田全部ノ許与ヲ要求スルニアラス現ニ経営中ノ加之限ラレタル面積ノ五割ヲ要求スルニ過キササルヲ以テ是非共譲歩アリタク然ラスンハ炭田ニ関スル折角ノ譲歩モ水泡ニ帰スカ

三〇四 一月十八日 在中国芳沢公使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

炭田、油田、宣伝禁止等ノ問題ニ関スルカラ

ハントノ交渉ノ模様報告ノ件

別電 一月十八日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電

報第六五号

北樺太炭田利権ニ関スル議定書案文

第六二号 至急極秘

往電第五五号ニ関シ

一月十七日ノ會議ニ於テ

(一)一般利権問題(条約)第六条ニ関シ一月十四日ノ先方提案ニ貴電第三八号御来示ノ修正ヲ加ヘタルモノヲ提出シタルニ「カラハン」ハ右ニ同意スル旨答ヘタリ

(二)油田区域問題ニ関シ「カラハン」ハ本日來訪ノ島田領事ト会見ノ際申述ヘ置キタル通り露国側ニ於テハ今回特ニ尼港事件類似事件ニ関スル反対公文ノ要求ヲ撤回シ且ツ「ドウエ」地域(Doue District)ニ於ケル一定区域ノ炭田ヲ許スルコトニ決定セリト述ヘ別電第六五号ノ通案文(議定書第三条)ヲ提出シ露国側トシテモ斯ノ如ク多大ノ譲歩ヲナシタル処更ニ二三ノ小問題ヲ解決シ速ニ条

如キコトナキヤヲ恐ルル次第ナリ油田ニ関シテハ自分ハ未タ嘗テ妥協ノ余地アルカ如キ口吻サヘ洩シタルコトナキ筈ナリト述ヘタルニ「カ」ハ一二速ニ交渉ヲ取纏メントスルノ誠意ニ依リ極力莫斯科ヲ動カシ漸ク炭田ニ関スル譲歩ノ訓令ヲ得タル次第ナルニ日本側ニ於テハ漁業問題宣伝禁止問題ノ如キ謂ハハ二流ノ問題ニ関シテモ依然強硬ナル態度ヲ固持シタル次第ニシテ斯ノ如ンハ自分ノ立場トシテ油田ニ関シ更ニ莫斯科ニ請訓スルコト困難ナル次第ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ漁業及宣伝禁止問題等ハ二流ノ問題ナリト云フモ何レモ皆緊切ナル国家ノ必要ヨリ來タレル提案ニシテ所謂一流ノ問題トノ間ニ輕重ノ差ヲ付スルコト困難ナルモノアリ依テ輕々ニ処理スルコトヲ得サル次第ナルカ之等ノ点ニ関シテハ別ニ討議スルコトトスヘキモ油田問題ニ就テハ更ニ申述ヘタキコトアリ元來自分ハ機ヲ見テ油田ニ関スル日本政府ノ主張ノ強硬ナルコトヲ充分貴下ニ會得セシメンコトヲ希望シ居リタルモノナル処本日測ラスモ本問題ニ入りタルヲ以テ申述ヘタル次第ナリ然レトモ本問題ハ簡單ナリ要ハ貴方ニ於テ更ニ五分ヲ譲歩セラルルノミナリ万一此点ニ関シ

テ我方希望ニ副フコトヲ得ストセンカ其ノ結果ノ如何ハ自分トシテハ明ニ予見シ得ル処ナリ

願クハ貴下ニ於テモ自分ノ態度ヨリシテ問題ノ性質ヲ篤ト御諒察アリタシト述ヘタルニ「カ」ハ油田問題ニ関シテハ之レ以上討議スルコトヲ中止ス可シ漁業問題ニ関シテハ今晩帰宅後解決案ヲ研究スヘク宣伝禁止ニ関シテモ妥協案ヲ発見スルニ努力スヘシ莫斯科ニ対シテハ日本側ハ依然油田ノ五分ヲ要求シ居ルコトヲ報告ス可シ打明ケテ申セハ油田ノ五分ハ實質上ヨリ見レハ差シタル重要問題ニハアラス單ニ主義上ヨリ喧シク論シツツアルニ過キス本件ハ莫斯科ニ報告スヘキニ付之レ以上討議セラレサランコトヲ希望スト述ヘタルヲ以テ本使ハ油田問題ニ関シ更ニ此上トモ御尽力アリタク油田問題ニシテ纏ルニ於テハ条約ノ調印ハ急転直下のニ促進セラルヘシト思考ス貴下ハ「レーニン」ノ一周忌迄ニ調印ヲ取運ヒ度キ希望ナル由ナルカ右ハ尤ノ次第ナルヲ以テ可成右御希望ニ応シタキ所存ニテ速ニ委任状ノ御下付アルヘキ様督促ノ電報ヲ發シタル様ノ次第ナルヲ以テ我方誠意モ諒トセラレタシト述ヘタリ

(四) 宣伝禁止問題ニ関シ「カ」ハ本問題ニ関シテモ莫斯科ヨリ回訓アリタルカ自分限りニテ解決ヲ計ルコト困難ナラサルヘシト思考ス尤本問題ニ関シ日本側カ其ノ提案ヲ固執セラルルハ我方ニ取り云ハハ失礼ナリト云フヘク此点ニ関シテハ何トカ解決案ヲ発見スルコト必要ナリ思フニ日本側提案ニ関シ考究スヘキ点ハ單ニ書方ノ問題ヨリハ寧ロ其ノ解釈問題ナルヘキ処労働露国トシテハ官吏カ退庁後ニナス演説又ハ議論ヲモ禁スルコト不可能ニシテ此点ニ関シ何トカ妥協点ヲ発見スルコト致シタシ若シ All persons in any public service for them ヲ削除スルコトシ同時ニ我方ニ於テ追加シタル第二項ハ之レヲ削除スルコトセララルニ於テハ好都合ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ露国政府ノ監督下ニ在ル公務員カ日本ノ治安ヲ妨害スルカ如キ行動アリタル場合ニハ政府力之ヲ取締ルヘキハ事理ノ当然ニシテ日本政府ニ於テモ此取締ヲ行フヘキニ独り露国ニ於テ之ヲ行ハサルハ不公平ナラスヤト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ具体的ニ云ヘハ如何ナル行動ヲ以テ対手国ノ安寧秩序ヲ攪乱シタルモノナリト云フヘキヤト糾シタルヲ以テ本使ハ右ノ如キ行動ニハ自ラ

輕重ノ差アルヘキモ例ヘハ日本官吏ニシテ露国ノ政体ヲ誹謗シ又ハ之レカ顛覆ヲ計ルモノアル場合ニハ之ニ譴責罰俸免官等ノ制裁ヲ加ヘントスルモノナリ而シテ之等ハ刑罰トハ異レルヲ以テ裁判ノ必要ナキモノナリ若叙上ノ如キ行動ニ対シテ何等ノ制裁ヲ加ヘストセハ露国モ恐ラクハ不満ナルヘク此種ノ取締ハ苟クモ国交樹立シタル以上必要ナルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ労働露国ニアリテモ取締ノ法令アリ官吏カ相手国ノ政体ヲ顛覆スルカ如キ陰謀ニ加担シタル場合ニハ之ヲ取締ルノ方法アル而已ナラス斯ノ如キ行為ハ一般刑法規ノ見地ヨリ侮辱罪ヲ構成スヘク之等ハ条約ヲ以テ規定スル迄モナク取締ノ方法アルモノナリ然レトモ官吏ナルノ故ヲ以テ相手国ノ国情制度等ニ対シ批評ヲ加フルコトヲモ禁スヘシトスルハ到底不可能ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ我方提案ノ趣旨ハ相手国ノ制(度)ニ対スル批評迄ヲモ禁セントスルモノニアラス相手国ノ安寧秩序ヲ害スル程度ニ達シタル行為ヲ取締ラントスルモノニ過キスト述ヘタルニ「カ」ハ

手国ノ安寧ニ影響スルカ如キ場合ニハ之ヲ取締ルノ必要アルヘシ要ハ相手国ノ秩序ヲ攪乱スルノ程度ニ達スルコトヲ要件トスルモノニシテ其程度ハ各具体的ノ場合ニ依リ判定スルヨリ外ナカルヘシ勿論個人的ニ談話シ又ハ書翰ヲ以テ意見ヲ述フルカ如キハ問フヘキ限リニアラサルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ此規定ハ将来解釈上種々ノ紛糾ヲ發生スルノ虞アリト思考スル所兎ニ角何等解決案ヲ研究スルコト必要ナリト語レリ

(四) 作業継続期限ニ関シテハ「カ」ハ日本側提案ノ五ヶ月ニ応諾スヘキ様莫斯科ニ指示シテ請訓シタルヲ以テ今晚中ニモ回訓到着スヘシト思考スト述ヘタルニ付キ貴電第三五号ノ御訓令ハ執行セサルコトセリ

尚漁業協約改定問題ニ関シ「カラハン」ハ本件ニ関シテハ莫斯科ヨリ回訓来リ之カ解決ヲ自分ニ一任セリ本問題ノ如キハ謂ハハ二流ノ問題ニシテ之ニ関シ日本側カ其主張ヲ固執セラルルハ好マシカラサル次第ナルカ自分トシテハ先般貴方提出ニ係ル第二案(貴電第七三九号末段ノ修正案ヲ指スモノナルヘシ)ニ依ルコトトスルモ一案ナ

ルヘシト思考シ居ル次第ナリト語レリ

(別電)

一月十八日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第六五号
北樺太炭田利権ニ関スル議定書案文

第六五号 別電

3. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of coal fields on the western coast of Northern Saghalien over a specific area which shall be determined in the Concession Contracts.

With regard to the coal fields outside the said specific area, it is also agreed that should the Government of the Union of Soviet Socialist Republics decide to offer them for foreign concession, Japanese concerns shall be afforded equal opportunity in the matter of such concession; it being understood that the Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to grant such concerns also in the Done district over a specific area to be determined

in the Concession Contracts.

三〇五 一月十八日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北樺太利権契約締結交渉ハモスクワデ行イタ
シトノ本国政府ノ回答ニ接シタル旨カラハン

談話ノ件

第六七号 極秘

(一月十九日接受)

一月十八日「カラハン」ハ島田ヲ招キ左ノ通語レリ
一、北樺太利権契約締結ニ関スル交渉ハ何処ニ於テ之ヲ行フヘキカニ就キ予テ莫斯科政府ニ問合中ナリシ処今回政府ヨリ右ハ莫斯科ニ於テ致シタシトノ旨回答ニ接シタリ就テハ此旨關係ノ向ヘ予メ御通知置キ相成リタシ
二、漁業協約改訂ニ関スル商議モ同様莫斯科ニ於テ之ヲ行ヒタキ莫斯科政府ノ考ヘナリ
三、日露交渉成立後ハ直ニ「クツネツォーフ」一等書記官ヲ東京ニ任命シ大使館受領ノ任ニ當ラシムル予定ナリ
四、北樺太受領委員一行ハ四月半頃亜港ノ解氷ト共ニ浦潮方面ヨリ赴任セシムルコト然ルヘシト思考シ居レリ
右ニ対シ島田ハステハ東海岸ニ於ケル日本ノ撤兵ニ支障

ヲ(脱?)注意シタルニ「カ」ハ考究スヘシト答ヘタリ

五、協約ハ遅クモ一月二十日中ニ調印莫斯科ニ打電スルヲ要ス蓋シ一月二十一日ノ「レーニン」死亡一周年ノ当日諸新聞紙上ニ日露協約全文ヲ掲載シタシト考ヘ居レハナリ

六、自分ハ駐日大使トナルコトナク多分莫斯科本省ニ帰ルヘク駐日大使トシテハ「ヨッフエ」氏カ第一ノ候補者ナリト洩ラセリ

三〇六 一月十八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

カラハン申出ノ協約案ノ字句修正ニ関シ報告

ノ件

第六八号 至急極秘 (一月十九日接受)
一月十八日「カラハン」ハ島田ノ来訪ヲ求メ先ツ日本側御委任状ノ発給ナキ間ハ本交渉ヲ一時休止スルノ外ナシト威嚇ヲ試ミタル上

(一)往電第六五号末段「ドウェ」炭田ノ件ハ of such concession; ヲ (period) ニテ切り其次ニ第三項トシテ The Government of U. S. S. R. agrees to grant coal fields

一一 日ソ基本条約締結關係 三〇六

concession also in the Done district over a specific area to be determined in the Concession Contracts 一
為ス趣旨ナリトテ自ラ之ヲ起案シ

(二)漁業協約改訂ニ関スル協約第三条ニ関シテハ貴電第七三九号末尾ノ修正案カ又ハ一月十六日ノ芳沢公使提案ニ依ルヘキカ目下考慮中ナリ

(三)第四条第二項 and on condition of reciprocity ハ是非共削除サレタシ

(四)議定書(B)前文期限ヲ日本案通り五ヶ月ト為スコトニ同意スヘシ

(五)議定書(B)ノ(七)ニ於ケル special ナル文字ハ之カ存置ヲ主張ス

(六)作業継続「ノート」前文末段ヲ to be effected within five months from the date of the complete evacuation of Northern Saghalien by Japanese troops that is to say from the 15th of May 1925. トシタシ

(七)作業継続ノ「ノート」ノ四無線電信ノ件ニ於テ private ノ次ニ and foreign ノ二字ヲ挿入シタシ

ステ残りハ油田ノ五歩ト宣伝禁止問題トノミナルカ宣伝禁

止ニ関シテハ芳沢公使一月十六日提出ノ案文第一項ノ persons in any public service for them, and ヲ削除シ第二項ニ於テ all persons in any public service カ organizations or groups pretending to be the Government ニ参加スルコトヲ禁止スルノ案文ニ改メタシ日本ニ於テ之ニ応諾セラルルニ於テハ残ルハ油田ノ五歩問題ノミニ付同問題ニ就キ莫斯科ニ打電スヘシト語レル由ナリ
就テハ往電第六(脱)号追加トシテ電報ス

三〇七 一月十九日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

無線電信問題其ノ他各案項ニ対スル措置訓令

ノ件

別電 一月十九日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電

報第四九号

「ゾウエ」炭坑利権ニ関スル字句修正案

第四八号 至急極秘

貴電第五五号乃至第六五号及第六八号ニ関シ

一、貴電第五五号(三)所載無線電信問題ニ関スル先方修正案ニ対シテハ同意セラレ差支ナシ

二、「ゾエ」炭坑ニ関シテ貴電第六八号(一)ノ条項ハ第一項

規定ノ事項ト直接關係アル義ナルヲ以テ同条項ヲ第二項トシ字句ハ別電所載(一)ノ通修正シテ挿入スルコトトシ右両項ニヨリ定メララル以外ノ地域ニ対スル機会均等ノ規定ヲ第三項トセラレタシ從テ第三項 the said specific area ヲ事態ヲ明確ニスル為メ別電所載(二)ノ通り訂正スルコトニ取計ハレタシ

三、宣伝禁止問題ニ関シテハ国交回復後ニ於テ各締約国政府カ其ノ配下ニアル公務員ノ相手国内ノ治安攪乱ノ行為ヲ取締ルヘキハ当然ノ事柄ニ属シ又我方ノ主張スル趣旨ハ各公務員カ単ニ相手国ノ政体ヲ誹謗シ又ハ之ニ対スル意見ヲ演説スルカ如キハ問フ所ニ非ス要ハ相手国ノ秩序安寧ヲ危殆ナラシムヘキ行為ヲ為サシメサルニアレハ先方カ all persons in any public service for them ノ文句ヲ削除セムトスル主張ニハ到底同意シ難シ本条文ニ対スル先方反對理由ノ一トシテ官公吏ノ数ヲ挙げ居ル処我方ニ於テモ其ノ総數ノ莫大ナルコトハ貴官ノ説明セラレタル通りニシテ且本件ハ元來主義ノ問題ニシテ斯ル數ノ多少ノ問題ニアラス苟クモ政府ノ配下ニ在ル官公吏カ友邦ノ秩序安寧ヲ危殆ナラシムル行為ヲ為スニ対シ之ヲ取

ル文字ハ既電ノ理由ニヨリ之カ挿入ニ同意スルヲ得ス
(別電)
一月十九日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第四九号

「ゾウエ」炭坑利権ニ関スル字句修正案

第四九号 別電 至急極秘

(1) The Govt. of the U.S.S.R. further agrees to grant to such Japanese concerns the concession regarding coal fields in the Doue district over a specific area to be determined in the concession contracts.
(II) outside the specific areas mentioned in the preceding two paragraphs

三〇八 一月十九日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

「ゾウエ」炭坑利権ニ関シ先方ヨリ案文送付

越ノ件

別電 一月十九日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電
報第七四号

「ゾウエ」炭坑利権ニ関スル連側提出修正案

第七三号 極秘 (一月二十日接受)

「ゾウエ」炭礦經營利権許与ノ件ニ関シ一月十九日「シエ

レシェフ」書記官ハ「カラハン」ノ命ニ依リ島田宛別電第七四号ノ如キ案文ヲ送付シ来レリ右ハ往電第五五号議定書(B)三ノ第三項ト成ルモノナリ右ニ付テハ往電第七五号「カラハン」ト会见ノ際充分確カマル所存ナリ

(別電)

一月十九日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第七四号「ツウエ」炭坑利権ニ関スルソ連側提出修正案

別電 第七四号

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees also to grant a concession for the exploitation of coal fields in the Dove district over a specific area to be determined in the Concession Contracts.

~~~~~

三〇九 一月十九日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

委任狀到着次第會議ヲ再開スベキ件

第七五号 極秘

(一月二十日接受)

「カラハン」ハ往電第六八号ノ通島田ニ対シ委任狀ノ到着迄休会シ度キ旨申出テタル様ノ次第二ニテ先方ニ於テ氣乗リ

往電第七七号ニ関シ

二十日付ニテ二十一日午前一時半本使ハ基本条約「プロトコール」(A)(B)「ベッサラビア」ニ関スル公文作業継続ニ関スル公文並調印ニ関スル「プロトコール」ニ又「カラハン」ハ右ノ外「デクラレーション」及付屬公文(尼港事件)ニ署名ヲ了セリ

猶貴電第五四号ハ既ニ彼我全文作成後接手シタルニ付遺憾乍ラ御来示ノ通りニハ取運ヒ難カリシニ付右御諒承アリタシ委細後電ニ譲ル発表ノコトハ貴電第四五号ノ通り取計ヒタリ

(付記一)

東方通信 一月二十一日第十号

北京二十一日發

◎調印後ノ芳沢全權談

芳沢全權ハ調印終了後今晚三時東方通信記者ヲ引見シテ語ル  
二十日ニ調印スル迄ニ談判力進モウトハ予期シナカッタガカラハン氏ガ午後四時ニ来テ最後ノ交渉ヲ始メタトコロ意外ニ進ンデ午後七時全部纏マリ自分モ調印ニ関スル一切ノ準備ガ整ッテ居タシカラハン氏は是非今夜調印ヲト希望シ

セサル際未解決ノ問題ニ付本使ヨリ討議ヲ求ムルモ要領ヲ得サルヘキ事明ラカナルヲ以テ十八、十九ノ兩日ハ遂ニ會議ヲ続会スルニ至ラサリシカ御委任狀到着次第直ニ開会スル所存ナリ

~~~~~

三一〇 一月二十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

カラハン我が主張全部ヲ容認セル旨報告ノ件

第七七号 大至急

(一月二十一日接受)

一月二十日ノ會議ニ於テ「カラハン」ハ我方主張全部ヲ容レタルヲ以テ二十日夜遅クトモ調印ヲ了スル筈不取敢

~~~~~

三一一 一月二十一日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

日ソ基本条約等ニ調印終了セル件

付記一 東方通信一月二十一日第十号

調印後ノ芳沢全權談

二 東方通信一月二十二日第一号

調印ノ状景

三 東方通信一月二十二日第八号

日露条約調印ニ関スルチエリン氏ノ談

第七八号 大至急極秘

タノデ之ヲ拒ム理由ヲ見出シ得ズ早速条文浄書ノ上調印スルヲ諾シ夜半十二時浄書タイプライチングヲ終リ両全權ガ之ヲ読ミ合せ終ッテリボンデ綴ジ印形ヲ捺シ今晩一時過ぎ漸ク綴方ヲ終ッテ一時半署名シタ但シ調印日付ハ二十日デアル本条約ノ内容ハ批准交換前ハ發表出来ナイガ数年来ノ懸案タル日露交渉ハ漸ク茲ニ成立シ余自身トシテハ過去一ケ年間正式非正式ヲ通ジテ交渉ヲ開クコト正ニ七十七回ソノ間時トシテハ激論三四回カラハン氏モ會議中ニ今日ハ會議ヲ止メヨウト云ツタ事サヘアルガソノ他大体ニ於テハ円滑ニ且ツ良好ナ空氣中ニ談判進捗シタ何分利権其他特種問題ニ付テハ双方ノ意見合致シテモ程度ニ於テ合致セズ非常ナ時間ヲ要シタ幸ニ本日調印ノ運びニ至ツタ事ハ日本政府並ニカラハン氏ノ妥協的精神ニ依ルモノデ誠ニ満足ノ至リデアル尼港事件ノ善後処置シベリヤニ於ケル本邦人ノ居住營業等ハ成ルベク速カニ解決ノ必要アル問題ダッタガ幸ニ今回ノ条約及ビ附屬書類ニヨリ総テ落着シタ之ニテ日露国交ハ批准交換ト同時ニ確立サル事トナツタ訳デ冀クハ兩國政府及ビ人民ニ於テコノ条約ノ明文及精神ヲ十分利用セラレン事ヲ希望スル尚今後通商条約漁業協約利権契約等ハ

引続キ両国政府ノ間ニ商議サルル事ニナツテイル併シコレ  
ラハ両国ノ国交回復シタ上ハ本条約以上ニ友好的精神ヲ以  
テ妥協成立サルルモノタルヲ疑ハヌノデアル

(付記二)

東方通信 一月二十二日第一号 北京二十一日発  
◎調印ノ状景

日露条約調印ノ二十日夜芳沢全権ハ病軀ヲ官邸樓上ノ書齋  
ニ設ケタ寢台ノ上ニ起コシテ両国多年ノ懸案解決ノ鍵ヲ握  
リナガラ晴バレットカラハン全権ニ対シタ身ニハ質素ナ和服  
ヲ纏ヒ寢台カラ足ヲ椅子ニ下シタガ負傷ノタメ連日ノ疼痛  
ニ夜モ安眠ヲ得ズシテ顔色ハ勝レテハ見エナカッタ午後七  
時愈カラハン氏ガ日本ノ最後主張ヲ容レ利権ノパーセンテ  
ージノ五十デ折合ッタ為交渉忽チ纏マリ調印準備ヲ宣言シ  
終ルヤ公使館内ハ遽カニ色メキワタツタカラハン全権ハ八  
時半準備ノ為一旦大使館ニ帰ラウトシテ階下ニ立チ構ヘタ  
日本新聞通信記者全部ニ対シ不意ニ併カモ極メテ快活ニ今  
夜調印スル旨ヲ告ゲタ斯クテ勞農側ハ全権ヲ筆頭ニセンセ  
フ、シワルサロン、イワノフ、ゲツケル、レベデフ氏等ノ  
面々打チ揃ヘ日本側ハ芳沢全権以下太田参事官有田書記官

岸田書記官島田領事飯島外交官補等顔揃ヘ本晩一時半嚴肅  
ナ空氣ノ裡ニ両全権ヲ圍繞シ青羅紗ヲ掛ケタ円テーブルノ  
上デ封蠟ノ上ニ両全権ノ捺印ガ行ハレタコレヨリ先キカラ  
ハン全権ノ熱誠ナ希望ニヨリ新聞記者ニ調印ノ光景ヲ見セ  
ル為メ調印室ニ入ルヲ許サレ茲ニ新聞社側ノ記念撮影アリ  
両全権ハ悠々トシテ薄水色羅紗紙ノ条約正文ニ署名ヲ終リ  
一同ハ高クシャンペンノ盃ヲ舉ゲ記者連モオセウ伴ニ与ツ  
タノデアルカラハン氏ノ喜色ニ対シ芳沢全権亦病軀ナガラ  
ニ莞爾トシテ一笑ヲ酬イタ条約調印ニ記者ノ立合ハサレタ  
ノハ殆ンド空前ナリト云フベシ

(付記三)

東方通信 一月二十二日第八号 モスコウ二十一日発  
◎日露条約調印ニ関スルチエリン氏ノ談

チエリン氏ハ二十一日夜レニン氏死後一年記念祭ナルニ  
拘ラズ特ニ余ヲ引見シ日露条約調印ニ関シ次ノ如ク語ッタ  
北京ニ於テ昨日調印サレタ日露条約ハ單ニソヴェート連盟  
ガ更ニ新ニ一ツノ国カラ承認サレ又從來両国政府ノ間ニ蟠  
ツテイタ懸案ガ解決サレタト云フ事實ヨリモ遙カニ大キイ  
此調印ハ日露両国民ノ友誼關係ニ入レル時代ノ出发点タ

ルノミナラズ極東ノ政局及全世界政治の政局ノ一轉移デア  
ル吾々ニ取リ此条約ハ外国出兵ト国民戦争其他一般的ニ存  
在シタ未解決ナ問題ノ終局ヲ意味シ極東ニ於ケル政治關係  
ノ發達及東洋諸国民トノ友誼關係設定ノ成功デアルウラジ  
オストツクカラ日本軍ガ撤兵シタ時レニン氏ハモスコウ大  
劇場デ演説シ大拍手ノ裡ニ之レデ浦潮ハ我々ノモノニナツ  
タト叫ンダノヲ記憶スル而シ今ヤレニン死シテ一年完全ニ  
ウラジオストツクハ吾々ノモノトナリ其隣接国タル日本ト  
平和親善ノ關係ニ入ッタノデアアル日本ニ取リテモ此条約ハ  
日本ニ何等カ危険ノ起レル際其背後ニ新ナル親交的友国ガ  
生レタコトヲ意味スルノデアアル半年前ニ我々ハ支那國民ト  
友誼關係ヲ設定シ民族自立主義ノ下ニ兄弟的親善ヲ固メ之  
ニ依リソヴェート連盟ノ政治ハ急速ニ進展シタ支那ニ於ケ  
ル開放運動ハ日露親善關係ノ設定ニ依リ益々円満ニ發展ス  
ルデアラウ日本トノ条約締結ハ今日マデソヴェート連盟國  
民ノ常ニ希望セルモノノ実現デアアル日本ノ卓見ナル政治家  
ハソヴェート連盟トノ親善關係ノ重大ナル意義ヲ久シキ以  
前カラ解シテイタ帝政露國ガ朝鮮ニ於テ露骨ナル侵略政策  
ヲ採リ始メタ時代ニ於テモ日本ノ政治家ハ久シイ間露國ト

ノ親善關係ヲ維持セント努力シタ丁度余ハ昨日条約調印ノ  
電報ヲ待チ詫ビツツ林大使ノ追想録ヲ読ンダガ之レニムラ  
ビヨフ外相時代ニ日本カ帝政露國ト協調ヲ欲シタコトガ書  
カレテアル又トルコニ居タローゼン男ノ追想記ヲ読デモ如  
何ニ日本カ當時強ク露國トノ協調ヲ求メテイタカガ良ク解  
ル而シ帝政政府ハ傲慢ナル態度ヲ以テ約ヲ破リ朝鮮ノ内政  
干涉ヲナシ遂ニ日本政府ヲシテ從來ノ政策ヲ放棄シ永ク日  
英同盟ヲ結バシムルノ基礎ヲ作ッタ斯ク露國帝政政府ハ常  
ニ日本ニ対シ飽クナキ侵略主義ニ依リ攻勢ヲ取ツタ然ルニ  
露國帝政政府倒潰シ全世界ニ対シ平和ト親善ヲ希望スル所  
ノソヴェート政府ガ生レテ後數年間ハ却ツテ日本ガ攻勢ニ  
出デ宣戰ノ布告ヲセズシテ吾人ヲ猛烈ニ攻撃シタ此時代ガ  
終リヲ告ゲヨッフエ氏ガソヴェート露國代表トシテ日本ノ  
士ニ最初ノ跡ヲ印スルヤ日本國民カラ非常ノ歡迎ヲ受ケタ  
事實ハ吾人ヲシテ日本國民ガ如何ニ露國トノ親善ヲ要求シ  
テ居ルカヲ明白ニ認メシメタ

日本國民ガヨッフエ氏ニ与ヘタ歡迎ノ声ハ今度ノ契約成立  
ノ序曲デアアル爾來日本政府ハ態度ヲ變ヘソレ以前ノ會議ニ  
於ケル不愉快ナ空氣ハ一掃サレタノデアアル吾々ハ今度ノ条

約ヲ俟タズ既ニ日本トノ間ニ經濟問題ニ於テ或程度ノ經驗ヲ持テル極東ノ漁区ハ殆ンド古イ習慣ノ如ク日本人ニ貸下ガ其結果ハ非常ニ満足スベキ状態ト云ヘルコレハ其第一歩デアッテ吾々ハ他ノ各方面デモ經濟事業ヲ讓歩シテ日本人ノ經濟の興味ヲ満足サセルコトガ出来ルト信ズル吾々ノ國家制度ト日本ノ國家制度トノ間ニハ非常ニ大ナル差違アリ之レハ兩國ノ政治の原則ノ相違ヲ来スコトニナルノデアルガ日本政府ハ我々ニ對シ信義の態度ヲ執ルコトヲ信ズルト同時ニ日本モ亦此問題ニ於テ吾人ニ信頼スル事ガデキル兩國ハ勿論條約及親善の關係ニヨリ生ズル義務ヲ尊重シ内政不干渉主義ヲ遵奉スルコトカ保障サレルデアロウ二十日調印サレタ條約ハ其親善關係ノ第一歩デアッテ此條約締結ノ結果ハ世界政治の全局ニ非常ニ深い影響ヲ与ヘルダロウト信ズル

三二二 一月二十一日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

カラハントノ間ノ最終の折衝内容報告ノ件

第七九号 至急極秘

往電第六二号ニ関シ

ハ機會均等ノ規定ハ「ドウエ」ニモ及フコトナルヲ以テ從來ノ規定ヨリモ露國側ニ不利益ナリト述ヘ其他不服ヲ唱ヘタルモ結局之ニモ異議ナキ旨ヲ述ヘタリ

(四) 油田区域問題ニ関シ本使ハ我方主張ハ斷シテ變更スルコトヲ得ス本件ニ関シテハ最早理由ヲ説明スルノ必要モナカルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ本問題ハ我方ニ於テ讓歩スルコト困難ナリ今回貴公使ニ御委任狀ノ御下付アリタルハ四割五分ニテ異議ナク之ニテ協約ヲ取纏メントスル意思ニ由ルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ我方トシテハ露國側ニ於テ当然我方要求ニ応セラルヘキヲ予見シタルモノニシテ五割ヨリハ斷シテ一步タリトモ讓歩スルコトヲ得スト答ヘタルニ「カ」ハ然ラハ一ニ協約ヲ取纏メントスルノ誠意ヨリ自分一個ノ危險ニ於テ日本側要求ニ応スルコトト致スヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ満足ノ意ヲ表シタリ

(五) 漁業協約改定問題(協約第三条)ニ関シ「カラハン」ハ前回大体ノ意向ヲ申述ヘ置ケル通り我方トシテハ十二月二十七日日本側提出ノ他ノ一案即チ各締結國ノ法律云々ノ文句全然ナキ案ヲ取ル旨ヲ述ヘ貴電第七三九号末尾ノ修正案ニ同意セリ

一月二十日ノ會議ニ於テ本使ハ御委任狀原文及英訳文到着シタルニ由リ目下写作成中ナル旨ヲ告ケタルニ「カラハン」ハ満足ノ意ヲ表シ是非トモ本日中ニ調印ヲ行ヒタキ旨述ヘタリ次テ

(一) 本使ハ客年八月二十九日我方提出ニ係ル現業調書ハ當時不完全ナル材料ニ由リ作成シタルモノ而已ナラス其ノ後數ヶ月ノ時日ノ經過ニ依リ必然ニ變更ヲ来シタルニ由リ之カ訂正ヲ必要トスルニ至リタル旨政府ヨリ電訓シ来リタリト述ヘ貴電第九号御来示ニ基キ修正ヲ加ヘタル現業調書ヲ提出シ尚調印ノ日ヲ以テ本調書ノ日付ト致シタリト述ヘタルニ「カ」ハ多少之ニ不服ノ口吻ヲ洩シタルモ結局之ニ同意ヲ表シ只日付ノ修正ハ協約ノ他ノ部類ニモ影響シ面倒ナルヲ以テ之ヲ元通り即チ八月二十九日付ト致シ置キタキ旨ヲ述ヘタルヲ以テ本使ハ之ニ異議ナキ旨ヲ答ヘタリ

(二) 次ニ本使ハ貴電第四八号(一)御来示ニ基キ無線電信問題ニ関スル露國側修正案ニ異議ナキ旨ヲ答ヘタリ

(三) 次ニ「ドウエ」炭坑ニ関シ本使ハ貴電第四八号(二)(貴電第四九号ヲ含ム)御来示ニ基キ作製シタル議定書「B」第三条修正案ヲ提出シタルニ「カ」ハ此ノ書キ現ハシ方ニテ

(六) 通商條約問題ニ関スル協約第四条第二項ニ関シ「カ」ハ on condition of reciprocity ヲ削除セラレタキ旨ヲ述ヘタルヲ以テ本使ハ斷シテ應シ難キ旨答ヘタルニ「カ」ハ結局我方提案通り右ノ文句ヲ存置スルコトニ同意セリ

(七) 宣傳禁止問題(協約第五条)ニ関シ本使ハ貴方ニ於テハ all persons in any public service ナル文句ノ削除ヲ希望シ居ラルル所我方トシテハ到底之ニ應シ難シト述ヘタルニ「カ」ハ日本側主張ノ強硬ナルコトハ承知セサルニアラス只此点ハ all persons in any governmental service トスルコト寧ロ正確ナラスヤ依テ此ノ書方ニ由ルコトト致シタリト述ヘタルヲ以テ本使ハ前回ニ於ケル貴下ノ説明ニ由レハ勞農露國ニ於テハ市町村吏員ヲ初メ其他ノ公務員ハ總テ政府ノ官吏ナル由ナルヲ以テ夫レ等ノ点ニモ考慮シ特ニ貴方ノ希望ヲ容レ all persons in any governmental service ト訂正スルコトトスヘキ旨ヲ答ヘタリ叙上ノ如ク勞農露國ノ法制ニ於テハ公務員ハ總テ政府ノ官吏ナル趣ナル次第モアリ且貴電第一〇号御来示ノ次第モアリ此点ハ先方ノ希望ニ応スルモ差支ヘナキモノト認メ右様取計ヒタル次第ナルニ就テハ右御承認ヲ請フ

(ハ)「ポーツマス」条約ノ効力承認ニ関シ協約第二条第一項ニ関シ「カ」ハ the U. S. S. R. recognizes ニテハ何トナク露国側カ屈辱のナルヲ以テ是非他ノ形式ニ変ヘラレタシト述フル所アリ之ニ対シ本使ハ我方ニ於テハ初メヨリ旧条約ノ効力ハ之ヲ問題トシ居ラサルニ独リ露国側ニ於テ旧条約ノ効力ヲ認メサル主義ナリトノコトナリシヲ以テ茲ニ此種ノ規定ヲ必要トスルニ至リタル次第ナルヲ以テ貴方ニ於テ一方的ニ recognize スルモノト規定スルコト妥当ニシテ何等差支ヘナキ次第ナリト説明シタルモ「カ」ハ容易ニ承知セス

種々ノ提案ヲ試ミタルカ本使モ一々之ヲ拒絶シタルニ「カ」ハ最後ニ然ラハ之ヲ the U. S. S. R. agrees トセラレタシト申出テ執拗ニ修正案ヲ希望シテ已マサリシヲ以テ本使ハ然ラハ特ニ貴方ノ希望ヲ容ルルコトトスヘシトテ the U. S. S. R. agrees that the Treaty of Portsmouth .....トスルコトニ同意セリ

(イ)議定書「B」第七条 special ナル文字ノ挿入方ニ関スル申出テハ露国ニ於テ之ヲ撤回シ右ノ箇所ハ我方提案通リトセリ

(英文)

- 二 同右日本語
- 三 交換公文、付属公文、署名議定書

第八三号

日露条約及付属書公文ハ飯島官補ヲシテ携帯二十二日夜当地発陸露滿鮮經由帰朝セシム尤モ同官ハ會議残務等多忙ニ付速ニ帰任セシメラレ度シ

(付記一)

日本国及ビ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約 (英文)

THE CONVENTION EMBODYING BASIC RULES OF THE RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE UNION OF SOVIET SOCIALIST REPUBLICS.

*Signed at Peking, January 20, 1925 (14th year of Taisho).*

*Ratified February 25, 1925.*

*Come into force February 26, 1925.*

*Promulgated February 27, 1925.*

*Ratification Exchanged at Peking, April 15, 1925.*

(ハ)作業継続ニ関スル公文中 until the conclusion 以下 provided 迄ヲ until the conclusion of the Concession Contracts to be effected within five months from the date of complete evacuation of Northern Saghalien by the Japanese troops, provided トセリ

叙上ノ通り「カラハン」ニ於テ殆ト全部我方要求ヲ容レタル次第ニテ右ハ主トシテ二十一日ノ「レーニン」一周忌ノ間ニ合セントスル彼ノ底意ニ基クコト明白ニシテ若シ本使ハ本日調印ノ儀ヲ拒絶スルニ於テハ以上ノ如ク譲歩セシムルコト不可能ト認メタルヲ以テ本使モ結局本日調印ノ儀ヲ承諾シ(屢次ノ請訓及御回訓ヲ調査シタルニ調印ヲ否ムヘキ理由ナシト認メタリ)夫レヨリ調印ニ関スル諸般ノ準備ニ取掛リ仮令夜間ニ至ルトモ調印ヲ実行スルコトトセリ

三二三 一月二十一日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

日ソ条約及ビ付属書公文ハ飯島官補ヲシテ携帶帰朝セシムル件

付記一 日本国及ビ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約

Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, desiring to promote relations of good neighbourhood and economic cooperation between them, have resolved to conclude a convention embodying basic rules in regulation of such relations and, to that end, have appointed as their Plenipotentiaries, that is to say:

His Majesty the Emperor of Japan:

Kenichi Yoshizawa, Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary to the Republic of China, Jushii, a member of the First Class of the Imperial Order of the Sacred Treasure;

The Central Executive Committee of the Union of Soviet Socialist Republics:

Lev Mikhailovitch Karakhan, Ambassador to the Republic of China;

Who, having communicated to each other their respective full powers, found to be in good and due form, have agreed as follows:

Article 1.

The High Contracting Parties agree that with the coming into force of the present Convention, diplomatic and consular relations shall be established between them.

#### Article 2.

The Union of Soviet Socialist Republics agrees that the Treaty of Portsmouth of September 5th, 1905, shall remain in full force.

It is agreed that the Treaties, Conventions and Agreements, other than the said Treaty of Portsmouth, which were concluded between Japan and Russia prior to November 7, 1917, shall be re-examined at a Conference to be subsequently held between the Governments of the High Contracting Parties and are liable to revision or annulment as altered circumstances may require.

#### Article 3.

The Governments of the High Contracting Parties agree that upon the coming into force of the present

Convention, they shall proceed to the revision of the Fishery Convention of 1907, taking into consideration such changes as may have taken place in the general conditions since the conclusion of the said Fishery Convention.

Pending the conclusion of a convention so revised, the Government of the Union of Soviet Socialist Republics shall maintain the practices established in 1924 relating to the lease of fishery lots to Japanese subjects.

#### Article 4.

The Governments of the High Contracting Parties agree that upon the coming into force of the present Convention, they shall proceed to the conclusion of a treaty of commerce and navigation in conformity with the principles hereunder mentioned, and that pending the conclusion of such a treaty, the general intercourse between the two countries shall be regulated by those principles.

(1) The subjects or citizens of each of the High Contracting Parties shall in accordance with the laws of the country: a/ have full liberty to enter, travel and reside in the territories of the other, and b/ enjoy constant and complete protection for the safety of their lives and property.

(2) Each of the High Contracting Parties shall in accordance with the laws of the country accord in its territories to the subjects or citizens of the other, to the widest possible extent and on condition of reciprocity, the right of private ownership and the liberty to engage in commerce, navigation, industries, and other peaceful pursuits.

(3) Without prejudice to the right of each Contracting Party to regulate by its own laws the system of international trade in that country, it is understood that neither Contracting Party shall apply in discrimination against the other Party any measures of prohibition, restriction or

impost which may serve to hamper the growth of the intercourse, economic or otherwise, between the two countries, it being the intention of both Parties to place the commerce, navigation and industry of each country, as far as possible, on the footing of the most favoured nation.

The Governments of the High Contracting Parties further agree that they shall enter into negotiations, from time to time as circumstances may require, for the conclusion of special arrangements relative to commerce and navigation to adjust and to promote economic relations between the two countries.

#### Article 5.

The High Contracting Parties solemnly affirm their desire and intention to live in peace and amity with each other, scrupulously to respect the undoubted right of a State to order its own life within its own jurisdiction in its own way, to refrain and restrain all persons in any governmental service for

them, and all organisations in receipt of any financial assistance from them, from any act overt or covert liable in any way whatever to endanger the order and security in any part of the territories of Japan or the Union of Soviet Socialist Republics.

It is further agreed that neither Contracting Party shall permit the presence in the territories under its jurisdiction—(a) of organisations or groups pretending to be the Government for any part of the territories of the other Party, or (b) of alien subjects or citizens who may be found to be actually carrying on political activities for such organisations or groups.

#### Article 6.

In the interest of promoting economic relations between the two countries, and taking into consideration the needs of Japan with regard to natural resources, the Government of the Union of Soviet Socialist Republics, is willing to grant to Japanese

subjects, companies and associations concessions for the exploitation of minerals, forests and other natural resources in all the territories of the Union of Soviet Socialist Republics.

#### Article 7.

The present Convention shall be ratified.

Such ratification by each of the High Contracting Parties shall, with as little delay as possible, be communicated, through its diplomatic representative at Peking, to the Government of the other Party, and from the date of the later of such communications this Convention shall come into full force.

The formal exchange of the ratifications shall take place at Peking as soon as possible.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed the present Convention in duplicate in the English language, and have affixed thereto their seals.

Done at Peking, this Twentieth Day of January,

One Thousand Nine Hundred and Twenty-Five.

K. Yoshizawa.

L. Karakhan.

(L. S.)

(L. S.)

#### PROTOCOL (A)

Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, in proceeding this day to the signature of the Convention embodying Basic Rules of the relations between them, have deemed it advisable to regulate certain questions in relation to the said Convention, and have, through their respective Plenipotentiaries, agreed upon the following stipulations:

#### Article 1.

Each of the High Contracting Parties undertakes to place in the possession of the other Party the movable and immovable property belonging to the Embassy and Consulates of such other Party and actually existing within its own territories.

In case it is found that the land occupied by the former Russian Government at Tokyo is so situated as to cause difficulties to the town planning of Tokyo

or to the service of the public purposes, the Government of the Union of Soviet Socialist Republics shall be willing to consider the proposals which may be made by the Japanese Government looking to the removal of such difficulties.

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics shall accord to the Government of Japan all reasonable facilities in the selection of suitable sites and buildings for the Japanese Embassy and Consulates to be established in the territories of the Union of Soviet Socialist Republics.

#### Article 2.

It is agreed that all question of the debts due to the Government or subjects of Japan on account of public loans and treasury bills issued by the former Russian Governments, to wit by the Imperial Government of Russia and the Provisional Government which succeeded it, are reserved for adjustment at subsequent negotiations between the Govern-

ment of Japan and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics.

Provided that in the adjustment of such questions, the Government or subjects of Japan shall not, all other conditions being equal, be placed in any position less favourable than that which the Government of the Union of Soviet Socialist Republics may accord to the Government or nationals of any other country on similar questions.

It is also agreed that all questions relating to claims of the Government of either Party to the Government of the other, or of the nationals of either Party to the Government of the other, are reserved for adjustment at subsequent negotiations between the Government of Japan and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics.

#### Article 3.

In view of climatic conditions in Northern Saghalien preventing the immediate homeward transporta-

either of them has entered into with any third Party and which constitutes an infringement upon, or a menace to, the sovereignty, territorial rights or national safety of the other Contracting Party.

#### Article 5.

The present Protocol is to be considered as ratified with the ratification of the Convention embodying Basic Rules of the Relations between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, signed under the same date.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed the present Protocol in duplicate in the English language, and have affixed thereto their seals. Done at Peking, this Twentieth Day of January, One Thousand Nine Hundred Twenty-Five.

K. Yoshizawa. L. Karakhan.

(L. S.) (L. S.)

#### PROTOCOL (B)

The High Contracting Parties have agreed upon

tion of Japanese troops now stationed there, these troops shall be completely withdrawn from the said region by May 15, 1925.

Such withdrawal shall be commenced as soon as climatic conditions will permit it and any and all districts in Northern Saghalien so evacuated by Japanese troops shall immediately thereupon be restored in full sovereignty to the proper authorities of the Union of Soviet Socialist Republics.

The details pertaining to the transfer of administration and to the termination of the occupation shall be arranged at Alexandrovsk between the Commander of the Japanese Occupation Army and the Representatives of the Union of Soviet Socialist Republics.

#### Article 4.

The High Contracting Parties mutually declare that there actually exists no treaty or agreement of military alliance nor any other secret agreement which

the following as the basis for the Concession Contracts to be concluded within five months from the date of the complete evacuation of Northern Saghalien by Japanese troops, as provided for in Article 3 of Protocol (A) signed this day between the Plenipotentiaries of Japan and of the Union of Soviet Socialist Republics.

1. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of 50%, in area, of each of the oil fields in Northern Saghalien which are mentioned in the Memorandum submitted to the Representative of the Union by the Japanese Representative on August 29th, 1924. For the purpose of determining the area to be leased to the Japanese concerns for such exploitation, each of the said oil fields shall be divided into checker-board squares of from fifteen to forty dessiatines each, and a number

of these squares representing 50% of the whole area shall be allotted to the Japanese, it being understood that the squares to be so leased to the Japanese are, as a rule, to be non-contiguous to one another, but shall include all the wells now being drilled or worked by the Japanese. With regard to the remaining unleased lots of the oil fields mentioned in the said Memorandum, it is agreed that should the Government of the Union of Soviet Socialist Republics decide to offer such lots, wholly or in part, for foreign concession, Japanese concerns shall be afforded equal opportunity in the matter of such concession.

2. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics also agrees to authorize Japanese concerns recommended by the Government of Japan to prospect oil fields, for a period of from five to ten years, on the Eastern coast of Northern Saghalien over an area of one thousand square versts to

also agreed that should the Government of the Union of Soviet Socialist Republics decide to offer them for foreign concession, Japanese concerns shall be afforded equal opportunity in the matter of such concession.

4. The period of the concessions for the exploitation of oil and coal fields stipulated in the preceding paragraphs shall be from forty to fifty years.

5. As royalty for the said concessions, the Japanese concessionaires shall make over annually to the Government of the Union of Soviet Socialist Republics, in case of coal fields, from 5 to 8 percent of their gross output, and, in case of oil fields, from 5 to 15 percent of their gross output: provided that in the case of a gusher, the royalty may be raised up to 45 percent of its gross output.

The percentage of output thus to be made over as royalty shall be definitively fixed in the Concession Contracts and it may be graduated according to the

be selected within one year after the conclusion of the Concession Contracts, and in case oil fields shall have been established in consequence of such prospecting by the Japanese, the Concession for the exploitation of 50%, in area, of the oil fields so established shall be granted to the Japanese.

3. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of coal fields on the Western coast of Northern Saghalien over a specific area which shall be determined in the Concession Contracts. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics further agrees to grant to such Japanese concerns the concession regarding coal fields in the Doue district over a specific area to be determined in the Concession Contracts. With regard to the coal fields outside the specific area mentioned in the preceding two paragraphs, it is

scale of annual output in a manner to be defined in such Contracts.

6. The said Japanese concerns shall be permitted to fell trees needed for purpose of the enterprises and to set up various undertakings with a view to facilitating communication and transportation of materials and products. Details connected therewith shall be arranged in the Concession Contracts.

7. In consideration of the royalty abovementioned and taking also into account the disadvantages under which the enterprises are to be placed by reason of the geographical position and other general conditions of the districts affected it is agreed that the importation and exportation of any articles, materials or products needed for or obtained from such enterprises shall be permitted free of duty, and that the enterprises shall not be subjected to any such taxation or restriction as may in fact render their remunerative working impossible.

8. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics shall accord all reasonable protection and facilities to the said enterprises.

9. Details connected with the foregoing Articles shall be arranged in the Concession Contracts.

The present Protocol is to be considered as ratified with the ratification of the Convention embodying Basic Rules of the Relations between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics, signed under the same date.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed the present Protocol in duplicate in the English Language, and have affixed thereto their seals.

Done at Peking, this Twentieth Day of January, One Thousand Nine Hundred Twenty-Five.

K. Yoshizawa. L. Karakhan.  
(L. S.) (L. S.)

DECLARATION

テ記名

大正一四年(一九二五年)二月二五日批准

大正一四年(一九二五年)二月二六日実施

大正一四年(一九二五年)二月二七日公布

大正一四年(一九二五年)四月一五日北京ニ於

テ批准書交換

日本国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ハ両国間ニ善隣及経済的協力ノ関係ヲ促進セムコトヲ希望シ右関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ヲ締結スルコトニ決シ之カ為左ノ如ク其ノ全権委員ヲ任命セリ

日本国皇帝陛下

支那共和国駐劄特命全権公使從四位勲一等

芳 沢 謙 吉

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ中央執行委員會

支那共和国駐劄大使

「レフ、ミハイロヴィチ、カラハン」

右各委員ハ互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルコトヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一条 両締約国ハ本条約ノ実施ト共ニ両国間ニ外交及領

In proceeding this day to the signature of the Convention embodying the Basic Rules of the Relations between the Union of Soviet Socialist Republics and Japan, the undersigned Plenipotentiary of the Union of Soviet Socialist Republics has the honour to declare that the recognition by his Government of the validity of the Treaty of Portsmouth of September 5, 1905, does not in any way signify that the Government of the Union shares with the former Tsarist Government the political responsibility for the conclusion of the said Treaty.

L. Karakhan.  
(L. S.)

Peking.  
January 20, 1925.

(付記II)  
同右日本文

日本国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約

大正一四年(一九二五年)一月二〇日北京ニ於

事関係ノ確立セラルヘキコトヲ約ス

第二条 「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ハ千九百五年

九月五日ノ「ポーツマス」条約カ完全ニ効力ヲ存続スル

コトヲ約ス

千九百十七年十一月七日前ニ於テ日本国ト露西亞国トノ間ニ締結セラレタル条約、協約及協定ニシテ右「ポーツマス」条約以外ノモノハ両締約国ノ政府間ニ追テ開カルヘキ會議ニ於テ審査セラルヘク且變化シタル事態ノ要求スルコトアルヘキ所ニ從ヒ改訂又ハ廢棄セラレ得ヘキコトヲ約ス

第三条 両締約国ノ政府ハ本条約実施ノ上ハ千九百七年ノ漁業協約ノ締結以後一般事態ニ付發生シタルコトアルヘキ變化ヲ考量シ右漁業協約ノ改訂ヲ為スヘキコトヲ約ス右改訂協約ノ締結ニ至ル迄ノ間「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ日本国臣民ニ対スル漁区ノ貸下ニ関シ千九百二十四年ニ確立セラレタル実行方法ヲ維持スヘシ

第四条 両締約国ノ政府ハ本条約実施ノ上ハ左記ノ原則ニ從ヒ通商航海条約ノ締結ヲ為スヘク且右条約ノ締結ニ至ル迄ノ間両国間ノ一般交通ハ右原則ニ依リ律セラルヘキ

コトヲ約ス

(一) 両締約国ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ他方ノ法令ニ從ヒ  
(イ) 其ノ領域内ニ到リ、旅行シ且居住スルノ完全ナル自由ヲ有スヘク (ロ) 身体及財産ノ安全ニ対シ恒常完全ナル保護ヲ享有スヘシ

(二) 両締約国ノ一方ハ私有財産權並通商、航海、産業及其ノ他ノ平和的業務ニ従事スルノ自由ヲ最広キ範圍ニ於テ且相互条件ノ下ニ他方ノ臣民又ハ人民ニ対シ自國領域内ニ於テ自國ノ法令ニ從ヒ付与スヘシ

(三) 自國ニ於ケル國際貿易ノ制度ヲ自國ノ法令ヲ以テ定ムルノ各締約国ノ權利ヲ害スルコトナク、兩國ノ通商、航海及産業ヲ成ルヘク最惠國ノ地歩ニ置クハ兩締約國ノ意向ナルニ依リ兩締約國ハ兩國間ノ經濟上又ハ其ノ他ノ交通ノ増進ヲ妨クルニ至ルコトアルヘキ禁止、制限又ハ課金ヲ他方締約國ニ対シ差別的ニ行フコトナカルヘキモノトス

又兩締約國ノ政府ハ兩國間ニ於ケル經濟上ノ關係ヲ調整シ且促進スル為通商及航海ニ關連スル特別ノ協定ヲ締結スルノ目的ヲ以テ事態ノ要求スルコトアルヘキ所ニ從ヒ

ニ対スル利權ヲ日本國ノ臣民、会社及組合ニ許与スルノ意向ヲ有ス

第七条 本条約ハ批准セラルヘシ

各締約國ノ右批准ハ成ルヘク速ニ其ノ北京駐劄外交代表者ニ由リ他方ノ政府ニ通知セラルヘク且本条約ハ右通知中後ニ為サレタルモノノ日ヨリ完全ニ實施セラルヘシ批准書ノ正式交換ハ成ルヘク速ニ北京ニ於テ行ハルヘシ右証拠トシテ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本条約ニ通ニ署名調印セリ

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳 沢 謙 吉 (印)

エル、カラハン (印)

議 定 書 (甲)

大正一四年 (一九二五年) 一月二〇日北京ニ於テ記名

大正一四年 (一九二五年) 二月二七日公 布

日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國連邦ハ兩國間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ニ本日署名スルニ當リ同條約ニ關連スル諸問題ヲ規定スルノ有益ナルコトヲ認メ

隨時商議ヲ為スコトヲ約ス

第五條 兩締約國ハ互ニ平和及友好ノ關係ヲ維持スルコト、自國ノ法權内ニ於テ自由ニ自國ノ生活ヲ律スル當然ナル國ノ權利ヲ充分ニ尊重スルコト、公然又ハ陰密ノ何等カノ行為ニシテ苟モ日本國又ハ「ソヴィエト」社會主義共和國連邦ノ領域ノ何レカノ部分ニ於ケル秩序及安寧ヲ危殆ナラシムルコトアルヘキモノハ之ヲ為サス且締約國ノ為何等カノ政府ノ任務ニ在ル一切ノ人及締約國ヨリ何等カノ財的援助ヲ受クル一切ノ団体ヲシテ右ノ行為ヲ為サシメサルコトノ希望及意向ヲ嚴肅ニ確認ス

又締約國ハ其ノ法權内ニ在ル地域ニ於テ (イ) 他方ノ領域ノ何レカノ部分ニ対スル政府ナリト稱スル団体若ハ集團又ハ (ロ) 右団体若ハ集團ノ為政治上ノ活動ヲ現ニ行フモノト認メラルヘキ外國人タル臣民若ハ人民ノ存在ヲ許ササルヘキコトヲ約ス

第六條 兩國間ノ經濟上ノ關係ヲ促進スル為天然資源ニ關スル日本國ノ需要ヲ考量シ「ソヴィエト」社會主義共和國連邦政府ハ「ソヴィエト」社會主義共和國連邦ノ一切ノ領域内ニ於ケル鉅産、森林及其ノ他ノ天然資源ノ開發

其ノ各全權委員ニ由リ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 各締約國ハ他方ノ大使館及領事館ニ屬スル動産及不動産ニシテ自國ノ領域内ニ現存スルモノヲ右他方ニ引渡スコトヲ約ス

東京ニ於テ前露西亞國政府ノ占有シタル土地カ東京ノ都市計畫又ハ公共ノ目的ノ為ニスル事業ニ対シ支障ト為ルカ如キ位置ニ在リト認メラルル場合ニ於テハ「ソヴィエト」社會主義共和國連邦政府ハ右支障除去ノ為日本國政府ノ為スコトアルヘキ提議ヲ考慮スルノ意向アルモノトス

「ソヴィエト」社會主義共和國連邦政府ハ「ソヴィエト」社會主義共和國連邦ノ領域内ニ設置セラルヘキ日本國大使館及領事館ニ対スル相當ノ敷地及建物ノ選定ニ付一切ノ適當ナル便益ヲ日本國政府ニ与フヘシ

第二條 前露西亞國政府即チ露西亞帝國政府及之ヲ繼承シタル臨時政府ノ發行シタル公債及國庫証券ニ依リ日本國ノ政府又ハ臣民ニ対シテ負ヘル債務ニ關スル一切ノ問題ハ日本國政府ト「ソヴィエト」社會主義共和國連邦政府トノ間ノ將來ノ商議ニ於ケル調整ニ留保セラルルコトヲ

約ス

尤モ右問題ノ調整ニ當リ日本國ノ政府又ハ臣民ハ一切ノ他ノ条件ニシテ均シキニ於テハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府カ同様ノ問題ニ付他ノ何レノ國ノ政府又ハ國民ニ与フルコトアルヘキモノヨリモ不利益ナル地位ニ置カルコトナカルヘシ又締約國ノ一方ノ政府ノ他方ノ政府ニ對スル請求權又ハ締約國ノ一方ノ國民ノ他方ノ政府ニ對スル請求權ニ關スル一切ノ問題ハ日本國政府ト「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府トノ間ノ將來ノ商議ニ於ケル調整ニ留保セラルルコトヲ約ス

第三条 北「サガレン」ニ於ケル氣候ノ狀態カ現ニ同地方ニ駐屯スル日本國軍隊ノ即時本國輸送ヲ妨クルニ鑑ミ右軍隊ハ千九百二十五年五月十五日迄ニ同地方ヨリ完全ニ撤退セラルヘシ

右撤退ハ氣候ノ狀態カ之ヲ許スニ至ラハ直ニ開始セラルヘク且日本國軍隊ノ撤退シタル北「サガレン」ノ總テノ地方ハ直ニ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ當該官憲ニ完全ナル主權ニ於テ還付セラルヘシ

行政ノ引渡及占領ノ終了ニ關スル細目ハ「アレクサンド

大正一四年（一九二五年）二月二七日公 布

阿締約國ハ日本國ト「ソヴィエト」社会主義共和国連邦トノ全權委員間ニ本日署名セラレタル議定書（甲）第三条ニ規定セラレタル所ニ從ヒ日本國軍隊カ北「サガレン」ヨリ完全ニ撤退シタル日ヨリ五月内ニ締結セラルヘキ利權契約ニ對スル基礎トシテ左ノ如ク協定セリ

一 「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ日本國代表者ニ依リ千九百二十四年八月二十九日連邦ノ代表者ニ交付セラレタル覺書ニ記載セラルル北「サガレン」ニ於ケル油田ノ各ノ地積五割ノ開發ニ對スル利權ヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許与スルコトヲ約ス右開發ノ為日本國當業者ニ貸付セラルヘキ地積ヲ決定スルノ目的ヲ以テ右油田ノ各ハ各十五乃至四十「デシアティン」ノ基準目方形ニ区分セラルヘク且全地積ノ五割ニ相當スル右方形ノ數ハ日本人ニ割當テラルヘシ但シ右日本人ニ貸付セラルヘキ方形ハ原則トシテ相隣接スヘカラサルモ日本人ノ現ニ掘削又ハ作業中ナル一切ノ坑井ヲ包含スヘキモノトス右覺書ニ記載セラルル油田中貸付セラレサル残余ノ地區ニ關シテハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦

ロウスク」ニ於テ日本國占領軍司令官ト「ソヴィエト」社会主義共和国連邦代表者トノ間ニ協定セラルヘシ

第四条 阿締約國ハ其ノ一方カ何レカノ第三國ト結ヒタル軍事同盟ノ條約若ハ協定又ハ其ノ他ノ秘密協定ニシテ他方締約國ノ主權、領土權又ハ國家的安全ニ對スル侵害又ハ脅威ト成ルヘキモノノ現ニ存在セサルコトヲ互ニ声明ス

第五條 本議定書ハ同日付ヲ以テ署名セラレタル日本國及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

右証拠トシテ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書ニ通ニ署名調印セリ

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳 沢 謙 吉（印）  
エル、カラハン（印）

議 定 書（乙）

大正一四年（一九二五年）一月二〇日北京ニ於テ記名

政府カ右地區ノ全部又ハ一部ヲ外國人ノ利權ニ提供スルコトニ決スルトキハ日本國當業者ハ右利權ニ關スル事項ニ付均等ノ機會ヲ与ヘラルヘキコトヲ約ス

二 又「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ利權契約締結ノ後一年内ニ選定セラルヘキ一千平方「ヴェルス」ノ地積ニ亘リ北「サガレン」ノ東海岸ニ於テ五年乃至十年ノ期間油田ヲ調査試掘スルコトヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許可スルコトヲ約ス又油田カ日本人ニ依ル右調査試掘ノ結果確定セラレタル場合ニ於テハ右確定セラレタル油田ノ地積五割ノ開發ニ對スル利權ハ日本人ニ許与セラルヘシ

三 「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ利權契約ニ於テ決定セラルヘキ特定ノ地積ニ亘リ北「サガレン」ノ西海岸ニ於テ炭田ノ開發ニ對スル利權ヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許与スルコトヲ約ス「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ利權契約ニ於テ決定セラルヘキ特定ノ地積ニ亘リ「ドゥーエ」地方ニ於ケル炭田ニ關スル利權ヲ右日本國當業者ニ許与スルコトヲ約ス又前二項ニ掲ケラルル特定ノ地積以外ノ炭田ニ關シテハ「ソヴ

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府カ之ヲ外国人ノ利権ニ提供スルコトニ決スルトキハ日本国当業者ハ右利権ニ関スル事項ニ付均等ノ機会ヲ与ヘラルヘキコトヲ約ス

四 前諸号ニ規定セラルル油田及炭田ノ開発ニ対スル利権ノ期間ハ四十年乃至五十年タルヘシ

五 日本人タル利権取得者ハ右利権ニ対スル報償トシテ炭田ノ場合ニ於テハ其ノ総産額ノ五分乃至八分ヲ又油田ノ場合ニ於テハ其ノ総産額ノ五分乃至一割五分ヲ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ対シ毎年提供スヘシ但シ自噴油井ノ場合ニ於テハ右報償ハ其ノ総産額ノ四割五分迄之ヲ増加スルコトヲ得

報償トシテ提供セラルヘキ産額ノ割合ハ利権契約ニ於テ確定的ニ定メラルヘク且右契約中ニ定メラルヘキ方法ニ依リ年産額ノ率ニ応シ等差ヲ設ケラルヘシ

六 右日本国当業者ハ企業ノ目的ニ要スル木材ヲ伐採スルコトヲ且交通並物資及生産物ノ運輸ヲ容易ナラシムル為諸般ノ施設ヲ為スコトヲ許サルヘシ右ニ関スル細目ハ利権契約ニ於テ定メラルヘシ

七 前記ノ報償ニ鑑ミ又企業カ当該地区ノ地理上ノ位置及

其ノ他ノ一般状態ニ依リ受クヘキ不利益ヲ考量シ右企業ニ要スル又ハ之ヨリ得タル何等カノ物件、物資又ハ生産物ノ輸入及輸出ハ無税ニテ許可セラルヘク且右企業ハ其ノ収益的經營ヲ事実上不可能ナラシムルコトアルヘキ如何ナル課税又ハ制限ヲモ加ヘラルコトナカルヘキコトヲ約ス

八 「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ右企業ニ対シ一切ノ適當ナル保護及便益ヲ与フヘシ

九 前諸号ニ関連スル細目ハ利権契約ニ於テ協定セラルヘシ

本議定書ハ同日付ヲ以テ署名セラレタル日本国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

右証拠トシテ各全権委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書ニ通ニ署名調印セリ

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳 沢 謙 吉 (印)

エル、カラハン (印)

「ポーツマス」条約締結ノ責任ニ関スル声明書

大正一四年 (一九二五年) 一月二〇日北京ニ於テ

大正一四年 (一九二五年) 二月二七日告 示

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦及日本国間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ニ本日署名スルニ当リ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ全権委員タル下名ハ本国政府ニ於テ千九百五年九月五日ノ「ポーツマス」条約ノ効力ヲ承認スルコトハ同国政府ニ於テ右条約ノ締結ニ付前帝政府ト政治上ノ責任ヲ分ツコトヲ何等意味セサルコトヲ声明スルノ光榮ヲ有ス

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ

エル、カラハン (印)

(付記三)

交換公文、付属公文、署名議定書

交換公文

(來翰)

以書翰啓上致候陳者本官ハ日本国ノ全権委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日「ソヴィエト」社会主義共和国連邦

ノ全権委員ニ手交セラレタル覚書ニ記載セラルル油田及炭田ニ付北「サガレン」ニ於テ現ニ日本人ノ実行中ナル作業ハ日本国軍隊カ北「サガレン」ヨリ完全ニ撤退シタル日ヨリ五月内ニ行ハルヘキ利権契約ノ締結ニ至ル迄続行セラルヘキコトニ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ於テ同意スルコトヲ本国政府ノ名ニ於テ声明スルノ光榮ヲ有シ候但シ左記条件ハ日本人ニ依リテ遵守セラルヘキモノニ候

一 作業ハ千九百二十四年八月二十九日ノ覚書ニ掲ケラレタル地区、使用セラルル労働者及専門家ノ數、機械並其ノ他ノ条件ニ関シテハ右覚書ノ記載事項ニ厳ニ準拠シテ続行セラルヘシ

二 石油及石炭ノ如キ産出物ハ之ヲ輸出シ又ハ販売スルコトヲ得ス右作業ニ關係アル従業員及裝備ノ用ニ限り之ヲ充ツルコトヲ得ヘシ

三 「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ依リ許与セラルル作業続行ノ許可ハ将来ノ利権契約ノ規定ニ何等影響ヲ及ホササルヘシ

四 北「サガレン」ニ於ケル日本無線電信所ノ運用ニ関スル問題ハ将来ノ協定ニ留保セラルヘク且私人及外

国人ノ無線電信所設置ヲ禁止スル「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ現存法令ニ合致スル方法ニ於テ調整セラルヘシ

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ

エル、カラハン

日本国特命全權公使芳沢謙吉閣下

(往翰)

以書翰啓上致候陳者本官ハ閣下ヨリノ本日付左記ノ書翰ヲ領承スルノ光榮ヲ有シ候

本官ハ日本国ノ全權委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ全權委員ニ手交セラレタル覚書ニ記載セラルル油田及炭田ニ付北「サガレン」ニ於テ現ニ日本人ノ実行中ナル作業ハ日本国軍隊カ北「サガレン」ヨリ完全ニ撤退シタル日ヨリ五月以内ニ行ハルヘキ利權契約ノ締結ニ至ル迄続行セラルヘキコトニ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ於テ同意スルコトヲ本国政府ノ名ニ於テ声明スルノ光榮ヲ有シ候但シ左記条件ハ日本人ニ依リテ遵守セラルヘキモノニ

候

一 作業ハ千九百二十四年八月二十九日ノ覚書ニ掲ケラレタル地区、使用セラルル労働者及専門家ノ数、機械並其ノ他ノ条件ニ関シテハ右覚書ノ記載事項ニ厳ニ準拠シテ続行セラルヘシ

二 石油及石炭ノ如キ産出物ハ之ヲ輸出シ又ハ販売スルコトヲ得ス右作業ニ關係アル従業員及裝備ノ用ニ限り之ヲ充ツルコトヲ得ヘシ

三 「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ依リ許与セラルル作業続行ノ許可ハ将来ノ利權契約ノ規定ニ何等影響ヲ及ホササルヘシ

四 北「サガレン」ニ於ケル日本国無線電信所ノ運用ニ關スル問題ハ将来ノ協定ニ留保セラルヘク且私人及外人ノ無線電信所設置ヲ禁止スル「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ現存法令ニ合致スル方法ニ於テ調整セラルヘシ

本国政府ノ名ニ於テ本官ハ日本帝国政府ハ右書翰ニ全然同意ナル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候  
本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ

芳 沢 謙 吉

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦大使

「レフ、ミハイロヴィチ、カラハン」閣下

付 属 公 文

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦及日本国間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル条約ニ本日署名スルニ當リ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ全權委員タル下名ハ茲ニ日本国政府ニ対シ千九百二十年ノ「ニコラエウスク」事件ニ対スル誠実ナル遺憾ノ意ヲ表スルノ光榮ヲ有ス

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ

エル、カラハン(印)

署名議定書

支那国駐劄日本国特命全權公使芳沢謙吉及支那国駐劄「ソヴィエト」社会主義共和国連邦大使「レフ、ミハイロヴィチ、カラハン」ハ良好妥當ト認メラレタル各自ノ全權委任狀ニ基キ本日北京ニ会合シテ左ノ文書ヲ審査セリ

一 日本国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル条約

一一 日ソ基本条約締結關係 三一四

二 議定書二通

三 声明書一通

四 交換公文一件

五 付属公文一通

全權委員ハ右文書ニ掲ケラレタル總テノ用語及条項ニ同意シタルヲ以テ正式ニ各文書ニ署名調印セリ

尚両全權委員ハ日本国全權委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日「ソヴィエト」社会主義共和国連邦全權委員ニ手交セラレ且日本人カ北「サガレン」ニ於テ作業中ナル油田及炭田ノ状態ニ關スル説明ヲ掲ケタル覚書ヲ本議定書ニ添付スヘキコトヲ約ス

右証拠トシテ両締約国ノ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書二通ニ署名調印セリ

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳 沢 謙 吉(印)

エル、カラハン(印)

編註 交換公文以下英文省略

三一四 一月二十一日

在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

四九七

一月二十日ノ會議ノ際加ヘタル協約其ノ他ノ

文書ニ關シ追報ノ件

第八四号 至急極秘 (一月二十二日接受)

往電第七九号ニ關シ二十日ノ會議ニ於テ尚「レダクシヨ  
ン」ノ際ニ協約其ノ他ノ文句ニ修正ヲ加ヘタル個所アルニ  
依リ左ニ追報ス

(一) 条約前文 Minister Plenipotentiary at Peking, Jushii  
F. Minister Plenipotentiary to the Republic of China,  
Jushii ト又 Karakhan, Ambassador at Peking ト Kar-  
khan, Ambassador to the Republic of China ト正  
ヤリ

(二) 通商条約ニ關スル協約第四条第三項 it being an inten-  
tion of both Parties トノ間ニ the ヲ加ヘタリ

(三) 宣伝禁止ニ關スル協約第五条ノ冒頭ヲ The High Con-  
tracting Parties トセリ (即チ the ノ次ノ two ヲ削リ  
タルナリ) 又同条第二項(a)及(b)之ヲ夫々新章トスルコ  
トナク直接 jurisdiction ノ次ニ接続セシメタリ

(四) 一般利権問題ニ關スル協約第六条 companies or asso-  
ciation ノ or ヲ and トセルハ修正後誤リナルコトヲ發

見セルモ and ノ方我方ニ於テ有利ナル而已ナラス「カ」  
ニ於テ既ニ承諾シタル次第第二モアリ其ノ儘トナシ置ケル  
次第ナリ

(四) 協約付属議定書(A)及(B)末文ニ關シテハ貴電第五二号ヲ以  
テ in duplicate in the English Language ナル文句ノ  
挿入方御来示ノ次第アリタル所右ハ露国側ノ主張並華府  
ノ山東懸案解決ニ關スル条約ノ例ヲモ參酌シ Plenipoten-  
taries have signed the present convention ト(但シ各  
議定書ニアリテハ protocol ト) and have affixed トノ間  
ニ挿入シタリ但シ各議定書末文ノ of the High Contract-  
ing Parties ノ五字ハ貴電第五二号末段御来示ノ通り之  
ヲ削除セリ(議定書(B)ニ貴電第五四号御来示ノ通り末文  
ヲ付シタルコト勿論ナリ)

(五) 議定書(B)ノ冒頭ヲ The High Contracting Parties トセリ  
(即チ用語ノ統一ト two ヲ high ニ訂正シタルナリ)  
(六) 議定書(B)第一条 of 50%, in area, of oil fields ノ of  
oil トノ間ニ the ヲ挿入シタリ

(七) 同条 Memorandum submitted to the Russian repre-  
sentative by ヲ Memorandum submitted to the repre-

Monsieur l'Ambassadeur,

I have the honour to acknowledge on August  
29th, 1924 ナル表題ヲ付シタリ

(次ニ「カラハン」ノ公文通り記載ス但末尾ノ I avail  
myself 以下ヲ省略セルコト勿論ナリ)

on behalf of my Government, I have the honour to  
state that the Japanese Imperial Government agrees  
entirely with the said Note.

I avail myself.....

三二五 一月二十一日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

「ゾウエ」炭坑ノ数ニ關シカラハン難色ヲ示シタ  
ルニツキ増加セル分ノ仔細大至急回電方稟請ノ件

第八五号 至急極秘 (一月二十二日接受)

昨夜調印済ノ書類ハ往電第七九号ノ通りナルカ現業調書ハ  
内容複雑ナル為調印間際迄「タイプライチング」間ニ合ハ  
サリシモ「カラハン」ニ於テ承諾済ノコトニモアリ「カ」  
側ニ対スル事実上ノ引渡ハ翌日ニテモ差支ナシト同人ト打  
合ノ上二十一日「プロトコール・オブ・シグネーチュア

「(プロトコール)ハ署名済」島田「カラハン」ノ許ニ持参シタルニ同人ハ一読シタル後「ツウエ」炭坑ノ数ハ八月二十九日提出ノ調書ニハ二個トナリ居リタルニ拘ラス今日ノ分ニハ(今回ノ分モ日付ハ八月二十九日トス)五個ヲ増シ七個トナシアル処昨日ハ炭坑ノ部分ヲ疎漏ニ拝見シタル為氣付カサリシモ七個ニ増加セラレテハ自分ノ莫斯科ニ対スル面目ニ影響スルコト頗ル大ナルモノアリテ此儘ニテハ受領シ難シト為シ矢張り前回提出ノ通り二個トスルカ若ハ二個ヲ加フル位ニ止メ置カレタキ旨申出タル由ニテ本使ハ島田ヨリ其旨報告アリタルニ付「カラハン」ニ対シ既ニ一旦承諾シタル書類ニ関シ斯ノ如キ申出ヲ為スモ何等理由ナキノミナラス全然子供ラシキ言分ナルニ付同人ノ申出ハ遺憾乍ラ同意シ難キ旨島田ヲシテ説明セシメタルモ同人ニ於テ頑トシテ之ヲ聞入レサル趣ニテ本使ニ於テモ厄介ナル申出ヲ認メ其内何トカ然ルヘク之ヲ押付ケタキ(協約ハ勿論「プロトコール」(B)等ハ既ニ調印済ニテ大体ニ於テハ心配ナシト思ハルルモ)内意ナルカ右善後措置トハ別問題トシテ五個ノ分ハ僅ニ着手シタル位ナリヤ又既ニ相当長ク採炭ヲ継続シ居ルモノナリヤ本使心得迄ニ大至急御回電ヲ請フ

日露交渉開始以來長日月ニ渉リ貴官多大ノ御尽力ノ結果幸ニシテ今回ノ成功ヲ見ルニ至リシハ寔ニ欣快ノ至ニ堪ヘス此ノ機ニ於テ政府ハ貴官ノ勞ヲ謝スルト共ニ満腔ノ祝意ヲ表ス

三一八 一月二十一日

幣原外務大臣ヨリ  
在英園林、在米園吉田代理各大使、  
在奉天船津總領事宛(電報)

日ソ間交渉經過通報ノ件

合第一二号

客年往電合第二五六号ニ関シ

北京ニ於ケル日露交渉ハ十二月二十七日我方ヨリ未解決ノ問題ニ付幾分妥協の趣旨ヲ以テセル提案ヲ為シ商議ヲ進メタル結果一月二十日ニ至リ先方ハ我方主張ヲ容レタルヲ以テ同日深更調印ヲ了セリ右協定ノ内容大要左ノ通り  
一 日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約 (The Convention embodying Basic Rules of the Relations between Japan and the U. S. S. R.)

第一条 外交及領事關係ノ回復

一一 日ソ基本条約締結關係 三一八

三一六 一月二十一日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

日ソ間協定中ニ「ベッサラビア」問題ニ関スル規定アリヤトノ仏国公使ノ問ニ対シ否認シタルモノニ対スル適否回示方稟請ノ件

第八六号 (一月二十二日接受)

一月二十一日仏国公使本使見舞旁來訪ノ際「ベッサラビア」条約ニ付テハ日露間ニ何等打合セアル旨ヲ予テ承知シ居タルモ昨夜調印ノ協定中ニハ果シテ右ノ如キ規定ヲ存置スルヤ否ヤ承知シタキ旨申出タルニ付本使ハ全然之ヲ否認シ置キタリ蓋一人ノ公使ニ対シ事實ヲ語ル以上他ノ關係公使ニ対シ否認シ得サルコトナルヘキニ付右ノ如ク明白ニ否認シ置キタル次第ナルカ万一閣下ニ於テ反對ノ御意見ヲ有セラルルニ於テハ今後ノ措置振リモアリ至急其旨御電示アリタシ

三一七 一月二十一日 幣原外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛(電報)

日ソ間交渉妥結ニ対シ謝意及ビ祝意表明ノ件

第五七号

第二条 「ポーツマス」条約ノ完全ナル効力ヲ承認ス同条約以外ノ旧条約協定ハ後日會議ニ於テ審査シ改訂又ハ廢棄ス

第三条 漁業協約改訂及右改訂ニ至ル迄ノ措置ニ関スル約束

第四条 通商航海条約ノ大綱トシテ (一) 国法遵守ヲ条件トスル入国旅行居住ノ自由並身体財産ノ安全保護 (二) 国法遵守並相互主義ノ条件ノ下ニ他方ノ國民ニ対シ成ル可ク広汎ナル範圍ニ於テ私有財産權及通商航海産業其他ノ業務ニ従事スルノ自由ヲ付与スルコト (三) 自国法律ニ依リ自国貿易制度ヲ定ムル權利ハ之ヲ害セサルコトトシ兩締約国ハ各国ノ通商航海産業ヲ出来得ル限り最惠國ノ基礎ニ置クノ意図ナルニ依リ他方締約國ニ対シ兩國間ノ經濟其他ノ關係ノ發達ヲ阻礙スルカ如キ差別的ナル禁止制限又ハ課税ヲ為ササルコトノ三原則ヲ約シ通商航海条約締結迄ハ右原則ニ依リ兩國間ノ通交關係ヲ律スルコト  
第五条 宣伝禁止ノ条項トシテ兩締約國ハ互ニ他方ノ秩序安寧ヲ危殆ナラシムルコトアルヘキ行為ヲ自制スルト共ニ公務ニ服スル者及締約國ヨリ財の援助ヲ受クル団体

ヲシテ此種行為ヲ為サシメサルヲ確認シ更ニ自国法域内ニ於テ他方締約国領土ノ孰レカノ部分ニ対スル政府ナリト僭称スル団体ノ存在及此種団体ノ為ニスル外国人ノ政治的活動ヲ許ササルコトヲ約シ

第六条 日本臣民会社組合ニ対シ露国ニ於ケル鉱山森林其他ノ富源開発利権ヲ許与スヘキヲ約セル一般の規定  
第七条 批准ニ関スル規定

二付属議定書(A)

第一条 大使館領事館引渡

第二条 前露国諸政府ノ日本政府又ハ臣民ニ対スル債務問題ハ将来ノ商議ニ於テ解決スル為之ヲ留保シ且右解決ニ付テハ一切ノ他ノ条件ニシテ均等ナラハ第三国及第三国民ニ比シ不利益ナラシメサル旨ヲ露国側ヲシテ約セシメ又請求権問題ニ付テハ之ヲ相互の形式トシ同シク将来ノ商議ニ留保ス

第三条 本年五月十五日迄ニ北樺太ヨリ撤兵ヲ完了スルコト

第四条 相互ニ第三国トノ間ニ他方締約国ノ主権領土權又ハ国家的安全ニ対スル侵害又ハ脅威トナルヘキ軍事同

六「ポーツマス」条約ノ効力承認ハ勞農政府カ同条約ノ締結ニ対シ旧帝政府ト政治上ノ責任ヲ分ツコトヲ意味スルモノニアラサル旨ノ露国側声明書

七調印議定書

尚右ノ外「ベッサラビヤ」条約問題ニ関シテハ「カラハシ」ヨリ日露間ノ友好關係ニ顧ミ日本政府カ同条約ヲ批准セサルヲ信スル旨申入レ芳沢公使ヨリ本件ハ純然タル欧州問題ナルヲ考慮シ欧州調印諸国全部カ批准ヲ了セサル間ハ日本政府ハ批准ニ必要ナル措置ヲ執ラサルヘキ旨ヲ通知セル秘密私信ヲ交換シタルカ右ハ露国側ノ申出ニヨリ公表セサルコトトセリ

右御参考迄ニ電報ス

(在英大使へハ) 在欧各大使及公使へ転電アリタシ  
(奉天總領事へハ) 哈爾賓、天津及上海へ転電アリタシ

三一九 一月二十二日 在中国芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

日ソ交渉妥結ニ対スル慰勞ノ辭ニ対シ返電ノ件

第八七号

(一月二十三日接受)

貴電第五七号ニ関シ

一一 日ソ基本条約締結關係 三一九 三三〇

盟其ノ他ノ秘密協定ノ現ニ存在セサルコトヲ声明ス  
第五条 批准ニ関スル規定

三付属議定書(B)ニ於テハ北樺太ニ於ケル油田炭田利権ニ関シ将来ノ利権契約ノ基礎トシテ油田ニ付テハ現ニ日本側ニ於テ作業中ノ各油田全部ニ付其ノ地積ノ五割ヲ開発スルノ利権ヲ日本当業者ニ許与シ且現在日本側ニ於テ掘削又ハ作業中ノ油井ハ右ノ内ニ包含セシムルノ外別ニ東海岸ニ於テ一千平方露里ノ地域ニ涉リ五年乃至十年間日本当業者ニ調査試掘ヲ許シ其ノ結果確定セラレタル油田ノ五割ノ開発利権ヲ許与スルコト炭田ニ付テハ西海岸ニ於テ後日利権契約中ニ於テ決定セラルヘキ一定地積ノ炭田開発利権ヲ日本当業者ニ許与セシメ且「ゾウエ」炭坑ヲ之ニ包含セシムルコト利権ノ期限ハ四十年乃至五十年トスルコト其ノ他報効金、付帯施設、課税及制限ノ免除、保護及便宜ノ供与等ヲ規定ス

四利権契約締結ニ至ル迄ノ油田炭田ノ作業継続ニ関スル公文

五尼港事件ニ関シ勞農政府ヨリ日本政府ニ対シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表セル公文

一向御期待ニ副ハサルニ不拘御懇篤ナル御言葉ヲ賜リ誠に恐縮ニ堪ヘス尚總理大臣初メ内閣諸公ニ宜敷御執成ヲ請フ

三三〇 一月二十三日 幣原外務大臣ヨリ  
在中國芳沢公使宛(電報)

「ゾウエ」炭坑坑口数ニ関スル先方へノ回答

振訓令ノ件

第六三号 至急極秘

貴電第八五号ニ関シ

海軍ニ問合セタル処八月二十九日ノ現業調書中「ゾウエ」炭坑ノ坑口数二トアルハ当時探炭シツツアリタル坑口ノミヲ記載シタルニヨルモノナル処訂正シタル七個ハ其ノ後ニ増加シタル分ト探炭セサル坑口ヲモ合セタルモノナルカ現在探炭ヲ行ヒツツアル坑口ハ四個ニシテ作業継続期間中モ右四個ノミ探炭スヘキ趣ナルニ付先方ニ対シテハ一応前記ノ通りノ事情及坑口ハ七個現存スルコトヲ篤ト了解セシメラレタク若先方ニシテ強硬ナル態度ヲ持スルニ於テハ右様ノ事情ナルニ付調書面ノ坑口ハ四個ト記載スルコトニ取計ハレ差支ナシ

三二一 一月二十八日 在ポーランド国佐藤公使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

第三インターナショナルノ本邦ニ於ケル活動  
ヲ容認セザル旨声明スル必要ニツキ意見具申  
ノ件

第一三号 極秘

(一月三十日接受)

北京ニ於ケル日露交渉ノ成立ハ真ニ予期以上ノ成功ト存セラレ実行ハ兎モ角条約上是程ノ利益ヲ贏得タルハ欧州諸國中其ノ類ヲ見サル処ニシテ從テ之等諸國ノ嫉妬不安ヲサヘ買ハントスル傾向アルヤニ看察セラルル折柄本邦ニ取リ此際注意ヲ要スル唯一ノ事項ハ第三「インターナショナル」ノ宣伝ニ在リテ今回ノ条約中ノ宣伝禁止条項ノミヲ以テ安心出来サルハ勿論ナレト同時ニ是サヘ完全ニ防止シ得レハ先ツ安心ニシテ後ハ基本条約ヨリ生スル利益ヲ成ルヘク多ク收穫スルニ務ムレハ足ル次第ニ付テハ本件条約成立ノ機會ニ於テ帝國政府ハ茲ニ「ソビエト」連邦政府トノ国交ヲ開始スルモノナルモ第三「インターナショナル」ノ本邦ニ於ケル活動ハ断シテ之ヲ容認スル処ニ非サル旨ヲ声明セララルコト極メテ緊要ニシテ且右声明ハ同条約御批准ヲ機ト

尚本件条約成立ニ対スル当国公私ノ意見ハ未タ纏リタル發表ヲ見スト雖日露親善關係ノ回復ニ依リ一種ノ大ナル不安ノ感スルハ当然ノ成行ニシテ右ハ羅馬尼其他辺境諸國皆同様ト信セラルルニ付テハ適當ノ機會ニ於テ相當ノ方法ニ依リ右不安ヲ緩和セラルコト又必要ト看察セラル英、仏、独、羅馬尼ヘ転電セリ

## 2 枢密院ニ於ケル審査経過

三二二 二月十二日～二月二十五日 枢密院議  
事要録

日ソ基本条約ニ対スル枢密院精査委員会議事

要録

日露基本条約枢府精査委員会議事要録(極秘)  
第一回(二月十二日木午前十時ヨリ正午ニ至ル)

(一)出席者

枢府側 委員長 一木副議長

委員 井上、石黒、有松

珍田、中村、古市

一一 日ソ基本条約締結關係 三二二

シテ又相成ヘクハ帝國議會ニ於ケル同条約説明中ニ加ヘテ之ヲ為サルカ如キ事最モ機宜ヲ得タル御処置カト存ス最近当地独逸公使トノ間談中「ソビエト」ノ宣伝ニ対スル唯一ノ制裁ハ自国内ニ於ケル共產黨並ニ第三「インターナショナル」ノ直接間接ノ行動ヲ容赦無ク取締ルニ在リテ現ニ独逸ハ此方法ニ依リ「ソビエト」政府ヲ威圧シ得タリト言ヘリ本邦ニ取リテハ適切ナル好先例ト信ス尤モ莫斯科ニ於テモ本条約ノ成立ニ大満足ヲ表シ居ルモノノ如ク從テ此際「ソビエト」ノ最モ苦痛トスル前記提議ヲ為スハ或ハ折角数日月ノ苦心ノ結果贏得タル兩國親善關係ヲ一時毀損スルコトト成ルヘキモ早晚對第三「インターナショナル」問題發生スヘキハ当然ノ義ニ付寧ロ始メヨリ一撃ヲ与ヘ置クニ如カス又斯クスル事ニ依リ彼ヲシテ我ヲ侮ラ(サラ?)シムルヲ得ヘシ尤モ斯ノ如キ形式的聲明ヲ避ケ峻烈ナル共產黨取締規則ヲ制定シ着々実行手段ニ移リ以テ実益ヲ收ムルモ良策トスルヤモ図リ難シ北京交渉ノ結果兩國当局間ニ形成セラレタル「アトモスフィア」ヲ知ラサル本使ニ於テ卑見ヲ申述フルハ甚タ差出カマシキ次第ト存スルモ以上ハ辺境諸國ノ一地ニ駐在スル者ノ一意見トシテ御聴取相成度シ

平沼、松室各顧問官

二上書記官長、村上、堀江両書記官

外務省側、幣原大臣、山川、広田両局長、東郷、

佐久間両書記官

陸軍省側

宇垣陸相

法制局側 金森、杉田両参事官

外ニ加藤首相、浜尾議長列席

(二)議事経過

(イ)一木委員長開會ヲ宣シ次テ幣原大臣ヨリ日露条約締結ノ経過ヲ説明シ締結ノ理由トシテ

(1)目下ノ所勞農政府ノ地位相當確實ニシテ之ニ代ル

ヘキ見込アルモノナキコト

(2)日露兩國間ニ特殊ノ關係アルコト

ノ二点ヲ挙ケ英仏ノ諸國カ承認ヲ先ニシ懸案解決ヲ後ニスルノ態度ニ出テタルニ反シ帝國政府ハ先ツ懸案ヲ解決シ之ト同時ニ承認ヲ与フルコトトスルノ方針ヲ執リ今回首尾ヨク条約ノ締結ヲ了シタル次第ナルカ交渉ノ最難関ハ(1)宣伝禁止、(2)利権問題、(3)撤兵問題ナリキ而シテ(2)及(3)ノ問題ノ為交渉ヲ決裂セ